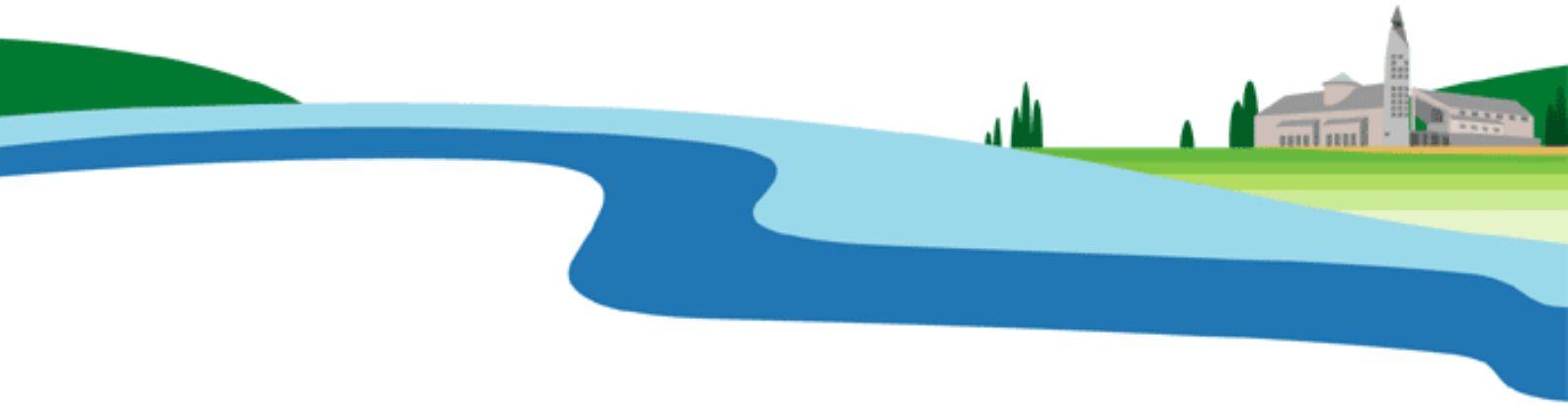
滋賀県立大学



滋賀県立大学
平成３０（２０１８）年度

講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo（https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/）で、ご確認ください。

目　　次

1110121 英語ＩＡ（活性化コース）（人文①） 渡　寛法 前期 ・・・ 1
1110122 英語ＩＢ（活性化コース）（人文①） 渡　寛法 後期 ・・・ 3
1110131 英語ＩＡ（活性化コース）（人文②） 香山　恵美※ 前期 ・・・ 5
1110132 英語ＩＢ（活性化コース）（人文②） 香山　恵美※ 後期 ・・・ 7
1110141 英語ＩＡ（活性化コース）（人文③） 佐久間　思帆※ 前期 ・・・ 9
1110142 英語ＩＢ（活性化コース）（人文③） 佐久間　思帆※ 後期 ・・・ 11
1110151 英語ＩＡ（活性化コース）（人文④） 西澤　裕一※ 前期 ・・・ 13
1110152 英語ＩＢ（活性化コース）（人文④） 西澤　裕一※ 後期 ・・・ 15
1110161 英語ＩＡ（活性化コース）（人文⑤） 関　初海※ 前期 ・・・ 17
1110162 英語ＩＢ（活性化コース）（人文⑤） 関　初海※ 後期 ・・・ 19
1110331 英語ＩＩＡ（応用コース）（人文①） Carl John Boland※ 前期 ・・・ 21
1110332 英語ＩＩＢ（応用コース）（人文①） Carl John Boland※ 後期 ・・・ 23
1110341 英語ＩＩＡ（応用コース）（人文②） Armando Duarte 前期 ・・・ 25
1110342 英語ＩＩＢ（応用コース）（人文②） Armando Duarte 後期 ・・・ 27
1110351 英語ＩＩＡ（応用コース）（人文③） Ashley Stevens※ 前期 ・・・ 29
1110352 英語ＩＩＢ（応用コース）（人文③） Ashley Stevens※ 後期 ・・・ 31
1110361 英語ＩＩＡ（応用コース）（人文④） Gordon Maclaren※ 前期 ・・・ 33
1110362 英語ＩＩＢ（応用コース）（人文④） Gordon Maclaren※ 後期 ・・・ 35
1110371 英語ＩＩＡ（応用コース）（人文⑤） Karl Hedberg※ 前期 ・・・ 37
1110372 英語ＩＩＢ（応用コース）（人文⑤） Karl Hedberg※ 後期 ・・・ 39
1110531 英語ＩＩＩＡ（充実コース）（人文①） 西澤　裕一※ 前期 ・・・ 41
1110532 英語ＩＩＩＢ（充実コース）（人文①） 西澤　裕一※ 後期 ・・・ 43
1110541 英語ＩＩＩＡ（充実コース）（人文②） 真田　満※ 前期 ・・・ 45
1110542 英語ＩＩＩＢ（充実コース）（人文②） 真田　満※ 後期 ・・・ 47
1110551 英語ＩＩＩＡ（充実コース）（人文③） Armando Duarte 前期 ・・・ 49
1110552 英語ＩＩＩＢ（充実コース）（人文③） 坂本　輝世 後期 ・・・ 51
1110561 英語ＩＩＩＡ（充実コース）（人文④） 佐久間　思帆※ 前期 ・・・ 53
1110562 英語ＩＩＩＢ（充実コース）（人文④） 佐久間　思帆※ 後期 ・・・ 55
1110571 英語ＩＩＩＡ（充実コース）（人文⑤） Carl John Boland※ 前期 ・・・ 57
1110572 英語ＩＩＩＢ（充実コース）（人文⑤） Carl John Boland※ 後期 ・・・ 59
1110741 英語ＩＶＡ（展開コース）（人文①） 神田　眞喜子 前期 ・・・ 61
1110742 英語ＩＶＢ（展開コース）（人文①） 神田　眞喜子 後期 ・・・ 63
1110751 英語ＩＶＡ（展開コース）（人文②） 渡　寛法 前期 ・・・ 65
1110752 英語ＩＶＢ（展開コース）（人文②） 渡　寛法 後期 ・・・ 67
1110761 英語ＩＶＡ（展開コース）（人文③） 菰田　真由美 前期 ・・・ 69
1110762 英語ＩＶＢ（展開コース）（人文③） 菰田　真由美 後期 ・・・ 71
1110771 英語ＩＶＡ（展開コース）（人文④） 渡　寛法 前期 ・・・ 73
1110772 英語ＩＶＢ（展開コース）（人文④） 渡　寛法 後期 ・・・ 75
1110781 英語ＩＶＡ（展開コース）（人文⑤） 坂本　輝世 前期 ・・・ 77
1110782 英語ＩＶＢ（展開コース）（人文⑤） 坂本　輝世 後期 ・・・ 79
1130090 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a) 山本　洋紀※ 前期 ・・・ 81
1130100 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b) 亀田　彰喜※ 前期 ・・・ 83
1130110 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c) 山本　洋紀※ 前期 ・・・ 85
1130120 情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d) 山本　洋紀※ 前期 ・・・ 87
1130200 情報科学概論（人文b) 亀田　彰喜※ 後期 ・・・ 89
1130210 情報科学概論（人文a) 山本　洋紀※ 後期 ・・・ 91
1130220 情報科学概論（人文c) 山本　洋紀※ 後期 ・・・ 93
1130230 情報科学概論（人文d) 亀田　彰喜※ 後期 ・・・ 95
1150390 人間探求学（地域文化） 学科教員 前期 ・・・ 97
1150451 川の未来学 村上　修一 前期 ・・・ 99
1150540 History of Japanese Cinema Carl John Boland※ 前期 ・・・ 101
1150550 Patterns in Japanese Culture & Society Carl John Boland※ 後期 ・・・ 103
1150560 Model United States of America Benjamin John McCracken※ 前期 ・・・ 105
1150570 Model United Nations Benjamin John McCracken※ 後期 ・・・ 107
1400020 アジア・地域交流論Ａ/ 鈴木　開 後期 ・・・ 109
1400030 アジア・地域交流論Ｂ/ Borjigin Burensain 前期 ・・・ 111
1400040 アジア・地域交流論Ｃ/ 土田　純子※ 後期 ・・・ 113
1400060 アジア社会論 北村　由美※ 前期 ・・・ 115
1400066 アジア文献講読Ｂ 鈴木　開 通年 ・・・ 117
1400067 アジア文献講読Ｃ 横田　祥子 通年 ・・・ 119
1400090 インド・チベット地域文化論/ 棚瀬　慈郎 後期 ・・・ 121
1400105 英書講読（地域文化） 市川　秀之 通年 ・・・ 123
1400360 環琵琶湖文化論実習（地域文化） 学科教員 通年 ・・・ 125
1400370 漢文講読 鈴木　開 通年 ・・・ 127
1400390 基層文化論 中井　均 後期 ・・・ 129
1400560 近世近江論 東　幸代 前期 ・・・ 131
1400600 芸術学 亀井　若菜 後期 ・・・ 133
1400690 現代中国論 横田　祥子 前期 ・・・ 135
1400740 考古学 中井　均 前期 ・・・ 137
1400741 考古学実習Ⅰ 髙橋　順之※ 前期 ・・・ 139
1400742 考古学実習Ⅱ 中井　均 後期 ・・・ 141
1400751 考古学特論Ａ 中井　均 後期 ・・・ 143
1400760 考古地理実習Ⅰ/ 中井　均 後期 ・・・ 145
1400770 考古地理実習ⅡＡ/ 中井　均 通年 ・・・ 147
1400780 考古地理実習ⅡＢ/ 塚本　礼仁 通年 ・・・ 149

1400890 古文書演習Ⅰ 水野　章二 前期 ・・・ 151
1400900 古文書演習Ⅱ 東　幸代 後期 ・・・ 153
1400970 自然地理学 青木　哲哉※ 前期集中 ・・・ 155
1400980 質的データ解析論 武田　俊輔 後期 ・・・ 157
1401050 社会学概論 武田　俊輔 前期 ・・・ 159
1401060 社会学史 中村　好孝 前期 ・・・ 161
1401120 社会調査実習（地域文化、人間関係） 塚本　礼仁 通年 ・・・ 163
1401125 地域社会調査実習 塚本　礼仁 通年 ・・・ 165
1401130 社会調査方法論 大野　光明 後期 ・・・ 167
1401140 社会調査論 中井　治郎※ 前期 ・・・ 169
1401500 人文地理学Ａ 塚本　礼仁 後期 ・・・ 171
1401510 人文地理学Ｂ 塚本　礼仁 後期 ・・・ 173
1401750 西洋史概説 北村　知之※ 前期集中 ・・・ 175
1401790 組織とネットワークの社会学/ 岩舘　豊※ 前期集中 ・・・ 177
1401830 卒業研究・論文（地域文化） 学科教員 通年研究 ・・・ 179
1401840 対外文化交流論Ａ 鈴木　開 前期 ・・・ 181
1401850 対外文化交流論Ｂ 土田　純子※ 前期 ・・・ 183
1401860 対外文化交流論Ｃ/ Borjigin Burensain 後期 ・・・ 185
1401900 地域経済史論 東　幸代 後期 ・・・ 187
1401920 地域研究論 萩原　和 前期 ・・・ 189
1401930 地域考古学Ａ 秋山　浩三※ 前期集中 ・・・ 191
1401940 地域考古学Ｂ 細川　修平※ 後期集中 ・・・ 193
1401980 地域と空間 市川　秀之 後期 ・・・ 195
1401990 地域文化演習Ⅰ 学科教員 通年 ・・・ 197
1402000 地域文化演習Ⅱ 学科教員 通年 ・・・ 199
1402010 地域文化演習Ⅲ 学科教員 通年 ・・・ 201
1402011 地域文化基礎演習 学科教員 後期 ・・・ 203
1402030 地域文化財論Ｂ 濱崎　一志 後期 ・・・ 205
1402050 地誌学 塚本　礼仁 前期 ・・・ 207
1402080 中国・内モンゴル地域文化論/ Borjigin Burensain 後期 ・・・ 209
1402090 中国語文献講読/ 横田　祥子 通年 ・・・ 211
1402100 中国地域文化特論 前田　尚美※ 前期 ・・・ 213
1402110 中国地域文化論 横田　祥子 後期 ・・・ 215
1402170 朝鮮地域文化特論 安田　純也※ 前期 ・・・ 217
1402190 朝鮮地域文化論Ｂ/ 河　かおる 前期 ・・・ 219
1402200 朝鮮文化論/ 河　かおる 後期 ・・・ 221
1402201 地理学実習Ⅰ 塚本　礼仁 前期 ・・・ 223
1402202 地理学実習Ⅱ 塚本　礼仁 後期 ・・・ 225
1402240 哲学概論Ａ 鞍田　崇※ 前期集中 ・・・ 227
1402360 統計学基礎 細馬　宏通 前期 ・・・ 229
1402370 東洋史概説 鈴木　開 後期 ・・・ 231
1402380 日本・地域交流特論 京樂　真帆子 後期 ・・・ 233
1402390 日本史概説 水野　章二 前期 ・・・ 235
1402400 日本社会論 武田　俊輔 後期 ・・・ 237
1402420 日本史料講読 水野　章二 通年 ・・・ 239
1402440 日本文化史論Ⅱ/ 京樂　真帆子 前期 ・・・ 241
1402442 日本文化史論Ｂ 京樂　真帆子 前期 ・・・ 243
1402450 日本文化論 京樂　真帆子 前期 ・・・ 245
1402540 人間文化論Ａ 細馬　宏通 前期 ・・・ 247
1402550 人間文化論Ｂ 小熊　猛 後期 ・・・ 249
1402560 人間文化論Ｃ 宮本　雅子 後期 ・・・ 251
1402580 農耕社会論/ Borjigin Burensain 後期 ・・・ 253
1402601 博物館経営論 市川　秀之 前期 ・・・ 255
1402602 博物館展示論 亀井　若菜 後期 ・・・ 257
1402665 地域と行政 萩原　和 前期 ・・・ 259
1402705 地域と経済 萩原　和 前期 ・・・ 261
1402710 比較文化論（地域） 石川　慎治 後期 ・・・ 263
1402711 東アジア考古学概論 土田　純子※ 後期 ・・・ 265
1402712 東アジア世界論 鈴木　開 後期 ・・・ 267
1402731 美術史Ａ 亀井　若菜 前期 ・・・ 269
1402740 美術史概論/ 亀井　若菜 前期 ・・・ 271
1402741 美術史実習 亀井　若菜 前期 ・・・ 273
1402920 文化財・保存修景論Ａ 濱崎　一志 前期 ・・・ 275
1402940 文化財情報論 石川　慎治 後期 ・・・ 277
1402950 文化社会学 武田　俊輔 後期 ・・・ 279
1402960 文化人類学概論Ａ 島村　一平 前期 ・・・ 281
1402970 文化人類学概論Ｂ 棚瀬　慈郎 後期 ・・・ 283
1402980 文化人類学特論 棚瀬　慈郎 前期 ・・・ 285
1403020 民俗学 市川　秀之 後期 ・・・ 287
1403030 民俗学実習 市川　秀之 後期 ・・・ 289
1403031 民俗学特論 市川　秀之 後期 ・・・ 291
1403070 モンゴル地域文化論/ 島村　一平 前期 ・・・ 293
1403100 量的データ解析論Ⅰ 丸山　真央 前期 ・・・ 295
1403110 量的データ解析論Ⅱ 岡本　裕介※ 後期集中 ・・・ 297
1403210 歴史的地域論 水野　章二 後期 ・・・ 299

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文①）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

（１）TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（１）に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ（スマートフォンでも計測機能があればOK）を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文①）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。

担当者から一言
英語学習の基本は音読です。まずはTOEICレベルの英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう！

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文①）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

（１）TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（１）に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文①）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期の振り返り、後期の目標確認。
第2回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 15	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 16	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 17	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 18	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 19	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 20	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 21	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 22	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 23	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 24	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。

担当者から一言
音読のスラスラ度をさらに磨いていきましょう！

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文②）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30%　授業内での取り組み
30%　授業内の課題
40%　到達度確認テスト（2回）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文②）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介
第2回	Unit 1	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 2	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 3	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 4	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 5	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 6	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 7	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 8	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 9	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 10	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う

担当者から一言

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文②）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30%　授業内での取り組み
30%　授業内の課題
40%　到達度確認テスト（2回）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文②）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 11	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第2回	Unit 12	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 13	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 14	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 15	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 16	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 17	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 18	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 19	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 20	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	問題演習	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う

担当者から一言

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文③）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※２回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文③）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認
第2回	Part1の演習	Unit1～6のPart1
第3回	Unit1	Part2，3，6を演習
第4回	Unit1	Part4，5，7を演習
第5回	Unit2	Part2，3，6を演習
第6回	Unit2	Part4，5，7を演習
第7回	Unit3	Part2，3，6を演習
第8回	Unit3	Part4，5，7を演習
第9回	Unit4	Part2，3，6を演習
第10回	Unit4	Part4，5，7を演習
第11回	Unit5	Part2，3，6を演習
第12回	Unit5	Part4，5，7を演習
第13回	Unit6	Part2，3，6を演習
第14回	Unit6	Part4，5，7を演習
第15回	Unit1～6の復習	Unit1～6の復習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文③）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※２回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文③）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Part1の演習	Unit7～12のPart1
第2回	Unit7	Part2，3，6を演習
第3回	Unit7	Part4，5，7を演習
第4回	Unit8	Part2，3，6を演習
第5回	Unit8	Part4，5，7を演習
第6回	Unit9	Part2，3，6を演習
第7回	Unit9	Part4，5，7を演習
第8回	Unit10	Part2，3，6を演習
第9回	Pre-test演習	12月2日のTOEIC受験の予行練習
第10回	Unit10	Part4，5，7を演習
第11回	Unit11	Part2，3，6を演習
第12回	Unit11	Part4，5，7を演習
第13回	Unit12	Part2，3，6を演習
第14回	Unit12	Part4，5，7を演習
第15回	Unit7～12の復習	Unit7～12の復習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2．映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3．映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4．映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど）

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	英語シナリオで楽しむ美女と野獣		Gakken	9784053046420
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110151	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画（1）	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画（2）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画（3）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画（4）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画（5）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画（6）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画（7）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画（8）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画（9）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画（10）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画（11）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画（12）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画（13）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画（14）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画（15）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画（16）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画（17）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画（18）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画（19）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画（20）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画（21）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画（22）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画（23）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画（24）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画（25）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画（26）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画（27）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画（28）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画（29）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画（30）/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言
12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。　語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
2．映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
3．映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
4．映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど）

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	英語シナリオで楽しむ美女と野獣		Gakken	9784053046420
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/映画（1）	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	映画（2）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	映画（3）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	映画（4）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	映画（5）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	映画（6）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	映画（7）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	映画（8）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	映画（9）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	映画（10）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	映画（11）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	映画（12）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	映画（13）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	映画（14）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	映画（15）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第16回	映画（16）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第17回	映画（17）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	映画（18）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	映画（19）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第20回	映画（20）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第21回	映画（21）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	映画（22）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	映画（23）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	映画（24）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	映画（25）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	映画（26）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	映画（27）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	映画（28）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	映画（29）	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	映画（30）/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習

担当者から一言
12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

(1) 英語の語彙力を身につける
(2) リスニング能力の向上
(3) リーディング能力の向上
(4) ライティング能力の向上
(5) スピーキング能力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2),(3),(4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について２回の到達確認テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価（20%）

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2	TOEICテストワードマスターアプローチ（単語熟語集）	松井こずえ他	成美堂	9784791900725
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（人文⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 1	授業の進め方についての説明 Unit 1　教育とジェンダー
第2回	Unit 1(2)	Unit 1　教育とジェンダー （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第3回	Unit 2(1)	Unit 2　地球温暖化 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第4回	Unit 2(2)	Unit 2　地球温暖化 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第5回	Unit 3(1)	Unit 3 飲料水の確保 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第6回	Unit 3(2)	Unit 3 飲料水の確保 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第7回	Unit 4(1)	Unit 4 貧困と飢餓 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第8回	到達確認テスト①とフィードバック　Unit 4(2)	到達確認テスト①実施と解説 Unit 4 貧困と飢餓
第9回	Unit 5(1)	Unit 5 病との闘い （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第10回	Unit 5(2)	Unit 5 病との闘い （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第11回	Unit 6(1)	Unit 6　テロリズム （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第12回	Unit 6(2)	Unit 6　テロリズム （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第13回	Unit 7(1)	Unit 7 日本人強制収容所 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第14回	Unit 7(2)	Unit 7 日本人強制収容所 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第15回	到達確認テスト②とフィードバック	到達確認テスト②実施と解説 前期の総復習

担当者から一言

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

(1) 英語の語彙力を身につける
(2) リスニング能力の向上
(3) リーディング能力の向上
(4) ライティング能力の向上
(5) スピーキング能力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2),(3),(4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について２回の到達確認テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価（20%）

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2	TOEICテストワードマスターアプローチ(単語熟語集)	松井こずえ他	成美堂	9784791900725
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（人文⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 8(1)	Unit 8 核兵器 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第2回	Unit 8(2)	Unit 8 核兵器 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第3回	Unit 9(1)	Unit 9 カンボジア大量虐殺 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第4回	Unit 9(2)	Unit 9 カンボジア大量虐殺 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第5回	Unit 10(1)	Unit 10 地雷撤去 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第6回	Unit 10(2)	Unit 10 地雷撤去 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第7回	Unit 11(1)	Unit 11 難民 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第8回	到達確認テスト①とフィードバック　Unit 11(2)	到達確認テスト①実施と解説 Unit 11 難民
第9回	Unit 12(1)	Unit 12　ネルソン・マンデラ （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第10回	Unit 12(2)	Unit 12　ネルソン・マンデラ （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第11回	Unit 13(1)	Unit 13 アウン・サン・スー・チー （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第12回	Unit 13(2)	Unit 13 アウン・サン・スー・チー （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第13回	Unit 14(1)	Unit 14 国際赤十字の活動 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第14回	Unit 14(2)	Unit 14 国際赤十字の活動 （DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習）
第15回	到達確認テスト②とフィードバック	到達確認テスト②実施と解説 後期の総復習

担当者から一言

講義名	英語ＩＩＡ（応用コース）（人文①）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, ‘socially interactive’ classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term writing test
レポート課題	25	Mid-term speaking test/quiz
上記以外	50	Final Test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Textbook: Living English I - by Karl Hedberg and Peter Mauser (Keystone Press).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡA（応用コース）（人文①）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/Getting to Know You 1	LE 1 Unit1, Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about yourself and other people.
第2回	Getting to Know You 2	LE 1 Unit1, Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about yourself and other people.
第3回	Family & Friends 1	LE 1 Unit 2 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about your family and friends.
第4回	Family & Friends 2	LE 1 Unit 2 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about your family and friends.
第5回	Around Town 1	LE 1 Unit 3 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about your hometown and places.
第6回	Around Town 2	LE 1 Unit 3 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about your hometown and places.
第7回	School and Free Time 1	LE 1 Unit 4 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about college life, study and free time activities.
第8回	School and Free Time 2	LE 1 Unit 4 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about college life, study and free time activities.
第9回	Mid Term Test 1	Students will take a writing test. Students will take a speaking test/quiz with the teacher.
第10回	Mid Term Test 2	Students will take a writing test. Students will take a speaking test/quiz with the teacher.
第11回	What's going on? Pt.1	LE 1 Unit 5 Part 1. Conversation phrases & strategies for talking about recent/current activities.
第12回	What's going on? Pt.2	LE 1 Unit 5 Part 2. Conversation phrases & strategies for talking about recent/current activities.
第13回	Numbers & Money 1	LE 2 Unit 6 Part 1. Conversations about money and personal spending. How to say large numbers.
第14回	Numbers & Money 2	LE 2 Unit 6 Part 2. Conversations about money and personal spending. How to say large numbers.
第15回	Course Review/Test Preparation	Students will complete unit review and final test preparation exercises.

担当者から一言
Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（人文①）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, ‘socially interactive’ classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term essay project
レポート課題	25	Mid-term essay reading/speaking test
上記以外	50	Final test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Textbook: Living English II - by Karl Hedberg and Peter Mauser (Keystone Press).

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（人文①）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/Memory and The Past 1	LE 2 Unit 7 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第2回	Memory and The Past 2	LE 2 Unit 7 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第3回	The Real You 1	LE 2 Unit 8 Part 1, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第4回	The Real You 2	LE 2 Unit 8 Part 2, Conversation phrases and strategies for talking about past activities and events.
第5回	Preferences 1	LE 2 Unit 9 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about favorites and preferences.
第6回	Preferences 2	LE 2 Unit 9 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about favorites and preferences.
第7回	Food 1	LE 2 Unit 10 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about food and eating out.
第8回	Food 2	LE 2 Unit 10 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about food and eating out.
第9回	Mid Term Test 1	Students read aloud their essay project to the teacher. Students will also work on unit review exercises.
第10回	Mid Term Test 2	Students read aloud their essay project to the teacher. Students will also work on unit review exercises.
第11回	Sharing Experiences 1	LE 2 Unit 11 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about experiences.
第12回	Sharing Experiences 2	LE 2 Unit 11 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about experiences.
第13回	Future Plans 1	LE 2 Unit 12 Part 1, Conversation phrases & strategies for talking about future plans.
第14回	Future Plans 2	LE 2 Unit 12 Part 2, Conversation phrases & strategies for talking about future plans.
第15回	Course Review/Exam Preparation	Students will complete unit review and exam preparation exercises.

担当者から一言
Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語ＩＩＡ（応用コース）（人文②）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	25	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＩＡ（応用コース）（人文②）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	Week 14	Final presentations.
第15回	Week 15	Final presentations.

担当者から一言
It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語ⅡB（応用コース）（人文②）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will complete weekly speaking homework assignments using their smartphones and Google Drive. Students will receive weekly comments and feedback on their speaking abilities. Writing skills from the previous semester will be used again, and new writing skills will be introducted.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	Midterm Presentation: 50% (each speaking objective 25% each; writing objectives 1 & 3 25% each, writing objective 3 50%), in class time week 8. Students will write and present about their summer vacation.
レポート課題	25	Homework: There will be writing and speaking homework on various topics.
上記以外	25	Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＩＢ（応用コース）（人文②）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Homework: Begin writing midterm paper.
第2回	Week 2	Pronunciation practice, using "would".
第3回	Week 3	Interviewing someone.
第4回	Week 4	Midterm practice presentations.
第5回	Week 5	Respond to video media.
第6回	Week 6	Using "after, before, when".
第7回	Week 7	Writing groups/peer feedback.
第8回	Week 8	Midterm presentations.
第9回	Week 9	Cause and effect.
第10回	Week 10	Using "whereas, however".
第11回	Week 11	Respond to video media.
第12回	Week 12	Writing groups/peer feedback. Homework: None.
第13回	Week 13	Final presentation preparation. Homework: Work on final presentation.
第14回	Week 14	Final presentation preparation and practice presentations. Homework: Continue working on final.
第15回	Week 15	Final presentations.

担当者から一言
It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語ⅡA（応用コース）（人文③）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours).Topic-related writing (6 hours).Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡA（応用コース）（人文③）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.
第2回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.
第3回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.
第4回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第5回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第6回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher corrects pronunciation of students' writing.
第7回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.
第8回	Shopping	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第11回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第12回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第13回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.

担当者から一言

講義名	英語ⅡB（応用コース）（人文③）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test and a final writing test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours).Topic-related writing (6 hours).Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＩＢ（応用コース）（人文③）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page self-introduction.
第2回	Unit 1: Getting to know you	Communicative activities to learn about the other students in the class. Teacher checks that students have begun to write their self-introductions.
第3回	Pronunciation: learning to speak English	Teacher looks at Students' self-introduction writing, gives advice on how to write better and more complex sentences.
第4回	Unit 2: Family and friends	Learning key vocabulary and how to talk about family and friends. Teacher continues advising and correcting Students' self-introduction writing.
第5回	Unit 2: Family and friends	Learning key vocabulary and how to talk about family and friends. Teacher continues advising and correcting Students' self-introduction writing.
第6回	Unit 3: Around town	Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions. Students read aloud their self-introduction writing to Teacher.
第7回	Unit 3: Around town	Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions. Teacher continues to correct pronunciation.
第8回	Unit 4: School and free time	Focusing on activities and how students spend their time. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	Unit 5: What's going on	Focus on present continous tense and communicative tasks about activities in daily life.
第11回	Unit 5: What's going on	Focus on present continous tense and communicative tasks about activities in daily life.
第12回	Unit 6: Numbers and money	Focus on both large and small numbers, how to pronounce them and diffictulties faced by Japanese learners with some English numbers.
第13回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test and writen exam.
第14回	Interview Tests	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.

担当者から一言

講義名	英語ⅡA（応用コース）（人文④）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3nd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times.In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the intructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

到達目標

(1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
(2) Students will be able to speak English with fluency.
(3) Students will be able to speak English with good delivery.
(4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total)Pairs rewrite 75-90% of a ‘new’ scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡA（応用コース）（人文④）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Class &Pair reading of Luggage Mix-Up; Accusation and Apology
第2回	Patching Things Up	Offering Help and Getting to Know a Stranger [II] 第2回-13回 PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Realization Of & Panic Over a Mistake	Calming Someone Down [III]
第4回	Calling For Assistance	Giving Information over the Phone [IV]
第5回	Upholding Household Rules	Receiving and Confirming Good News [V]
第6回	Getting Over Jet Lag	Talking About Sleepiness and One ' s Job [VI]
第7回	A ' Thank You ' Coffee	Expressing Gratitude and Setting Up a Date [VII+VIII]
第8回	Sharing and Eliciting Wonderful News	Warning Over High Expectations [IX]
第9回	Relating a Tough Situation	Asking About Job Qualifications [X]
第10回	Returning to the Beginning	The Luggage Mix-Up Conflict [I]
第11回	First Date	Banter, Sharing Likes, Dislikes and Goals in Common [XI]
第12回	Under the Table	Sharing Suspicions and Teasing About Anxieties [XII]
第13回	Stand-In	Subbing For Someone ill at Work [XIII] ; NEW SCENE BRAINSTORMING
第14回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.
第15回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（人文④）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation,choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

到達目標

(1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
(2) Students will be able to speak English with fluency.
(3) Students will be able to speak English with good delivery.
(4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars [New Version]		(Drama Works, 2009)	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（人文④）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Review Scenes I-XIII; Class>> Pair reading of Doing Someone ' s Hair
第2回	Keeping Up With Friends ' Lives	Shocking News Over the Phone [XV] 第2-8回PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Sharing Mixed Results	Celebrating, Evading and Consoling [XVI]
第4回	Adjusting to a Changed Situation	A Dream Future [XVII]
第5回	Breaking Some Bad News...But with a Silver Lining	Signing On [XVIII]
第6回	Working Out	Sharing Success; Asking a Big Favour [XIX]
第7回	The End'	The Drama's Resolution [XX]
第8回	Review Entire Story	Scene XIV Performance for any Excused Absence students
第9回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第10回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第11回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第12回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第13回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第14回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第15回	OFFICIAL EXAM DATE	Interviews for yet-to-be interviewed / late students & reports

担当者から一言

講義名	英語ⅡA（応用コース）（人文⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡA（応用コース）（人文⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.
第2回	Getting to Know You	Making friends and exchanging (or not exchanging) personal information.
第3回	Getting to Know You	Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1.
第4回	Family & Friends	Quiz 2, Talking about your family, memory game 1, song 1.
第5回	Family & Friends	Talking about your friends and learning to learn 2.
第6回	Around Town	Quiz 3, Describing your hometown and game 2.
第7回	Around Town	Getting to know Shiga, song 2.
第8回	School & Free Time	Quiz 4, School life, part-time jobs and schedules
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第10回	School & Free Time	Free time and hobbies. Comparing Japanese / American college life.
第11回	What's Going On?	Quiz 5, Talking on the phone, leaving messages.
第12回	What's Going On?	Making invitations and suggestions, song 3.
第13回	Numbers & Money	Quiz 6, Numbers and money.
第14回	Numbers & Money	Do the math!
第15回	Review, Review, Review	Review.
第16回	Final Exam	

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（人文⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（人文⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.
第2回	Memory and the Past	Talking about your weekend.
第3回	Memory and the Past	Quiz 1, Asking about the past.
第4回	The Real You	Quiz 2, Talking about your good and bad points, song 1.
第5回	The Real You	Your horoscope and learning to learn 2.
第6回	My Favorites	Quiz 3, Talking about books, movies, and music.
第7回	My Favorites	Which do you prefer...?, song 2.
第8回	Let's Eat!	Quiz 4, Talking about food and cuisine.
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第10回	Let's Eat!	Tastes and textures.
第11回	Experiences	Quiz 5, Talking about some of you good and bad experiences.
第12回	Experiences	Have you...?, song 3.
第13回	Future Plans	Quiz 6, Can you see your future?
第14回	Future Plans	Hopes and dreams for the future.
第15回	Review, Review, Review	Review.
第16回	Final Exam	

担当者から一言

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文①）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらにそれらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む）を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど）を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。４回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。　通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	9784010943007
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文①）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文①）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む）を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど）を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。４回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。　通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	9784010943007
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文①）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文②）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またTEDの素材を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において、英語を音読し、発言することで弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

①一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
⑤正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標①②④について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標①②④に関し、2回小テストを行い、評価の20%とする。 到達目標③と⑤に関しては、授業での発表をもとに、評価の40%とする。この40%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。
TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	978-1-305-96504-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文②）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	授業の説明 予習の手順等の説明
第2回	Unit 1 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第3回	Unit 1 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第4回	Unit 2 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第5回	Unit 2 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第6回	Unit 3 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第7回	Unit 3 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第8回	1st Quiz Presentation	第一回小テスト 英語で発表
第9回	Unit 4 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第10回	Unit 4 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第11回	Unit 5 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第12回	Unit 5 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第13回	2nd Quiz Presentation	第二回小テスト 英語で発表
第14回	Unit 6 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第15回	Unit 6 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える

担当者から一言
英語辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文②）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。また、正確な英文法に注意しながら、論理的な英語を書く力を養う。英語を書くだけでなく、自分の考えをメモ等に頼ることなく発表し、他学生と議論する能力も培う。

到達目標

①一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
②テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
⑤正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標①②④について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標①②④に関し、2回小テストを行い、評価の20%とする。 到達目標③と⑤に関しては、授業での発表をもとに、評価の40%とする。この40%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。
TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	978-1-305-96504-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文②）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	授業の説明 英語III Aで学んだことの復習
第2回	Unit 7 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第3回	Unit 7 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第4回	Unit 8 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第5回	Unit 8 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第6回	1st Quiz Presentation	第一回小テスト 英語で発表
第7回	Unit 9 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第8回	Unit 9 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第9回	Unit 10 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第10回	Unit 10 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第11回	Unit 11 Lesoon A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第12回	Unit 11 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える
第13回	2nd Quiz Presentation	第二回小テスト 英語で発表
第14回	Unit 12 Lesson A and B	リーディング・パッセージの読解 ディクテーション
第15回	Unit 12 Lesson C, D, and E	TED Talkの聴解 教科書の設問、および教員の質問に英語で答える

担当者から一言
英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文③）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

This class will introduce a new problem or aspect of society every week. Students will read authentic English materials about the topic, learn vocabulary, and complete comprehension activities. There will also be homework which will develop the 4 skills of language.

到達目標

Each class will have many activities. Is it important that students bring their textbook, paper, and pencils/pens to class every week.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	20	There will be 4 quizzes in this class, each worth 5% of your final grade.
レポート課題	30	There will be 8 writing assignments in this class, each worth 3.75% of your grade.
上記以外	50	Final examination.

Students who miss more than 3 classes will receive a 3% grade penalty for each class after 3 classes.
Homework and other late assignments will have a 10%.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Different Perspectives: Understanding Current World Issues	Allen, B., Ichioka, N., Iwamasa, S., Ohno, M.,		978-4-7647-3980-2
2				
3				

There are many difficult vocabulary words in this textbook - be careful!

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文③）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Syllabus review, syllabus quiz; earthquakes and disasters.
第2回	Week 2	Animal rights and animal issues.
第3回	Week 3	Humans and animals.
第4回	Week 4	War and arts.
第5回	Week 5	Nationality and citizenship.
第6回	Week 6	Education and women.
第7回	Week 7	Gender issues and identity.
第8回	Week 8	Guns and society.
第9回	Week 9	Video games and violence.
第10回	Week 10	Social media.
第11回	Week 11	Families and society.
第12回	Week 12	Environmental protection.
第13回	Week 13	Foods and crops.
第14回	Week 14	Child labor.
第15回	Week 15	Religious and supernatural beliefs.

担当者から一言
This class will be very challenging for you, but I am here to help you in any way. Please email me or talk to me before/after class about anything. I'm excited to meet you all!

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文③）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、リーディングを中心に英語の全般的な運用力を総合的に高めることを目的とする。テキストは、文化、社会、テクノロジー、環境、経済の５つの分野にわたるトピックを扱ったもので、これを用いて、現代社会のさまざまな側面について、英語で読み、考え、発表する活動に取り組んでもらいたい。また、毎週必ずテキストの音源等を聞いてリスニング・ジャーナルに記録し、クラスでのアクティビティーに積極的に参加することで、リスニングとスピーキングの力も伸ばしていきたい。期末課題として、小グループ単位でテキストの内容についての英語プレゼンテーションを行う。

到達目標

（１）必要に応じて辞書を使いながら、英文の内容を確実に理解する力を養う。
（２）英語の音とリズムに慣れ、リスニング力を向上させる。
（３）英語で読んだり調べたりしたトピックについて、その内容を人に伝えるスピーキング力を向上させる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標（１）（３）について、期末プレゼンテーションによって評価する。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標（１）（２）（３）について、予習（15%）とクイズ（30%）によって評価する。 到達目標（２）について、リスニング・ジャーナルの提出（15%）によって評価する。 到達目標（３）について、授業への参加度（10%）によって評価する。

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を聞いたり読んだりする活動に、自宅や通学時にも積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Understanding Our New Challenges	Dave Rear, 杉藤久志	成美堂	9784791934263
2				
3				

英和辞典（電子辞書または紙の辞書）と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文③）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明 担当ユニットの決定
第2回	Group activities	担当ユニットの内容確認と発表に向けての話し合い English activities
第3回	Unit #1	クイズ テキスト内容の確認と発展
第4回	Unit #2	クイズ テキスト内容の確認と発展
第5回	Unit #3	クイズ テキスト内容の確認と発展
第6回	Unit #4	クイズ テキスト内容の確認と発展
第7回	Unit #5	クイズ テキスト内容の確認と発展
第8回	Mid-term preview	グループ発表の準備状況確認 English activities
第9回	Unit #6	クイズ テキスト内容の確認と発展
第10回	Unit #7	クイズ テキスト内容の確認と発展
第11回	Unit #8	クイズ テキスト内容の確認と発展
第12回	Unit #9	クイズ テキスト内容の確認と発展
第13回	Unit #10	クイズ テキスト内容の確認と発展
第14回	Unit #11	クイズ テキスト内容の確認と発展
第15回	期末プレゼンテーション準備	クイズ、English activities

担当者から一言
専門分野の国際的な研究を理解し、それに基づいて自分の研究を進めるためには、英語の文章を確実に読み取る力が必要です。また、理解した内容をわかりやすく人に伝える力も欠かせません。このクラスで、そのための第一歩を踏み出しましょう！

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文④）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、TOEIC問題とドラマ（Full　House）を使い演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位でのドラマのスクリプトを作る課題の提出があります。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK2	吉塚弘、Bill Benfield	成美堂	978-4-7919-1093-9
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※３回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文④）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認
第2回	Unit1とFull House1	Unit1とFull House1を演習
第3回	Unit1とFull House2	Unit1とFull House2を演習
第4回	Unit2とFull House3	Unit2とFull House3を演習
第5回	Unit3とFull House4	Unit3とFull House4を演習
第6回	Unit4とFull House5	Unit4とFull House5を演習
第7回	Unit5とFull House6	Unit5とFull House6を演習
第8回	Unit6とFull House7	Unit6とFull House7を演習
第9回	Unit7とFull House8	Unit7とFull House8を演習
第10回	Unit8とFull House9	Unit8とFull House9を演習
第11回	Unit9とFull House10	Unit9とFull House10を演習
第12回	Unit10とFull House11	Unit10とFull House11を演習
第13回	Unit11とFull House12	Unit11とFull House12を演習
第14回	Unit12とFull House13	Unit12とFull House13を演習
第15回	Unit1～12の復習とFull House14	Unit1～12の復習とFull House14を演習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語IIIＢ（充実コース）（人文④）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、TOEIC問題とドラマ（Full　House）を使い演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位でのドラマのスクリプトを作る課題の提出があります。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本ｄ語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	The TOEIC Test Practice with Core Vocabulary BOOK2	吉塚弘、Bill Benfield	成美堂	978-4-7919-1093-9
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※３回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文④）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習とFull House15	前期の復習とFull House15を演習
第2回	Unit13とFull House16	Unit13とFull House16を演習
第3回	Unit14とFull House17	Unit14とFull House17を演習
第4回	Unit15とFull House18	Unit15とFull House18を演習
第5回	Unit16とFull House19	Unit16とFull House19を演習
第6回	Unit17とFull House20	Unit17とFull House20を演習
第7回	Unit18とFull House21	Unit18とFull House21を演習
第8回	Pre-test	TOEICの予行練習
第9回	Unit19とFull House22	Unit19とFull House22を演習
第10回	Unit20とFull House23	Unit20とFull House23を演習
第11回	Unit21とFull House24	Unit21とFull House24を演習
第12回	Unit22とFull House25	Unit22とFull House25を演習
第13回	Unit23とFull House26	Unit23とFull House26を演習
第14回	Unit24とFull House27	Unit24とFull House27を演習
第15回	Unit13～24の復習とFull House28	Unit13～24の復習とFull House28を演習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文⑤）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

This social studies themed course focuses on building vocabulary as well as improving reading comprehension and listening skills. This approach will have clear benefits for those students taking the TOEIC test. Students will also work on their paragraph/essay writing skills and receive coaching from the tutor. In class, the students will work in pairs and small groups on discussion exercises related to course text topics. Students will also be introduced to a number of self-study techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term essay speaking/reading test
レポート課題	25	Mid-term essay writing
上記以外	50	Final Test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Text: Hot Topics Japan I - Stephanie Alexander [Compass Publishing].

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（人文⑤）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/ People & Society Pt.1	Overview of Assignments. Hot Topics Japan 1, Unit 1 'Personal Space'.
第2回	People & Society Pt.2	Hot Topics Japan 1, Unit 2, 'Japanese Restaurant Culture'.
第3回	People & Society Pt.3	Hot Topics Japan 1, Unit 3, 'Collectivism'.
第4回	Health & Fitness Pt.1	Hot Topics Japan 1, Unit 4, 'Natural vs. Artificial Ingredients'.
第5回	Health & Fitness Pt.2	Hot Topics Japan 1, Unit 5, 'Medical Masks in Japan'.
第6回	Health & Fitness Pt.3	Hot Topics Japan 1, Unit 6, 'Japanese Tea'.
第7回	Children & Education Pt.1	Hot Topics Japan 1, Unit 7, 'Youth Subcultures'.
第8回	Children & Education Pt.2	Student mid-term essay reading/speaking tests Hot Topics Japan 1, Unit 8, 'Juku Culture'.
第9回	Children & Education Pt.3	Student mid-term essay reading/speaking tests Hot Topics Japan 1, Unit 9, 'Studying Abroad'.
第10回	Science & Technology Pt.1	Hot Topics Japan 1, Unit 10, 'Cell phone ettiquette'.
第11回	Science & Technology Pt.2	Hot Topics Japan 1, Unit 11, 'Vending Machines'.
第12回	Science & Technology Pt.3	Hot Topics Japan 1, Unit 12, 'Robotics Research'.
第13回	Art & Culture Pt.1	Hot Topics Japan 1, Unit 13, 'Manga'.
第14回	Art & Culture Pt.2	Hot Topics Japan 1, Unit 14, 'Karaoke'.
第15回	Art & Culture Pt.3	Hot Topics Japan 1, Unit 15, 'Japanese Gardens'.

担当者から一言
Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文⑤）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

This social studies themed course focuses on building vocabulary as well as improving reading comprehension and listening skills. This approach will have clear benefits for those students taking the TOEIC test. Students will also work on their paragraph/essay writing skills and receive coaching from the tutor. In class, the students will work in pairs and small groups on discussion exercises related to course text topics. Students will also be introduced to a number of self-study techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term essay speaking/reading test
レポート課題	25	Mid-term essay writing
上記以外	50	Final Test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Text: Hot Topics Japan II - Stephanie Alexander [Compass Publishing].

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（人文⑤）							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/ People & Society Pt.1	Overview of Assignments. Hot Topics Japan 2, Unit 1 'Holidays in Japan'.
第2回	People & Society Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 2, 'The low crime rate of Japan'.
第3回	People & Society Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 3, 'Divorce in Japan'.
第4回	Health & Fitness Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 4, 'The healthy habits of Japanese women'.
第5回	Health & Fitness Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 5, 'Otsukare'.
第6回	Health & Fitness Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 6, 'Traditional Japanese foods'.
第7回	Children & Education Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 7, 'Martial Arts in Schools'.
第8回	Children & Education Pt.2	Student mid-term essay reading/speaking tests Hot Topics Japan 2, Unit 8, 'Whole Person Education'.
第9回	Children & Education Pt.3	Student mid-term essay reading/speaking tests Hot Topics Japan 2, Unit 9, 'The Suzuki Method'.
第10回	Science & Technology Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 10, 'Internet Cafe Kids'.
第11回	Science & Technology Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 11, 'E-wallets'.
第12回	Science & Technology Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 12, 'The Space Program'.
第13回	Art & Culture Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 13, 'J-pop sensation'.
第14回	Art & Culture Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 14, 'Taboo Tattoos'.
第15回	Art & Culture Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 15, 'The Business of Cosplay'.

担当者から一言
Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語IVA（展開コース）（人文①）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげる活動もします。

到達目標

（1）リスニング力を向上させる
（2）リーディング力を向上させる
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（1）（2）（3）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。 到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（4）について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Ｊａｐａｎ　Ｇｏｅｓ　Ｇｌｏｂａｌ	Stuart Gale他	南雲堂	978-4-523-17860-6
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（人文①）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Unit 1　One Piece and the world's favorite pirates	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第3回	Unit 1　One Piece and the world's favorite pirates	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第4回	Unit 2 Japan's company culture	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第5回	Unit 2 Japan's company culture	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第6回	Unit 3 The genious of Japanese animation	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第7回	Unit 3 The genious of Japanese animation	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第8回	到達度確認テスト（1）	Ｕｎｉｔ １～Ｕｎｉｔ ３までの確認テストを実施する。
第9回	Unit 4 How supersitious is Japan?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第10回	Unit 4 How supersitious is Japan?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第11回	Unit 5 Bousouzoku: very Japanese rebels	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第12回	Unit 5 Bousouzoku: very Japanese rebels	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第13回	Unit 6 Why do Japanese students sleep in class?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第14回	Unit 6 Why do Japanese students sleep in class?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第15回	到達度確認テスト（2）	Ｕｎｉｔ ４～Ｕｎｉｔ ６までの確認テストを実施する。

担当者から一言

講義名	英語IVB（展開コース）（人文①）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、英語力の向上を目指します。英語の4技能をバランスよく伸ばすために、語彙学習、文法学習、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングといった様々な活動を通して英語を学びます。ペアワークやグループワークを通してコミュニケーション活動も行います。

到達目標

（1）リスニング力を向上させる
（2）リーディング力を向上させる
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（1）（2）（3）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。 到達目標（2）（3）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（4）について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Ｊａｐａｎ　Ｇｏｅｓ　Ｇｌｏｂａｌ	Stuart Gale他	南雲堂	978-4-523-17860-6
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（人文①）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 7 Attraction of onsen	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第2回	Unit 7 Attraction of onsen	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第3回	Unit 8 Virtual love	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第4回	Unit 8 Virtual love	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第5回	Unit 9 Otaku and proud!	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第6回	Unit 9 Otaku and proud!	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第7回	Unit 10 Similar but not the same	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第8回	到達度確認テスト（1）	Ｕｎｉｔ ７～Ｕｎｉｔ １０までの確認テストを実施する。
第9回	Unit 11 The Japanese writing systmen	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第10回	Unit 11 The Japanese writing systmen	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第11回	Unit 12 The grey area of gambling	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第12回	Unit 12 The grey area of gambling	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第13回	Unit 13 Pokemon:Do we really have to catch'em all?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第14回	Unit 13 Pokemon:Do we really have to catch'em all?	リスニング、リーディング、問題演習、コミュニケーション活動。
第15回	到達度確認テスト（2）	Ｕｎｉｔ １１~Ｕｎｉｔ １３までの確認テストを実施する。

担当者から一言

講義名	英語IVA（展開コース）（人文②）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業は、英語の発音の仕方を学び、TOEICリスニング・セクションのスコアアップを目指します。英語力の基礎は発音力です。なぜ日本人は英語を聞き取れないのか、また逆に、なぜ日本人の話す英語（ジャングリッシュ）は聞き取ってもらえないのか。伝わらないカタカナ発音と通じる英語発音の違いを理解することで、リスニング能力だけでなくスピーキング能力も育成します。授業では、教科書を用いて音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。

到達目標

（1）英語発音の特徴を理解し、TOEICレベルのリスニング問題を聞き取れる。
（2）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（3）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（1）に関しては、期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（2）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（3）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『Listening Steps』	米山明日香 / Lindsay Wells 著	金星堂	978-4-7647-4039-6
2				
3				

初回授業では音読のタイムトライアルなどを行うので、スマートフォンを持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（人文②）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。

担当者から一言
英語学習の基本は音読です。まずは教科書にでてくる英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう！

講義名	英語IVB（展開コース）（人文②）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

前期に引き続き、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、英語の四技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養う。後期は特に、英語が世界共通語と呼ばれるまでに至った背景的知識を得るため、サブテキストとしてDavid Crystal著 English as a Global Language を参照する。前期同様、受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。リーディングとリスニング問題を軸に、英語でレポートを作成したり（ライティング）、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する（スピーキング）などの課題も随時提示される。

到達目標

(1) “World Englishes”に関する発展問題に、自らの意見や引用文を用いて解答する
(2) 世界の旅事情、今後の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する
(3) 世界の国々の特色について、英語で詳細に説明する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（１）について、期末テストを行い、全体の40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（２）について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標（３）について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)で評価。

＜出席について＞
授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく４回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は３回で欠席１回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801
2				
3				

・適宜、授業中にプリント配布する。

前提学力等

＜辞書について＞
外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（人文②）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	・前期の振り返り＆後期の目標確認 ・サブテキストの紹介
第2回	Chapter 2 INDONESIA - Reading	【前半】 ・ディスカッション
第3回	Chapter 2 INDONESIA - Listening	【前半】 ・小テスト
第4回	Unit 4 CHINA - Reading	【前半】 ・ディスカッション
第5回	Unit 4 CHINA - Listening	【前半】 ・小テスト
第6回	Unit 6 MEXICO - Reading	【前半】 ・ディスカッション
第7回	Unit 6 MEXICO - Listening	【前半】 ・小テスト
第8回	Unit 8 FINLAND - Reading	【前半】 ・ディスカッション
第9回	Unit 8 FINLAND - Listening	【前半】 ・小テスト
第10回	Unit 10 SPAIN - Reading	【前半】 ・ディスカッション
第11回	Unit 10 SPAIN - Listening	【前半】 ・小テスト
第12回	Unit 13 MOROCCO -Reading	【前半】 ・ディスカッション
第13回	Unit 13 MOROCCO - Listening	【前半】 ・小テスト
第14回	Review	・世界の言語について ・サブテキストの講読
第15回	到達度確認テスト	グループで前期のまとめ課題に取り組む ・トラベルガイド作成完了

担当者から一言
後期は、インドネシア、中国、メキシコ、フィンランド、スペイン、モロッコを英語で旅します！前期に引き続き、言語とは何かについて、また英語の将来について考えていきましょう。

講義名	英語IVA（展開コース）（人文③）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

海外旅行や留学などの機会において、私たちは、他の文化について多くを学びます。この授業では、日本人学生の体験を通して、私たちが外国で遭遇しがちなさまざまな問題とその解決法について学びながら、同時にリスニング、スピーキング、リーディング能力の向上を目指します。授業内の小テストで語彙を確認し、ペア・ワークによって会話の練習を行います。さらに、テーマにまつわる文章を聴いて、読み、その内容を理解します。

到達目標

(1)海外旅行や留学の際、想定されるさまざまな場面で必要な語彙を習得する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付け、音読することができる。
(3)テーマごとに、まとまった内容の文章を聴いて、読み、理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標(3)については、期末試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(20%)、到達目標(2)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Communicate Abroad	Simon Cookson, Chihiro Tajima	センゲージ・ラーニング	978-4-86312-277-2
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（人文③）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明
第2回	Unit1: My Suitcase Is Overweight	導入、語彙確認、音読活動
第3回	Unit1: My Suitcase Is Overweight	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第4回	Unit2 : I'm Suffering from Jet Lag	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第5回	Unit2 : I'm Suffering from Jet Lag	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第6回	Unit3 : Each Host Family Is Different	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第7回	Unit3 : Each Host Family Is Different	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第8回	復習とまとめ①	小テスト、Unit 1, 2, 3のまとめ
第9回	Unit4 : I'm Experiencing Culture Shock	導入、語彙確認、音読活動
第10回	Unit4 : I'm Experiencing Culture Shock	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第11回	Unit5 : My Dormitory Is too Noisy	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第12回	Unit5 : My Dormitory Is too Noisy	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第13回	Unit6 : How Can I Make Friends?	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第14回	Unit6 : How Can I Make Friends?	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第15回	復習とまとめ②	小テスト、Unit 4, 5, 6のまとめ

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IVB（展開コース）（人文③）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

海外旅行や留学などの機会において、私たちは、他の文化について多くを学びます。この授業では、日本人学生の体験を通して、私たちが外国で遭遇しがちなさまざまな問題とその解決法について学びながら、同時にリスニング、スピーキング、リーディング能力の向上を目指します。授業内の小テストで語彙を確認し、ペア・ワークによって会話の練習を行います。さらに、テーマにまつわる文章を聴いて、読み、その内容を理解します。

到達目標

(1)海外旅行や留学の際、想定されるさまざまな場面で必要な語彙を習得する。
(2)正しい発音とイントネーションを身に付け、音読することができる。
(3)テーマごとに、まとまった内容の文章を聴いて、読み、理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標(3)については、期末試験によって評価する。
レポート課題		
上記以外	40%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(20%)、到達目標(2)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。

授業を４回以上欠席した場合は、評価の対象となりません。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなります。授業中は携帯電話等の通信機器は鞄に入れる必要があります。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となります。

授業外学習

毎週末までに、授業内容に関して、語彙の確認とテキストの音読をする習慣を付けてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Communicate Abroad	Simon Cookson, Chihiro Tajima	センゲージ・ラーニング	978-4-86312-277-2
2				
3				

英和辞書または英英辞書は毎回忘れずに持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（人文③）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明/ウォームアップ
第2回	Unit7: What Should I Talk About?	導入、語彙確認、音読活動
第3回	Unit7: What Should I Talk About?	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第4回	Unit8: I Feel Homesick	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第5回	Unit8: I Feel Homesick	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第6回	Unit9: How Do I Order Food?	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第7回	Unit9: How Do I Order Food?	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第8回	復習とまとめ①	小テスト、Unit 7, 8, 9のまとめ
第9回	Unit10: I Lost My Passport	導入、語彙確認、音読活動
第10回	Unit10: I Lost My Passport	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第11回	Unit11: I Need to Go to Hospital	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第12回	Unit11: I Need to Go to Hospital	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第13回	Unit12: I Don't Want to Leave	小テスト、導入、語彙確認、音読活動
第14回	Unit12: I Don't Want to Leave	パッセージの内容理解、質問応答、応用表現
第15回	復習とまとめ②	小テスト、Unit 10, 11, 12のまとめ

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IVA（展開コース）（人文④）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業は、英語の発音の仕方を学び、TOEICリスニング・セクションのスコアアップを目指します。英語力の基礎は発音力です。なぜ日本人は英語を聞き取れないのか、また逆に、なぜ日本人の話す英語（ジャングリッシュ）は聞き取ってもらえないのか。伝わらないカタカナ発音と通じる英語発音の違いを理解することで、リスニング能力だけでなくスピーキング能力も育成します。授業では、教科書を用いて音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。

到達目標

（1）英語発音の特徴を理解し、TOEICレベルのリスニング問題を聞き取れる。
（2）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（3）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（1）に関しては、期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（2）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（3）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『Listening Steps』	米山明日香 / Lindsay Wells 著	金星堂	978-4-7647-4039-6
2				
3				

初回授業では音読のタイムトライアルなどを行うので、スマートフォンを持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（人文④）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。

担当者から一言
英語学習の基本は音読です。まずは教科書にでてくる英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう！

講義名	英語IVB（展開コース）（人文④）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

①テキストの英文を正確に理解できる。
②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
⑤正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標①と④について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標①と④に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標②と③に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。
TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（人文④）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	英語IVAで学んだことの復習
第2回	Unit 7. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第3回	Unit 7. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第4回	Unit 8. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第5回	Unit 8. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第6回	Unit 9. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第7回	Unit 9. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第8回	1st Quiz and Review	第1回小テスト これまでの復習
第9回	Unit 10. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第10回	Unit 10. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第11回	Unit 11. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第12回	Unit 11. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第13回	2nd Quiz and Review	第2回小テスト これまでの復習
第14回	Unit 12. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第15回	Unit 12. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習

担当者から一言
英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語IVA（展開コース）（人文⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業で用いるテキストは、「書きたくなる、あるいは書くにふさわしいような話題について」、「聞いたり話したり、という口頭コミュニケーション活動も行いながら」、「クラスメートとアドバイスを交換しながら」、「英語的なパラグラフとして表現する練習をする」ために作られたものである。クラスでは、さまざまなアクティビティーによって、ライティングとスピーキングを中心に英語の運用能力を総合的に高めることを目標とする。また、読むことでの英語のインプットを増やすために、易しい多読用図書を読んでリーディング・ジャーナルに記録していく。課題やクラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていってもらいたい。

到達目標

（1）英語のパラグラフを書く力を養う。
（2）多読によって英語を英語のまま読めるようになる。
（3）自分が書いた英文を発表する中で、相手に伝わるスピーキング力を身につける。
（4）積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標（1）について、ライティング課題（40%）によって評価する。 到達目標（2）について、リーディング・ジャーナル（20%）によって評価する。 到達目標（3）について、Oral presentation（20%）によって評価する。

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。多読などの自宅学習に積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	構造から学べるパラグラフライティング入門	静 哲人	松柏社	9784881985373
2				
3				

教科書は、必ず初回授業から持ってくること。英和・和英辞典は、電子辞書または紙の辞書を準備しておくこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

英語が苦手だという自覚のある人は、できるだけ早く個人面談に来てください。特別扱いはしませんが、アドバイスと応援をします。

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（人文⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方・評価方法の説明、自己紹介、English activities
第2回	Unit 1 A Paragraph as a Product	テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 2 Writing a Topic Sentence	テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 3 Writing Supporting Sentences	テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 4 Writing a Concluding Sentence	テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	The Process of Paragraph Writing	テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 5 Explaining Your Character	テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 6 Describing Your Daily Life	テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 7 Expressing an Opinion	テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 8 Giving Advice and Instructions	テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 9 Comparing and Contrasting	テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 10 Explaining Japanese Culture	テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 11 Describing Data Expressed in Graphs	テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 12 Summarizing What You Have Read	テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	Oral presentation	Summary of the class

担当者から一言
ライティングは総合力です。リーディングでインプットされた表現をどんどん取り入れ、自分が書いたものを声に出して読み、伝わりやすさを耳で確認し、クラスで口頭発表することでフィードバックを得られます。クラスメートの書いたものを参考にし、お互いにアドバイスし合って、英語を

講義名	英語IVB（展開コース）（人文⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、リーディングを中心に英語の全般的な運用力を総合的に高めることを目的とする。テキストは、文化、社会、テクノロジー、環境、経済の５つの分野にわたるトピックを扱ったもので、これを用いて、現代社会のさまざまな側面について、英語で読み、考え、発表する活動に取り組んでもらいたい。また、毎週必ずテキストの音源等を聞いてリスニング・ジャーナルに記録し、クラスでのアクティビティーに積極的に参加することで、リスニングとスピーキングの力も伸ばしていきたい。期末課題として、小グループ単位でテキストの内容についての英語プレゼンテーションを行う。

到達目標

（１）必要に応じて辞書を使いながら、英文の内容を確実に理解する力を養う。
（２）英語の音とリズムに慣れ、リスニング力を向上させる。
（３）英語で読んだり調べたりしたトピックについて、その内容を人に伝えるスピーキング力を向上させる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標（１）（３）について、期末プレゼンテーションによって評価する。
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標（１）（２）（３）について、予習（15%）、クイズ（25%）、TOEICスコア（10%）によって評価する。 到達目標（２）について、リスニング・ジャーナルの提出（15%）によって評価する。 到達目標（３）について、授業への参加度（10%）によって評価する。

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。英語を聞いたり読んだりする活動に、自宅や通学時にも積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Understanding Our New Challenges	Dave Rear, 杉藤久志	成美堂	9784791934263
2				
3				

英和辞典（電子辞書または紙の辞書）と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（人文⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明 担当ユニットの決定
第2回	Group activities	担当ユニットの内容確認と発表に向けての話し合い English activities
第3回	Unit #1	クイズ テキスト内容の確認と発展
第4回	Unit #2	クイズ テキスト内容の確認と発展
第5回	Unit #3	クイズ テキスト内容の確認と発展
第6回	Unit #4	クイズ テキスト内容の確認と発展
第7回	Unit #5	クイズ テキスト内容の確認と発展
第8回	Mid-term preview	グループ発表の準備状況確認 English activities
第9回	Unit #6	クイズ テキスト内容の確認と発展
第10回	Unit #7	クイズ テキスト内容の確認と発展
第11回	Unit #8	クイズ テキスト内容の確認と発展
第12回	Unit #9	クイズ テキスト内容の確認と発展
第13回	Unit #10	クイズ テキスト内容の確認と発展
第14回	Unit #11	クイズ テキスト内容の確認と発展
第15回	期末プレゼンテーション準備	クイズ、English activities

担当者から一言
専門分野の国際的な研究を理解し、それに基づいて自分の研究を進めるためには、英語の文章を確実に読み取る力が必要です。また、理解した内容をわかりやすく人に伝える力も欠かせません。このクラスで、そのための第一歩を踏み出しましょう！

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

（1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。
（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%）。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文a)							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理（１）	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理（２）	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成（１）	基本操作
第8回	WORDによる文書作成（２）	書式
第9回	WORDによる文書作成（３）	表
第10回	WORDによる文書作成（４）	図
第11回	Excelによる表計算（１）	基本操作
第12回	Excelによる表計算（２）	書式
第13回	Excelによる表計算（３）	関数
第14回	Excelによる表計算（４）	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成

担当者から一言

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

（1）情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても収得すること。
（2）学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても収得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文b)							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウエア
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得
第9回	レポートの基本	レポートと学術論文の概念と論文作成の基本
第10回	情報収集と加工	レポートと学術論文の書式と情報収集と加工の基本
第11回	画像等の処理	レポートと学術論文の書式と画像等の処理の基本
第12回	統計データ処理	レポートと学術論文の書式と統計データ処理の基本
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学術論文の作成のまとめ
第14回	課題の作成	レポート課題の作成
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学術論文発表のまとめ

担当者から一言

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

（1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。
（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%）。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文c)							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理（１）	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理（２）	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成（１）	基本操作
第8回	WORDによる文書作成（２）	書式
第9回	WORDによる文書作成（３）	表
第10回	WORDによる文書作成（４）	図
第11回	Excelによる表計算（１）	基本操作
第12回	Excelによる表計算（２）	書式
第13回	Excelによる表計算（３）	関数
第14回	Excelによる表計算（４）	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成

担当者から一言

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

（1）本学演習室が利用できるように環境を整えること。
（2）情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
（3）情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
（4）ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
（5）表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%）。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(人文d)							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	講義概要	演習室利用上の注意、環境設定
第2回	図書検索	文献検索の方法
第3回	Windowsの基本	基本操作、タッチタイピング、日本語入力
第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー
第5回	情報倫理（１）	インターネットの利用と安全性
第6回	情報倫理（２）	著作権、研究倫理
第7回	WORDによる文書作成（１）	基本操作
第8回	WORDによる文書作成（２）	書式
第9回	WORDによる文書作成（３）	表
第10回	WORDによる文書作成（４）	図
第11回	Excelによる表計算（１）	基本操作
第12回	Excelによる表計算（２）	書式
第13回	Excelによる表計算（３）	関数
第14回	Excelによる表計算（４）	グラフ
第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成

担当者から一言

講義名	情報科学概論（人文b）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

（1）Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論（人文b）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ

担当者から一言

講義名	情報科学概論（人文a）							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

ンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

（1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出（８０%）と最終課題の達成度（２０%）

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計･データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論（人文a）							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ２乗値 統計検定
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習

担当者から一言

講義名	情報科学概論（人文c）							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

ンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

（1）表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出（８０%）と最終課題の達成度（２０%）

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計･データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論（人文c）							担当教員	山本　洋紀※
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ２乗値 統計検定
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習

担当者から一言

講義名	情報科学概論（人文d）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

（1）Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論（人文d）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ

担当者から一言

講義名	人間探求学（地域文化）							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1150390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM101								

授業概要

この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。　授業形態は各学部により異なるが、学部毎に１年生を少人数グループ（５～６名）に分け、担当教員が割り当てられる。

到達目標

(1)自らの考えを他者にわかりやすく説明することができる。
(2)他者の考えをじっくり理解することができる。
(3)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあうことができる。
(4)人権感覚を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)自らの考えを他者にわかりやすく説明することができるについては、各小人数グループを担当する教員が設定したテーマに基づくレポートの提出により、評価を行う(30%)。 (2)他者の考えをじっくり理解することができる(30%)、(3)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発

授業外学習

レポート（1回）、また回によっては出席カードを兼ねたレスポンス・ペーパーを提出してもらう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

担当教員が指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

担当教員が指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	人間探求学（地域文化）							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1150390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101HUM101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各回の内容・スケジュールを説明し、グループ分けを行う。
第2回	人間探求学　その１	
第3回	人間探求学　その２	
第4回	人間探求学　その３	
第5回	人間探求学　その４	
第6回	人間探求学　その５	
第7回	人間探求学　その６	
第8回	人間探求学　その７	
第9回	人間探求学　その８	
第10回	人間探求学　その９	
第11回	人間探求学　その10	
第12回	人間探求学　その11	
第13回	人間探求学　その12	
第14回	人間探求学　その13	
第15回	まとめ	

担当者から一言
各教員が、以下のことをねらいとして独自のプログラムを工夫している。 ・大学で学ぶことの意義付け、人生における位置付け等について考えさせる機会とする

講義名	川の未来学							担当教員	村上　修一
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本科目は，専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる，川の問題をとりあげる。まず，国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に，川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で，川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

到達目標

(1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
(2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
(3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標（1）： ワークシート1（30%） 到達目標（2）： ワークシート2（30%） 到達目標（3）： ワークシート3（40%）

ワークシート1，2，3は，それぞれ第5，10，14回の授業時間内に履修生が記述し，回収される。第6，11，15回に解説が行われ，履修生は理解を深める。

授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第十堰日誌	姫野雅義	七つ森書館	978-4822811426
2	吉野川住民投票―市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922
3	再帰的近代の政治社会学―吉野川可動堰問題と民主主義の実験	久保田滋　他	ミネルヴァ書房	978-4623050826

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	川の未来学							担当教員	村上　修一
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	あなたにとって川とは？	川との関わりを再認識し，川の未来を考えることの重要性を意識するようになる。
第2回	川の未来像を決める5W1H	国内における川の未来像の決め方について基本を理解する。
第3回	川の未来像を決める最初の一歩	河川整備基本方針の内容を理解する。
第4回	川の未来像を決める具体的な内容とは？	河川整備計画の内容を理解する。
第5回	ワークシート1	国内における川の未来像の決め方について理解したことを書いてみる。
第6回	ワークシート1の解説	国内における川の未来像の決め方について理解を深める。
第7回	これだけは変えられない？	川の未来像を決める二重構造－河川整備基本方針と河川整備計画との間に存在する問題点を理解する。
第8回	川は「溝」なのか？	河道主義にもとづく川の未来像の決め方について現状と問題点を理解する。
第9回	川の未来像を決める「みんな」とは？	流域委員会の現状と問題点を理解する。
第10回	ワークシート2	川の未来像の決め方における問題点を特定し書いてみる。
第11回	ワークシート2の解説	川の未来像の決め方における問題点について理解を深める。
第12回	国内の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか，新たな方向を示す国内の事例について理解しヒントを得る。
第13回	海外の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか，新たな方向を示す海外の事例について理解しヒントを得る。
第14回	ワークシート3	川の未来像の決め方に対して改善策を案出し書いてみる。
第15回	ワークシート3の解説	川の未来像の決め方に対する改善策について理解を深める。

担当者から一言

講義名	History of Japanese Cinema							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1150540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

'History of Japanese Cinema' is a culture studies course that examines Japan's world-renowned cinematic output over the last one hundred years. The defining developmental periods and 'golden eras' of Japanese cinema will be examined through the work of major studios, auteur directors, and landmark films. The course will contextualise changes within the film industry and aesthetic developments against the socio-cultural background of particular periods (e.g. post-war/late modern, postmodern).

到達目標

This course aims to:

1. Deliver a comprehensive introductory course on the history of Japanese narrative cinema; one tailored for students who are not film majors.

2. Instruct students on approaches to film analysis as a means to broaden their study of Japanese society and culture.

3. Encourage students to develop a scholarly appreciation of film.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	20	Mid-term paper
レポート課題	40	Presentation
上記以外	40	Final Test

Students are required to complete a film review paper and presentation project. The final test will address key topics and concepts covered in the lectures.

授業外学習

This is a lecture-based course. Due to time limitations, only film clips will be screened in class. Students will be provided with access to lecture materials and readings online.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

No prior film studies knowledge is required. Non-native speakers of English should ideally have a solid intermediate skill level (e.g. TOEFL iBT score of around 70).

履修資格

講義名	History of Japanese Cinema							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1150540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Course Overview. An Introduction to Film Studies: Paradigms, Concepts and Theories.
第2回	The Birth of an Industry	Early Developments in Japanese Film. Experimentalism and Art Movements.
第3回	The 1st Golden Age	The 1920's and 1930's: The 1st 'Golden Age' of Japanese Film. Modernist influences. Studios & Genre (Gendai-geki. Jidai-geki)
第4回	Propaganda & Censorship	National policy films and the motion picture law. Post-war occupation and censorship: Critical reactions in Japanese film.
第5回	The 2nd Golden Age Part I	Gendai-geki films. Post-occupation humanism in Japanese film. Director case studies: Mikio Naruse, Yasujiro Ozu.
第6回	The 2nd Golden Age Part 2	Jidai-geki films. Director case studies: Kenji Mizoguchi, Akira Kurosawa.
第7回	Voices of Rebellion	Sun Tribe (taiyozoku) films. Japanese 'New Wave' Cinema. Director Case Studies: Shohei Imamura, Nagisa Oshima.
第8回	Post-Modern Transitions	Studio decline and the rise of independent film. Sex, violence and dark satire in indie film.
第9回	The Yakuza on Film	A Brief History of Yakuza Films. Director Case Studies: Juzo Itami, Takeshi Kitano.
第10回	Monsters, Ghosts and Horror	Tokusatsu and Daikaiju Movies. 'Vengeful Spirits' - Narrative themes in Japanese Horror. Nouvelle horror genre and western remakes.
第11回	A Settled Picture	Genre films and Anime. Current industry Status and notable recent releases.
第12回	The Fictive Japan in Western Film	Representing Japan in Western Film. Semiotics and film analysis.
第13回	Japanese Documentary Films	Styles of documentary (non-fiction film). The value of documentary as ethnography. Documenting Japanese society.
第14回	Group Presentations	Groups will present a critical review of a Japanese film. Class Q&A and feedback.
第15回	Group Presentations/ Course Review	Groups will present a critical review of a Japanese film. Class Q&A and feedback. Course Review and final questions.

担当者から一言
Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. This includes completing background readings and watching films.

講義名	Patterns in Japanese Culture & Society							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

This introductory Japan studies course sets out to critically examine paradigms that have shaped academic and lay perceptions of Japanese social structures, identity and collective consciousness. The selection of topic domains is intended to underpin a broad based contextual analysis of contemporary social issues facing Japan. Concordantly, this enquiry is supported by an interdisciplinary conceptual framework that draws on salient perspectives from sociology, social psychology and cultural studies. The course adopts a simple unit structure and a lecture / seminar format. Students will be expected to participate actively in seminar discussions.

到達目標

1. To introduce the research principles that define interdisciplinary sociocultural studies.
2. To encourage students to adopt an interdisciplinary perspective towards sociocultural studies of Japan.
3. To stimulate informed debate about contemporary issues affecting Japanese society.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	20	Seminar Participation
レポート課題	40	Essay
上記以外	40	Final Test

Students are required write an essay based on a relevant topic from the course. The final test will require students to answer topic review questions taken from the seminar classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Patterns in Japanese Culture & Society							担当教員	Carl John Boland※
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Lecture 1: Geopolitical History	Course Overview / Interdisciplinary Sociocultural Studies / Geopolitics and the shaping of modern Japan.
第2回	Seminar 1: Cross-Cultural Influence	Group work and class discussions. Iitoko-dori / From Japonisme to Cool Japan.
第3回	Lecture 2: Japan Studies	Japan Studies: Paradigms & Debates / Cultural Relativism / Emic & Etic Concepts.
第4回	Seminar 2: 'In the Field'	Ethnography and Fieldwork. Group work and discussions based on lecture 2 and HW readings.
第5回	Lecture 3: The Empire of Signs	Semiotics and Cultural Studies / Filmic Representations of Japan.
第6回	Seminar 3: Food Culture	Analysing Japanese Food Culture / Group work and discussions based on lecture 3 and HW readings.
第7回	Lecture 4: Lensing the Media	Patterns in the Japanese media / Censorship and scandals.
第8回	Seminar 4: Japanese Advertising	Analysing patterns in Japanese advertising / Group work and discussions based on lecture 4 and HW.
第9回	Lecture 5: Social Structure	The Family System / Social Stratification / Wealth & Cultural Capital / Social Order.
第10回	Seminar 5: Beneath the Veneer	Documentary Analysis / Group work and discussions based on lecture 5 and HW.
第11回	Lecture 6: The Japanese Mind	The Self and Social Identity / Collectivism / Emic Psychological Concepts.
第12回	Lecture 7: The Societal Conundrum	Japan's social demographic dilemmas / Economic impacts.
第13回	Seminar 6: Engineering Social Change	Group work and discussion based on lectures 6, 7 and HW.
第14回	Lecture 8: The Road Ahead	Recent Political History / Abenomics / Social Policy / Geopolitics / Regional Security.
第15回	Seminar 7: Japan 2020	Course Review / Group work and discussions / Essay preparation workshop.

担当者から一言
Students must have English skills that allow them to participate actively in class discussions as well as a good standard of academic writing for assignments. Having a TOEFL ibt level of 70 or higher is advisable, or a study abroad experience.

講義名	Model United States of America							担当教員	Benjamin John McCracken※
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America (“USA”) and its unique form of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a senator from one of the 50 states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from the USA.

到達目標

(1) Students will learn about US history and how it impact the current policital environment. (2) Students will learn about the US governmental system and the role political parties play in it. (3) Students will learn current events and debate potentail solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate inorder to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their expereince.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for particpation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to activily participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the US. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Model United States of America							担当教員	Benjamin John McCracken※
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Course overview
第2回	Basic USA History	Lecture on US history
第3回	US Government I	Lecture on the US governmental system
第4回	US Government II	Lecture on the US governmental system
第5回	Seminar I	Group work - Students will be devided into states and assigned political parties and committees
第6回	Political Parties	Lecture on US political parties
第7回	Seminar II	Group work - Students prepare for presentations on US states and issue presentations
第8回	State Presentations I	Students present on their respective states
第9回	State Presentations II	Students present on their respective states
第10回	Seminar III	Group work - Students prepare for issue presenations
第11回	Issue and disucssion I	Students present and discuss issue in mock debate
第12回	Issue and discussion II	Students present and discuss issue in mock debate
第13回	Issue and discussion III	Students present and discuss issue in mock debate
第14回	Issue and discussion IV	Students present and discuss issue in mock debate
第15回	Review	Course review and essay preperation workshop

担当者から一言
Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	Model United Nations							担当教員	Benjamin John McCracken※
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.

到達目標

(1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parlimentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potentail solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate inorder to reach a solution to a problem.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their expereince.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for particpation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to activily participate will cause grades to be reduced.

授業外学習

Students will need to be aware of current events in the world. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	Model United Nations							担当教員	Benjamin John McCracken※
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Course overview
第2回	History of the UN	Introduction to the UN and its history
第3回	Parlimentary Procedure	Introduction to parlimentary procedure and roberts rules of order
第4回	Simulation	Practice simulation
第5回	Seminar I	Group work - Students will be devided into countries and assigned committees
第6回	Seminar II	Lecture on committees. Group work - Students prepare for country presentations
第7回	Seminar III	Group work - Students prepare for country presnetations
第8回	Country Presentations I	Students present on their respective countries
第9回	Country Presentations II	Students present on their respective countries
第10回	Seminar IV	Group work - Students prepare for issue presentations and discussion
第11回	Issue I	Students present and discuss issue in mock debate
第12回	Issue II	Students present and discuss issue in mock debate
第13回	Issue III	Students present and discuss issue in mock debate
第14回	Issue IV	Students present and discuss issue in mock debate
第15回	Review	Course review and essay workshop

担当者から一言
Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	アジア・地域交流論Ａ/							担当教員	鈴木　開
講義コード	1400020	単位数	2	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号									

授業概要

日本と朝鮮半島の関係に関する知識を共有することを目的とする。今期は、百済との関係である。百済は、朝鮮三国の１つとして、朝鮮半島の中部西側におこり、西南部を領有するようになるが、その当初から倭との関係も深く、また百済からの渡来人が日本文化の形成にも大きな影響を与えた。その建国から滅亡に至るまでの過程と、倭国・日本との関わりを扱うことにしたい。

到達目標

百済の歴史、日本との関係について知識を得る。主体的に関わってもらい、古代の関係のありかたに関心をもつようになることもめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	期末試験期間の試験
レポート課題	20	レポートを1回課す。テーマ、締切等は、最初の授業で伝える。
上記以外		

授業外学習

参考書は、適宜指示するので、みずから知識を高める努力をしてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高校時代の、日本史・世界史教科書を見直し、百済および百済と日本の関係について記されていることを自分の知識としているかどうかを確認する。

履修資格

講義名	アジア・地域交流論Ａ/							担当教員	鈴木　開
講義コード	1400020	単位数	2	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	百済の「建国」と漢城	「建国」伝説と実態について
第2回	近肖古王と近仇首王	４世紀なかばの百済勃興期
第3回	東晋・宋・南斉との通交	中国との初期の通交
第4回	日本との通交開始	４世紀後半の日本との通交開始
第5回	漢城の陥落と熊津遷都	高句麗によるいったんの滅亡と復興
第6回	武寧王の中興と倭国	武寧王による百済中興と倭国との関係
第7回	栄山江流域への進出	全羅南道一帯への進出
第8回	熊津から泗沘へ	最後の都となる泗沘への計画的遷都
第9回	泗沘都城の構造	王都の構造
第10回	仏教文化と倭国	百済への伝来と日本への伝来
第11回	武王と弥勒寺	７世紀初の武王と、弥勒寺の関係
第12回	百済木簡の世界	発見されているおよその木簡の内容整理
第13回	百済の滅亡と白村江	滅亡過程の詳細
第14回	百済王族・貴族の亡命	復興運動が終わり、多くの王族・貴族が日本に亡命してくる。
第15回	まとめ	全体のまとめ

担当者から一言

講義名	アジア・地域交流論Ｂ/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1400030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この講義では、アジアにおける人と物の交流がどのようパターンで行われてきたのかを中国とモンゴル、中国と満洲との関係から立体的に捉えていきたい。常に現代に着目して、歴史と今日との間に行き来することによって立体的な多民族、多文化地域社会の姿を描き出したい。

到達目標

万里の長城と柳条辺墻を挟んだ中国大陸における人と物の交流を歴史的視点から理解できることを目指す。多民族、多文化が交錯する該当地域における複雑な現状に関してもある程度の視点を持てるようにしたい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験に必ず参加すること。
レポート課題	30	レポート課題の提出とその内容による評価
上記以外	30	三分の二以上の出席が必要。また、レスポンスカードによる積極的な質問も評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	アジア・地域交流論Ｂ/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1400030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	東アジアにおける「境界線」	中国の北部地域、内モンゴルや東北満洲地域には数千年にわたって構築されてきた各種の「境界
第3回	レンガ茶と遊牧民	お茶は中国が原産地。レンガ茶とは北方遊牧民が飲むミルク茶のもとで、中国本土が原産地であ
第4回	資源開発とモンゴルの安全保障	モンゴルは資源開発の時代を迎えている。それは中国の経済発展によるものだが、内モンゴルはそれ以前から中国の資源供給地であった。この「資源」で結ぶ中国と「モンゴル」の歴史的関係を講
第5回	「黄砂」はどこから来ているのか	内陸地域の自然環境の変化と人間活動の関係から「黄砂」の発生メカニズムを講義。
第6回	中国における砂漠化問題と乳製品市場	中国の経済発展の中で急成長する乳製品市場とその背景にある内陸部の砂漠化問題を講義。
第7回	中国のエネルギー問題とモンゴル	石油や石炭などエネルギー資源をキワードに、中国にとっての内モンゴルとモンゴル国の意義を講
第8回	現代に生きるチンギス・ハーン（一）	ユ-ラシア大陸各地に深い影響を及ぼしたチンギス・ハーンの現代的意義を講義。
第9回	現代に生きるチンギス・ハーン（二）	ユ-ラシア大陸各地に深い影響を及ぼしたチンギス・ハーンの現代的意義を講義。
第10回	クビライ・ハーンを新しいモンゴル国	民主化以後のモンゴル国におけるクビライ・ハーンの再認識過程を講義。
第11回	「満洲」とは何か（一）	地域としての「満洲」の地政学的位置づけ、歴史的経緯を講義。
第12回	「満洲」とはなにか（二）	地域としての「満洲」の地政学的位置づけ、歴史的経緯を講義。
第13回	「ノモンハン事件」の過去と現在	日本、中国、ロシアと「モンゴル」にとっての「ノモンハン事件」の意義を講義。
第14回	現代のシルク―ロード	中国の経済発展を背景とするシルク―ロードの現代的なあり方を講義。
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	アジア・地域交流論Ｃ/							担当教員	土田　純子※
講義コード	1400040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

朝鮮半島は、旧石器時代から現在に至るまで日本と非常に関係が深い。朝鮮考古学の概要を理解し、日本考古学と比較してその相違性と相似性を理解することを目的とする。まず最初に、朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史の概要を講義する。そして、旧石器時代から朝鮮時代までの各時代における考古学の成果と問題点を概説する。場合によっては、主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して、理解を深める。

到達目標

１．朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史を理解する　２．旧石器時代から三国時代までの朝鮮考古学の内容を理解する　３．日本考古学と比較して、日本と朝鮮との歴史的な関係を考える

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	中間テストと期末テストを行い、配分は各々40%。
レポート課題	0	レポートは課しません。
上記以外	20	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

３分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業日の前日までに、ポータルにパワーポイントの資料を登録します。これをプリントまたはノートパソコンにダウンロードして、授業時に使用してください。これが教科書です。これを基に授業を行います。そのため、あらかじめポータルから資料をダウンロードすることが事前の準備と言え

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	配布するパワーポイントの資料			
2				
3				

授業日の前日までに、ポータルにパワーポイントの資料を登録します。これをプリントまたはノートパソコンにダウンロードして、授業時に使用し

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	概説　韓国の考古学	韓国考古学会 編	同成社	978-4886216397
2	東アジアと百済土器	土田純子	同成社	978-4886217509
3				

前提学力等

履修資格

講義名	アジア・地域交流論Ｃ/							担当教員	土田　純子※
講義コード	1400040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の説明と朝鮮の歴史・文化概要	授業の注意と進め方の説明。朝鮮半島の地理と歴史。朝鮮考古学史。
第2回	旧石器時代の考古学	全谷遺跡からヨーロッパ・アフリカ系のハンドアックス出土。剥片尖頭器の存在。細石器。韓国の旧石器のスライド上映。
第3回	新石器時代の考古学	土器出現。北方ユーラシアに広がる幾何学文土器の一派。櫛目文土器は地域差が顕著。韓国独特の釣針・オサンリ型釣針。日本列島との交流。櫛目紋土器時代の遺物などのスライド上映。
第4回	青銅器時代の考古学	稲作の開始。無文土器も地域差が顕著。無文土器の編年。松菊里遺跡の重要性、2本柱の松菊里式住居。
第5回	初期鉄器時代の考古学	鉄器と粘土帯土器の出現。青銅器文化が最高潮に達し、様々な青銅器が出現。
第6回	原三国時代の考古学	馬韓・弁韓・辰韓の様相について、考古資料と中国三国志の記述から詳察。
第7回	前半部のまとめと中間テスト	前半部におけるまとめとそれに対する中間テストを行う。テストはオープンブック形式で行う。
第8回	三国時代高句麗の考古学1	桓仁、集安、平壌。五女山城。積石塚と壁画古墳。集安の遺跡、将軍塚、好太王碑、国内城、山城子山城。
第9回	三国時代高句麗の考古学2	平壌の遺跡、定陵寺、大聖山城。安岳3号墳。徳興里古墳。北朝鮮壁画古墳の映像。
第10回	三国時代百済の考古学1	漢城（ソウル）、熊津（公州）、泗沘（扶餘）。ソウルの遺跡、石村洞古墳群、風納土城。百済の歴史の映像。
第11回	三国時代百済の考古学2	公州の遺跡、宋山里古墳群、武寧王陵、艇止山遺跡、大壁建物。扶余の遺跡、扶蘇山城、陵山里古墳群。大壁建物の映像。
第12回	栄山江流域の考古学	栄山江流域の前方後円墳と倭系古墳。
第13回	三国時代新羅の考古学	積石木槨墳。慶州の遺跡、皇南大塚、天馬塚。積石木槨墳発掘調査の映像。
第14回	三国時代加耶の考古学	小国の連盟体。金官加耶・安羅加耶・小加耶・大加耶の考古学的様相。
第15回	後半部のまとめと期末テスト	後半部におけるまとめとそれに対する中間テストを行う。テストはオープンブック形式で行う。

担当者から一言
当たり前のことだが、授業中私語や雑音は慎むこと。

講義名	アジア社会論							担当教員	北村　由美※
講義コード	1400060	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

グローバル化が進む今日、アジア社会は急速に変貌を遂げている。本講義では、特に東南アジア社会に焦点をあてながら、現代アジアの社会変化の中で、日本で生活する我々の生活がどのように関係しているかを考えていく。講義では、単に知識としてアジア社会を知るのではなく、アジア社会をとおして日本社会を見つめ直し、自らに関わる問いとして考える姿勢を重視するため、グループでの発表や討議を実施する予定である。 なお、実際の授業や課題の内容は、受講生の理解度や興味を考慮して、随時変更していく可能性がある。

到達目標

(1) アジア社会にかんする基礎的な知識を身につけるとともに、アジアにおける社会変化と人びとの生活を、近代化ならびにグローバル化との関わりにおいて動態的に把握できる。
(2) 身のまわりの出来事の中から、アジアとのつながりを探り、その差異と共通性について考察し、自らの考えを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	
レポート課題		
上記以外	50	発表：30% ・授業内容をふまえた上で、興味のある内容について一方踏み込んだ、調査を行い、魅力的な発表にできている。

レポートや発表資料では、必ず適切な引用を行う。コピペが発見された場合は、単位を出さない。

授業外学習

・毎回、次週のテーマに即した新聞記事を読んでくる。
・受講者の人数が多い場合は、学期末の発表をグループ発表にする予定である。グループ発表の場合は、授業外でのグループワークが必要になる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門　東南アジア近現代史	岩崎　育夫	講談社現代新書	9784062884105
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業の進行具合に応じて適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	アジア社会論							担当教員	北村　由美※
講義コード	1400060	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業の概要や進め方について説明する
第2回	島嶼部東南アジアの国家・社会・文化１	シンガポールの国家・社会・文化について学習する
第3回	島嶼部東南アジアの国家・社会・文化２	マレーシアの国家・社会・文化について学習する
第4回	島嶼部東南アジアの国家・社会・文化３	インドネシアの国家・社会・文化について学習する
第5回	島嶼部東南アジアの国家・社会・文化４	フィリピンの国家・社会・文化について学習する
第6回	グローバル化と私達の生活１	パームオイルやエビなど、私達が日常的に消費している食品と東南アジアの環境の関係について学習する
第7回	グローバル化と私達の生活２	労働力の国際移動について、東南アジアの国々と日本の現状について学習する
第8回	大陸部東南アジアの国家・社会・文化１	タイの国家・社会・文化について学習する
第9回	大陸部東南アジアの国家・社会・文化２	ミャンマーの国家・社会・文化について学習する
第10回	大陸部東南アジアの国家・社会・文化３	ベトナムの国家・社会・文化について学習する
第11回	大陸部東南アジアの国家・社会・文化４	カンボジア・ラオスの国家・社会・文化について学習する
第12回	東南アジアの民主化と今後	東南アジアの国々の民主化の現状と課題について学習する
第13回	学生発表	授業内容を踏まえた上で、各自（各グループ）が決めたテーマについて発表を行う。
第14回	学生発表	授業内容を踏まえた上で、各自（各グループ）が決めたテーマについて発表を行う。
第15回	まとめ	授業内容のまとめと振り返り

担当者から一言
皆さんは東南アジアの国々にどのようなイメージを持っていますか。この授業を通して、東南アジアの国々ついての知識を深めると同時に、皆さんの生活や仕事が東南アジアとどのような関係があるのか、そして皆さんが東南アジアの人々とどのような関係をつくっていくのかを一緒に考えてい

講義名	アジア文献講読Ｂ							担当教員	鈴木　開
講義コード	1400066	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230EXC205								

授業概要

歴史資料としての漢文テキストを読解するための知識および能力を修得する。テキストが翻刻・翻訳されていない生の状態からその内容を理解することを目指す。「漢文講読」を履修済みであることが望ましい。今年度は17世紀初頭に朝鮮のソウルと中国の北京を往来した朝鮮使節の記録である『駕海朝天録』を講読する。テキストそのものは難しくないが、登場する人物や地名などを調べる必要がある。単なる翻訳ではなく歴史資料としての価値などを総合的に判断しながら読解を行っていく。その他、講読を希望するテキストがあれば適宜相談に応じる。

到達目標

中国・朝鮮・日本における前近代の史料は、漢文史料がかなりの割合を占める。「漢文講読」において基礎的な知識を身につけているので、より高度な読解について、実際に講読することを通して、理解を深める。史料が自分で読めるようになることが目標である。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	４０	講読した内容をまとめ、歴史的考察を行う。２回実施する。
上記以外	６０	日々の講読の準備・読解態度・そのでき、など。講読なので、毎回出て、指名されて答えることが必要。

毎週、必ず予習して授業に臨むこと。欠席が多い場合、評価の対象としないことがある。

授業外学習

上記のように、自ら訓読・現代語訳・註解を行う。適宜、図書館に移動し、講読に必要な辞書・事典類について解説する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回授業時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

「漢文講読」を履修していること。

履修資格

講義名	アジア文献講読Ｂ							担当教員	鈴木　開
講義コード	1400066	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230EXC205								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	テキストの解説	使用するテキストについて解説する。受講生と相談して、テキストを選定する。
第2回	講読の仕方について解説	テキストの読解に必要な辞書・事典類、実際の講読の仕方について解説する。
第3回	講読１	講読を行う。
第4回	講読２	同上
第5回	講読３	同上
第6回	講読４	同上
第7回	講読５	同上
第8回	講読６	同上
第9回	講読７	同上
第10回	講読８	同上
第11回	講読９	同上
第12回	講読１０	同上
第13回	講読１１	同上
第14回	講読１２	同上
第15回	講読１～１２のまとめ・レポート提出	これまで講読した内容についてまとめ、現代語訳などを点検し、 レポートを作成する。
第16回	講読１３	講読を行う。
第17回	講読１４	同上
第18回	講読１５	同上
第19回	講読１６	同上
第20回	講読１７	同上
第21回	講読１８	同上
第22回	講読１９	同上
第23回	講読２０	同上
第24回	講読２１	同上
第25回	講読２２	同上
第26回	講読２３	同上
第27回	講読２４	同上
第28回	講読２５	同上
第29回	講読２６	同上
第30回	講読１３～２６のまとめ・レポート提出	これまで講読した内容についてまとめ、現代語訳などを点検し、 レポートを作成する。

担当者から一言

講義名	アジア文献講読Ｃ							担当教員	横田　祥子
講義コード	1400067	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC206								

授業概要

中国語の新聞・雑誌・論文などの読解を通じて、中国語の高度な表現を学ぶとともに、現代中国事情を理解する。また、ピンイン・発音など基礎能力の確認と、基礎表現の定着をはかる。

到達目標

中国語メディアを日常的に利用できる語学力を身につける。また、中国語文献を読み、中国事情を理解できるようになることを目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	（１）中国語のピンインを正しく表記し、正確に発音できる。（10%） （２）中国語の文章を的確に読解できる。（10%） （３）日本語の文章を中国語に翻訳できる。（10%）
レポート課題	30	中国語の新聞・雑誌・論文を読んで理解し、適当な日本語に翻訳できる。
上記以外	40	毎回授業開始時に実施するテストで、単語・ピンイン・文章を正確に書ける。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

毎回、予習をしてきてください。電子辞書があると便利です。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中国語文法教室	杉浦博文	大修館書店	9784469231212
2	中国語の文法スーパーマニュアル――中国語の奥底を流れる超重要ルールがわかる	古川裕	アルク	9784757413764
3	聴く中国語		日中通信社	

毎回読む文献は授業中に配付します。

前提学力等

原則として中国語ＩA、ＩB、ⅡA、ⅡBを履修していること。

履修資格

講義名	アジア文献講読Ｃ							担当教員	横田　祥子
講義コード	1400067	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC206								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	中国語基礎力の確認
第2回	中国語テキストの読解１ー日常生活についてー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第3回	中国語テキストの読解２ー日常生活についてー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第4回	中国語テキストの読解３ー食文化ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第5回	中国語テキストの読解４ー食文化ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第6回	中国語テキストの読解５ー社会問題ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第7回	中国語テキストの読解６ー社会問題ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第8回	中国語テキストの読解７ー若者事情ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第9回	中国語テキストの読解８ー若者事情ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第10回	中国映画から表現を学ぶ１	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第11回	中国映画から表現を学ぶ２	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第12回	中国映画から表現を学ぶ３	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第13回	中国映画から表現を学ぶ４	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第14回	中国映画から表現を学ぶ５	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第15回	中国映画から表現を学ぶ６	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第16回	中国語新聞記事の読解１	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第17回	中国語新聞記事の読解２	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第18回	中国語新聞記事の読解３ー日本に関する報道ー	日本についての中国語新聞記事を読む。
第19回	中国語新聞記事の読解４ー日本に関する報道ー	日本についての中国語新聞記事を読む。
第20回	中国語論文の読解１	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第21回	中国語論文の読解２	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第22回	中国語論文の読解３	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第23回	中国語論文の読解４	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第24回	中国映画から表現を学ぶ１	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第25回	中国映画から表現を学ぶ２	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第26回	中国映画から表現を学ぶ３	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第27回	中国映画から表現を学ぶ４	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第28回	中国映画から表現を学ぶ５	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第29回	中国映画から表現を学ぶ６	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第30回	中国映画から表現を学ぶ７	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。

担当者から一言
日本人にとって中国語の読解は、基本的文法をおさえていれば、それほど難しくありません。一年後には、たいていの文章が読めるようになります。ぜひ本授業を活用して下さい。

講義名	インド・チベット地域文化論/							担当教員	棚瀬　慈郎
講義コード	1400090	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

インド仏教は、7世紀以降にヒマラヤを越えてチベットの地にもたらされた。本講義では、インド仏教について概観した上で、そのチベットにおける展開と社会的な影響について検討する。

到達目標

（1）仏教の基本的な概念と考え方についての知識。
（2）仏教の歴史的な展開に関する知識。
（3）内陸アジアにおいて、仏教が果たしてきた役割に関する知識。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	１００	講義内容について十分な理解を得ているか。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜プリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	インド・チベット地域文化論/							担当教員	棚瀬　慈郎
講義コード	1400090	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	インド社会の特徴	インドの身分制度について
第2回	インド社会の特徴	インドの身分制度と結婚、差別について。
第3回	バラモン教	仏教以前のインド思想史
第4回	仏教の誕生	ダンマパダとスッタニパータ：初期経典について
第5回	初期仏教から大乗仏教へ	インドの石窟寺院について
第6回	中観思想	大乗仏教の基本概念と中観思想
第7回	唯識・密教	唯識思想、本覚思想、密教の基本的考え方
第8回	チベットへの仏教伝来	吐蕃王国による仏教の国教化
第9回	仏教教団の成立	四大宗派の成立
第10回	ゲルク派の隆盛	ツォンカパによる仏教改革とダライラマ政権の誕生
第11回	帝国主義とチベット（１）	チベット近代史
第12回	帝国主義とチベット（２）	チベット近代史
第13回	中央アジアにおけるチベット仏教（１）	内陸アジアにおけるチベッ仏教の展開
第14回	中央アジアにおけるチベット仏教（２）	内陸アジアにおけるチベッ仏教の展開
第15回	中央アジアにおけるチベット仏教（３）	内陸アジアにおけるチベッ仏教の展開

担当者から一言

講義名	英書講読（地域文化）							担当教員	市川　秀之／武田　俊輔／塚本　礼仁／萩原　和
講義コード	1400105	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130REG102								

授業概要

地域文化学科の教員が専門とする分野に関する英書の講読を行うことを通じて、各分野の文献の読解力を高める。毎回、受講生を指名し、テキストの内容について発表してもらうため、必ず予習をしてくること。

到達目標

(1)地域文化学科の専門分野について、平易な英語文献を読解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	前期試験（1回）35%、後期試験（1回）35%の合計で評価する。
レポート課題		
上記以外	30	授業中の発表による。

授業外学習

前期・後期1度の試験。また毎回の講義内で発表してもらうため、事前の予習を宿題として課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは各教員より配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英書講読（地域文化）							担当教員	市川　秀之／武田　俊輔／塚本　礼仁／萩原　和
講義コード	1400105	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130REG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域計画に関する英書講読１	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第2回	地域計画に関する英書講読２	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第3回	地域計画に関する英書講読３	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第4回	地域計画に関する英書講読４	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第5回	地域計画に関する英書講読５	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第6回	地域計画に関する英書講読６	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第7回	地域計画に関する英書講読７	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第8回	地域計画に関する英書講読８	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第9回	地域計画に関する英書講読９	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第10回	地域計画に関する英書講読10	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第11回	地域計画に関する英書講読11	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第12回	地域計画に関する英書講読12	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第13回	地域計画に関する英書講読13	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第14回	地域計画に関する英書講読14	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第15回	地域計画に関する英書講読15	都市計画、地域計画に関する基本文献の講読
第16回	地理学に関する英書講読１	建築学に関する英書を講読する。
第17回	地理学に関する英書講読２	建築学に関する英書を講読する。
第18回	地理学に関する英書講読３	建築学に関する英書を講読する。
第19回	地理学に関する英書講読４	建築学に関する英書を講読する。
第20回	地理学に関する英書講読５	民俗学に関する英書を講読する。
第21回	民俗学に関する英書講読１	民俗学に関する英書を講読する。
第22回	民俗学に関する英書講読２	民俗学に関する英書を講読する。
第23回	民俗学に関する英書講読３	民俗学に関する英書を講読する。
第24回	民俗学に関する英書講読４	文化社会学に関する英書を講読する。
第25回	民俗学に関する英書講読５	文化社会学に関する英書を講読する。
第26回	社会学に関する英書講読１	文化社会学に関する英書を講読する。
第27回	社会学に関する英書講読２	文化社会学に関する英書を講読する。
第28回	社会学に関する英書講読３	日本地誌に関する英書を講読する。
第29回	社会学に関する英書講読４	日本地誌に関する英書を講読する。
第30回	社会学に関する英書講読５	日本地誌に関する英書を講読する。
担当者から一言		

講義名	環琵琶湖文化論実習（地域文化）							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1400360	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	130REG101-C								

授業概要

滋賀県の歴史、文化、生活を対象とする実習である。地域、テーマ別に班を編成し、事前学習、宿泊をともなう現地での実習、さらに報告書の作成を行う。

到達目標

フィールドワークを行うことによって、以下の目標を達成する。
(1)地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる。
(2)地域を調査するための手法を身につけることができる。
(3)報告書のまとめ方を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	（１）地域の歴史、文化、生活への関心を深めることができる(35%)、 (2)地域を調査するための手法を身につけることができる(35%)、 (3)報告書のまとめ方を身につけることができる(30%)については、環琵琶湖文化論実習の報告書原稿（100%）で評価す

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学的滋賀ガイド	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	昭和堂	978-4-8122-1141-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各班担当者の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	環琵琶湖文化論実習（地域文化）							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1400360	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	130REG101-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	各班の実習内容を紹介し、班分けを行う。
第2回	班別学習　その１	各班に分かれて、学習を行う。内容・スケジュールは、各班の担当教員より説明する。
第3回	班別学習　その２	
第4回	班別学習　その３	
第5回	班別学習　その４	
第6回	班別学習　その５	
第7回	班別学習　その６	
第8回	班別学習　その７	
第9回	班別学習　その８	
第10回	班別学習　その９	
第11回	班別学習　その10	
第12回	班別学習　その11	
第13回	班別学習　その12	
第14回	班別学習　その13	
第15回	班別学習　その14	
第16回	班別学習　その15	
第17回	班別学習　その16	
第18回	班別学習　その17	
第19回	班別学習　その18	
第20回	班別学習　その19	
第21回	班別学習　その20	
第22回	班別学習　その21	
第23回	班別学習　その22	
第24回	班別学習　その23	
第25回	班別学習　その24	
第26回	班別学習　その25	
第27回	班別学習　その26	
第28回	班別学習　その27	
第29回	班別学習　その28	
第30回	報告書の完成	班別学習の成果を報告書にまとめて完成させる。

担当者から一言

講義名	漢文講読							担当教員	鈴木　開
講義コード	1400370	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	130REG103								

授業概要

漢文読解のための基礎的な知識・能力を修得する。漢文読解はテキストそのものだけでなく、それが書かれた時代背景や伝統的な世界観、表現技法などに対する包括的な理解が必要である。本授業では指定されたテキストについて訓読、現代語訳、訳注を施す作業を一年を通じて実施する。本年度は豊臣秀吉の朝鮮侵略を受けて朝鮮で記された『懲毖録』を講読する。秀吉の朝鮮侵略は東アジア世界に大きな影響を与えた戦争であり、本史料は朝鮮のみならず江戸時代日本の知識人にも親しまれた。既に日本語訳も出版されているが、本授業で原典に触れることにより、テキストをより深く理解することが可能となる。そればかりでなく、現行の日本語訳の当否、問題点などについても理解を深めることができるだろう。

到達目標

中国・朝鮮・日本における前近代の史料は、漢文史料がかなりの割合を占める。そうした漢文史料の、基礎的な読解方法に関する知識・能力を身につけることをめざす。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	４０	講読した内容をまとめ、テキストの意味を適切に把握しているかを確認する。２回実施する。
上記以外	６０	日々の講読の準備・読解態度・そのでき、など。毎回出席し、指名されて答えることが必要。

毎週、必ず予習して授業に臨むこと。欠席が多い場合、評価の対象としないことがある。

授業外学習

上記のように、自ら訓読・現代語訳・註解を行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは毎回、こちらで用意する。必要に応じて下記参考書にも目を通しておくことが望ましい。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	懲毖録（東洋文庫357）	柳成竜（著）朴鐘鳴（翻訳）	平凡社	978-4582803570
2	豊臣秀吉の朝鮮侵略（日本歴史叢書）	北島万次	吉川弘文館	4642066519
3				

必要に応じて授業時に指示する。

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	漢文講読							担当教員	鈴木　開
講義コード	1400370	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	130REG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	テキストの解説	使用するテキストについて解説を行う。
第2回	講読の進め方	講読の進め方について参考例を示して解説する。 図書館に赴き、必要な参考書について紹介する。
第3回	講読１	指定されたテキストについて講読を行う。
第4回	講読２	同上
第5回	講読３	同上
第6回	講読４	同上
第7回	講読５	同上
第8回	講読６	同上
第9回	講読７	同上
第10回	講読８	同上
第11回	講読９	同上
第12回	講読１０	同上
第13回	講読１１	同上
第14回	講読１２	同上
第15回	講読１～１２のまとめ、レポート提出	これまでの講読内容についてまとめ、考察を加えたレポートを提出する。
第16回	講読１３	指定されたテキストについて講読を行う。
第17回	講読１４	同上
第18回	講読１５	同上
第19回	講読１６	同上
第20回	講読１７	同上
第21回	講読１８	同上
第22回	講読１９	同上
第23回	講読２０	同上
第24回	講読２１	同上
第25回	講読２２	同上
第26回	講読２３	同上
第27回	講読２４	同上
第28回	講読２５	同上
第29回	講読２６	同上
第30回	講読１３～２６のまとめ、レポート提出	これまでの講読内容についてまとめ、考察を加えたレポートを提出する。

担当者から一言

講義名	基層文化論							担当教員	中井　均
講義コード	1400390	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER106								

授業概要

日本という国を形成する基層文化は縄文時代・弥生時代・古墳時代・飛鳥～奈良時代に求めることができる。その発展過程の中で、自然採集を基盤とした縄文時代から農耕社会となった弥生時代を経て、統一国家が出現する古墳時代、中国を範とした律令国家としての飛鳥～奈良時代にかけて、その変遷の画期をとらえながら、日本の国家形成の様子を考古学の資料を中心に、社会構造や文化について学ぶ。なお、室町時代に成立する住宅様式や、土器・陶磁器の文化史についても最後に触れておきたい。

到達目標

(1)各時代の社会構造や文化を学び、日本の基層文化がどのように形成されたかが理解できる
(2)日本の古代～中世社会の時代の流れが理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とし、その評価基準は問いに対して授業で学んだ歴史用語や語句を用いて的確に表現されているかで判断する
レポート課題	40	レポートは手書きとし、必ず自分の感想を述べること
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	基層文化論							担当教員	中井　均
講義コード	1400390	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER106								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	本授業のねらいと概要・授業の進め方	ハンス・ナウマンの唱えた表層文化と基層文化について考える。
第2回	自然採集時代の社会と文化Ⅰ	縄文時代の第一の道具と、第二の道具について分析する。特に第二の道具のあり方から縄文文化のアニミズムを考えたい
第3回	自然採集時代の社会と文化Ⅱ	縄文時代の集落に出現した巨大な竪穴住居と、ストーンサークルなどの巨石記念物から縄文文化を考えたい
第4回	稲作農耕の受容とその社会Ⅰ	稲作農耕の伝播経路を考察し、稲作がもたらした画期的変化について述べる。米の持つ穀霊としての側面と、財産的側面を土器や青銅器から分析する
第5回	稲作農耕の受容とその社会Ⅱ	農耕社会がもたらした戦争について、石器の形状変化などから探るとともに、青銅器が利器から祭祀具に変化することを考える
第6回	弥生時代の村落構成	環濠集落の出現と、環濠の用途について考える。また、高地性集落や山間部の集落の出現について分析する
第7回	弥生時代の墓制	地域による墓制の特徴について分析する。箱式石棺、甕棺、支石墓、方形周溝墓など様々な墓のあり方について考えたい
第8回	前方後円墳の時代	首長墓として出現した前方後方墳について、その発展過程を墳丘の形状変化から読み解き、さらには倭王権の前方後円墳築造への許認可についても考える
第9回	古墳時代の社会	副葬品のあり方や、配列状況に込められた精神文化を分析する。また、埴輪の持つ意味を形象埴輪から探りたい
第10回	群集墳の時代	横穴式石室の出現による追葬のあり方や、古墳時代後期の群集墳の成立の社会的背景について考える
第11回	仏教の伝来と古代寺院の建立Ⅰ	仏教の伝来は日本の基層文化に大きな影響を与えた。ここでは古墳造営から寺院造営への変化を分析する
第12回	仏教の伝来と古代寺院の建立Ⅱ	古代寺院の伽藍配置から、舎利信仰から仏像信仰への変化を読み取り、瓦の文様から寺院建立の背景にある政治的意図を考える
第13回	律令国家の成立と都城Ⅰ	中国、朝鮮の都城と比較し、日本の都城制度を分析し、律令国家の形成を考える
第14回	律令国家の成立と都城Ⅱ	都城制度は首都だけではなく、各国ごとの国府や郡役所にも影響を与えたことを、各地の事例を紹介しながら述べる
第15回	まとめ	これまでのまとめとともに、室町時代の将軍邸や守護所の構造や、そこで用いられた陶磁器が、中世社会に与えた影響について触れておきたい

担当者から一言
考古学はモノから歴史を研究する。どちらかというと精神や文化は語り難い分野ではあるが、モノを通して、各時代の文化を探求する面白さを学んでほしい

講義名	近世近江論							担当教員	東　幸代
講義コード	1400560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS201-C								

授業概要

本講義では、近世（江戸時代）の近江国（現滋賀県）の歴史的展開と、それがどのような歴史的特徴を有していたかを、土地や琵琶湖の支配や利用のあり方を素材に論じる。また、近世社会の一般的な仕組みや他地域の様相など、近世近江とその社会を理解する際に前提となることがらについても適宜言及していく。

到達目標

日本の近世社会および近世近江の特徴を説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	日本近世社会や近江国の特徴について理解ができているか。 読み手に理解可能な説明ができているか。
レポート課題	20	講義の概要が理解できているか。 正しい日本語を使用しているか。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	近世近江論							担当教員	東　幸代
講義コード	1400560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS201-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	講義の概要説明。
第2回	近江の領主と石高制①	近世社会を理解するキー・ワードの説明。
第3回	近江の領主と石高制②	幕藩領主の再生産についての説明。
第4回	近江の領主と石高制③	領地宛行についての説明。
第5回	近江の領主と石高制④	近江国の政治的位置づけについての説明。
第6回	近江の村と石高制①	村の負担についての説明。
第7回	近江の村と石高制②	庄屋の機能についての説明。
第8回	近江の村と石高制③	相給村落の運営についての説明①。
第9回	近江の村と石高制④	相給村落の運営についての説明②。
第10回	琵琶湖と石高制①	江戸幕府の新田開発についての説明。
第11回	琵琶湖と石高制②	琵琶湖の価値についての説明。
第12回	琵琶湖と石高制③	瀬田川浚えについての説明。
第13回	琵琶湖と石高制④	琵琶湖新田開発についての説明。
第14回	琵琶湖と石高制⑤	近江国天保一揆についての説明。
第15回	まとめ	講義全体の内容確認。

担当者から一言
高校日本史の教科書を事前に読んでおくと、理解がさらに深まる。

講義名	芸術学							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1400600	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS103								

授業概要

この授業では、造形芸術である「美術」や、造形芸術の歴史の体系である「美術史」について考える。　「日本美術史」という体系は、明治時代に日本のナショナルアイデンティティを見せるものとして作られた。その中では、その目的に沿う形で様々な作品が評価され、語られてきた。本講義ではそれを見直すべく、具体的な例として、正倉院宝物と二つの絵巻作品を取り上げ、その言説のあり方を考え、作品の新たな分析・解釈の仕方を提示する。さらに、従来の「日本美術史」とは異なる文脈で発信されているアートのいくつかを紹介する。
授業で取り上げる二つの絵巻は、滋賀県の桑実寺に所蔵される「桑実寺縁起絵巻」と、その比較作品となる「酒伝童子絵巻」である。「桑実寺縁起絵巻」は、近江の桑実寺に逃げてきていた将軍足利義晴によって1532年に作られた。その中には近江の安土山付近の景色がリアルに描かれている。中世美術の中でも特筆すべき表現が展開するこの絵巻の絵を丁寧に見ながら、実景の写真と絵を比較し、その意味を読み解いていく。滋賀県の美術品を知るという点でも意味のある授業としたい。
授業では、プロジェクターで作品の全体および細部を毎回映し、作品の表現を詳しく見ながら、その意味を考えていく。

到達目標

(1)　美術作品に関心を持ち、美術の表現について自分の言葉で語ることができるようになる。
(2)　授業で提示する美術作品や美術に関わる諸問題に対し、その内容を理解し、自分の視点で考えられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	到達目標(2)については、レポート課題を出す。
上記以外	30	到達目標(1)については、レスポンスカードに書いてもらい、自分の意見を述べてもらう。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	表象としての美術、言説としての美術史	亀井若菜	ブリュッケ	4-434-03644-0
2	交差する視線―美術とジェンダー２	鈴木杜幾子，馬渕明子，池田忍，金惠信 編	ブリュッケ	4-434-07049-5
3				

前提学力等

履修資格

講義名	芸術学							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1400600	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	この授業の概要・目的、履修について説明する。
第2回	正倉院宝物について	「日本美術史」の中で「至宝」とされる正倉院宝物。教科書や美術史の概説書ではいかに語られてきたか。またどのように捉えなおすことができるのか、考える。
第3回	正倉院宝物について	
第4回	「桑実寺縁起絵巻」について	「桑実寺縁起絵巻」について、詳細に見ていく。
第5回	「桑実寺縁起絵巻」について	
第6回	「桑実寺縁起絵巻」について	
第7回	「桑実寺縁起絵巻」についての近代の語り	「桑実寺縁起絵巻」は、これまでの「日本美術史」の中で、いかに語られてきたのか。大正・昭和以降の概説書や展覧会図録から、その語りを拾い出し、語りの特徴を探り、「日本美術史」という言説
第8回	「桑実寺縁起絵巻」についての近代の語り	
第9回	「酒伝童子絵巻」について	「桑実寺縁起絵巻」と制作事情が一部似ている「酒伝童子絵巻」を取り上げ、表現の違いを導く要因は何であるのかを考え、新たな絵の解釈の仕方を提示する。
第10回	「酒伝童子絵巻」について	
第11回	明治の美術行政―「日本美術史」という言説の構築	明治時代の美術行政において、何が目指されて「日本美術史」という体系が構築されたのかを考える。
第12回	明治の美術行政―「日本美術史」という言説の構築	
第13回	美術の諸相	従来の「日本美術史」とは異なる文脈で発信されているアートのいくつかを紹介する。
第14回	美術の諸相	
第15回	美術の諸相	

担当者から一言

講義名	現代中国論							担当教員	横田　祥子
講義コード	1400690	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC102								

授業概要

本授業では現代東アジア世界の中国、台湾、香港を中心に、その政治と社会の歴史的特徴と相互依存関係を解明し、さらに国際環境の東アジアにおける特徴を分析して、政治体制からみた新たな東アジア世界像を検討する。中国、香港、台湾の全体像を把握するために、政治体制や経済政策の変化に関するトピックを取り上げる。

到達目標

（1）政治体制の転換の背景と要因を理解する。
（2）中国・台湾・香港の政治体制の相違を理解し、三者の政治的・歴史的関係を理解する。
（3）中国で起きている社会問題について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（1）政治体制の転換の背景と要因を理解し、説明できる。（20%） （2）中国・台湾・香港の政治体制の相違を理解し、三者の政治的・歴史的関係を把握できる。（20%） （3）今後の日中関係について、自分の展望を述べることができる。（10%）
レポート課題	40	中国現代史・中国の現代の社会情勢に関し、自らが関心あるトピックについて情報を収集し、まとめることができる。
上記以外	10	授業の内容を理解し、発展的な質問ができる。

授業外学習

大学図書館には、中国の歴史や地理、各地の文化描いた映像資料や、歴史の激動を背景にした映画が多数ありますので、ぜひ鑑賞してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ハンドブック　現代中国第四版	愛知大学現代中国学部	あるむ	9784863330634
2	現代中国を知るための60章	高井潔司，遊川和郎	明石書店	4750317721
3	台湾 ： 人間・歴史・心性	戴國煇	岩波書店	400430041X

前提学力等

履修資格

講義名	現代中国論							担当教員	横田　祥子
講義コード	1400690	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション――授業概要	授業概要の説明を行う。
第2回	中国（１）――地理、言語	中国の地理と言語の多様性について学ぶ。
第3回	中国（２）――政治体制	現在の政治体制とその成り立ちを知る。
第4回	中国（３）ーー20世紀前半　清朝から中華民国へ	日本に縁のある中国の革命家の功績を学ぶ。
第5回	中国（４）――新中国の成立	中華人民共和国の成り立ちと建国理念を学ぶ。
第6回	中国（５）――文化大革命	政治的動乱とその後の影響について学ぶ。
第7回	中国（６）ーー改革開放とグローバリゼーション	社会主義市場経済の導入と繁栄について学ぶ。
第8回	中国（７）――21世紀中国の新たな課題	経済成長の影でどのような社会問題が生じているかを学ぶ。
第9回	台湾（１）――日本の植民地統治	下関条約締結後に台湾は日本に割譲された。その植民地統治はどのようなものであったのか。また今日までの影響を学ぶ。
第10回	台湾（２）――中華民国と国民党	もう一つの中国・中華民国が台湾にてどのような政治を展開したのかを学ぶ。
第11回	台湾（３）――民主化・台湾ナショナリズムの台頭	台湾独立問題についてその思想と、若者世代の意識について学ぶ。
第12回	香港（１）――英国植民地としての香港の成立	英国の植民地として香港はどのような役割を果たしてきたかを学ぶ。
第13回	香港（２）――中国への返還と一国二制度	中国に返還されてから堅持するといわれてきた一国二制度に何が起きているかを学ぶ。
第14回	ソフトパワー戦略	中国のソフトパワー戦略としての孔子学院について学ぶ。
第15回	総括――アジアと中国	東アジア、東南アジアにおける中国の影響力について学ぶ。

担当者から一言
日本にとって極めて重要な国・中国について、私たちはどれくらい知っているでしょうか。その基本知識を学んでいきます。

講義名	考古学							担当教員	中井　均
講義コード	1400740	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER101								

授業概要

考古学とは、過去の人類が残した物質的資料としての「遺跡」と「遺物」という土の中から発掘されたモノを対象として歴史を組み立てていく学問である。考古学の独自性は遺構、遺物を実測し、分類することによって人類の残したモノを分析することにある。まずその方法論とこれまでの研究史を学び、さらには考古学に必要な関連諸科学を学ぶことによって考古学の基礎を培うこととする。そして具体的に考古学から明らかとなった日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代を概観する。また考古学は歴史を解明するための方法論であり、決して特定の時代を対象とするものではない。そこで考古学が明らかにした中・近世の遺跡や遺物についても検証する

到達目標

(1)考古学が歴史研究の方法論であることを理解し、物質的資料の分類、整理ができる
(2)考古学によって明らかにされた歴史の変遷を理解することができる
(3)モノを測ることによって資料化することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とする。その評価基準は授業で学んだ歴史的用語や語句を用いて的確に答えられているかで判断する
レポート課題	40	レポートは手書きとし、必ず自分の感想を述べること
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学							担当教員	中井　均
講義コード	1400740	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	考古学とは何か	考古学とはどのような学問かを概説する。特に形式、型式、様式論を用いて遺物の分類について考える。また層位学について述べる
第2回	考古学の方法論Ⅰ	人類の残した遺跡について述べる。遺跡には様々な種類のあることを知り、分布調査の重要性について考える
第3回	考古学の方法論Ⅱ	発掘調査とはどのような調査なのかについて述べる。遺構検出、遺構発掘、遺構実測などの発掘調査の方法について概説する
第4回	考古学の方法論Ⅲ	出土した遺物の観察について述べる。また実測がいかに重要な作業かについて考えたい
第5回	考古学の研究史Ⅰ	ヨーロッパ、特に北欧における考古学史について述べる。また、中国、朝鮮における考古学史にも触れておきたい
第6回	考古学の研究史Ⅱ	日本の考古学史について述べる
第7回	考古学と関連諸科学Ⅰ	写真による遺跡の確認、地中の遺跡の確認についてレーダー探査、電気探査、磁気探査などのあることを紹介し、それぞれの長所、短所について分析する
第8回	考古学と関連諸科学Ⅱ	遺物の年代決定を科学的な方法でおこなわれることを述べる。炭素14年代測定法、熱ルミネッセンス法、フィッショントラック年代測定法、などを紹介し、それぞれの長所、短所について分析する
第9回	考古学と関連諸科学Ⅲ	遺物の産地分析について述べる。特に石器石材の黒曜石と、サヌカイトの産地同定に関する蛍光X線分析法について分析する
第10回	考古学による歴史の変遷Ⅰ	日本の旧石器時代、縄文時代の姿を遺構と遺物から分析する
第11回	考古学による歴史の変遷Ⅱ	日本の弥生時代、古墳時代の姿を遺構と遺物から分析する
第12回	考古学による歴史の変遷Ⅲ	日本の古代について、都城の構造と寺院の構造から分析する
第13回	中・近世の考古学Ⅰ	中・近世の歴史を解明するのにも今では考古学が不可欠であることを述べる。事例として石塔の変化を分析する
第14回	中・近世の考古学Ⅱ	陶磁器の文化について、小谷城などから出土した遺物を事例して考えたい
第15回	まとめ	これまでの授業のまとめを述べる

担当者から一言
考古学はモノを形式や型式、様式によって分類することから始まる。授業ではできるだけ実際の遺物を持参して、その質感を自らの手で感じてもらいたい

講義名	考古学実習Ⅰ							担当教員	髙橋　順之※／中井　均
講義コード	1400741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER203								

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学実習Ⅰ							担当教員	髙橋　順之※／中井　均
講義コード	1400741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	考古学実習の目的・必要性	実測・拓本等の意義
第2回	土器の実測と観察Ⅰ	土器の実測と観察
第3回	土器の実測と観察Ⅱ	土器の実測と観察
第4回	遺構の実測Ⅰ	遺構の実測
第5回	遺構の実測Ⅱ	遺構の実測
第6回	遺構の実測Ⅲ	遺構の実測
第7回	遺構の実測Ⅳ	遺構の実測
第8回	瓦・土器の拓本と観察Ⅰ	瓦・土器の拓本と観察
第9回	瓦・土器の拓本と観察Ⅱ	瓦・土器の拓本と観察
第10回	瓦・石器の実測と観察Ⅰ	瓦・石器の実測と観察
第11回	瓦・石器の実測と観察Ⅱ	瓦・石器の実測と観察
第12回	瓦・石器の実測と観察Ⅲ	瓦・石器の実測と観察
第13回	製図・レイアウトⅠ	製図・レイアウト
第14回	製図・レイアウトⅡ	製図・レイアウト
第15回	講評、その他	講評

担当者から一言

講義名	考古学実習II							担当教員	中井　均／髙橋　順之※
講義コード	1400742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER204								

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学実習II							担当教員	中井　均／髙橋　順之※
講義コード	1400742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	発掘調査技術と報告書作成	発掘調査技術と報告書作成に関する概説
第2回	水準点測量1	レベルを使用して標高を移動する方法を体徳する。
第3回	水準点測量2	レベルを使用して標高を移動する方法を体徳する。
第4回	グリッド設定	トランシットを使用してグリッド設定の方法を体徳する。
第5回	地形・遺構の測量(平板測量)1	平板測量
第6回	地形・遺構の測量(平板測量)2	平板測量
第7回	地形・遺構の測量(平板測量)3	平板測量
第8回	地形・遺構の測量(平板測量)4	平板測量
第9回	地形・遺構の測量(平板測量)5	平板測量
第10回	写真撮影(写真撮影の基本)1	写真撮影
第11回	写真撮影(写真撮影の基本)2	写真撮影
第12回	写真撮影(写真撮影の基本)3	写真撮影
第13回	報告書作成の実際(報告書の構成と原稿作成)1	報告書作成の実際
第14回	報告書作成の実際(挿図レイアウト)2	報告書作成の実際
第15回	報告書作成の実際(図版レイアウト)3	報告書作成の実際

担当者から一言

講義名	考古学特論Ａ							担当教員	中井　均
講義コード	1400751	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER301								

授業概要

考古学は、過去人類が残した物質的資料としての「遺跡」と「遺物」というモノから歴史を分析する学問である。通常、考古学というと旧石器時代、縄文時代、弥生時代といった文字のない原始時代の歴史を分析するものと思われがちであるが、字は考古学は時代を超えた人類の歴史全体を研究する方法論である。この特論では、日本考古学のなかで近年めざましい研究成果のある中世から近世の考古学について、都市、集落、寺院、城館、墓などの遺跡と、そこから出土する様々な遺物について、流通も踏まえて分析をおこなうものである。また、近代以降を対象とした考古学についても触れておきたい

到達目標

(1)考古学の方法論について説明することができる
(2)古代、中世、近世の社会構造を考古学から説明することができる
(3)古代、中世、近世の特徴を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる
(4)代表的な城跡を見学し、その特徴について批評することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	試験は記述式とする。評価基準は授業で学んだ歴史用語や語句を用いて、問いに対して的確に答えられているかで判断する
レポート課題	40	レポートは手書きとする。必ず感想を述べること
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古学特論Ａ							担当教員	中井　均
講義コード	1400751	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	考古学とはどのような学問か	考古学の方法論について述べる。特に時代を限定するものではなく、歴史を研究する方法論であることについて考えたい
第2回	戦国時代の城館の地域性	北海道のチャシ、東北の館、沖縄のグスクという日本列島の両端に築かれた城館構造を分析する
第3回	古代末から中世初頭の城郭のあり方	古代には朝鮮対策として記紀に現れない神籠石様山城が、後には朝鮮式山城が築かれる。一方、東北では蝦夷対策として城柵が築かれる。その構造や立地、分布などから朝鮮対策や蝦夷対策を考える
第4回	武士の居館の出現と展開	12世紀末に出現する武士の館を構造を考古学的に検討するとともに、その館がどのように展開するのかを考える
第5回	室町将軍の花の御所と守護館	室町将軍の居宅を花の御所と呼ぶ。洛中洛外図屏風に描かれたこの将軍邸の構造を分析する。またこの居宅構造は全国の守護所に伝播する。発掘された守護所から将軍の居宅と比較検討をおこなう
第6回	戦国時代の山城の構造	戦国時代は山城の時代であった。その山城の構造を分析する。また山城は詰の城という防御空間であり、普段の住居は山麓に構えられた居館であった。こうした二元的構造の発掘例を紹介しながら、戦
第7回	戦国期山城の地域的特徴	戦国時代の山城は地域によって構造が異なる場合がある。ここでは東北、関東、瀬戸内、南九州で発達する城郭構造を取り上げ、その特徴を抽出したい
第8回	戦国大名による築城の特徴	戦国時代の山城は地域的に独自に発達するとともに、築城主体によっても特徴が認められる。ここでは戦国大名による築城の特徴に触れてみたい
第9回	惣国一揆の城館構成	戦国時代には惣村や惣国が出現する。そうした惣が構える城館について甲賀郡中惣や伊賀惣国を事例に分析をおこなう
第10回	石垣の出現と伝播	15世紀末になると日本列島のいくつかの地域の城館には石垣が出現する。ここでは石垣導入の契機と、その伝播について考えたい
第11回	織田信長・豊臣秀吉の城郭	織田信長によって築かれた安土城は石垣、天主、金箔瓦を持つ最初の城であった。その出現は日本城郭史のなかでは革命的変化であり、以後の日本の城はこれを踏襲することとなる。そうした信長、秀
第12回	瓦から見た城郭政策	城郭に葺かれた瓦の製作技法、工人などについて考えたい
第13回	文禄・慶長の役の考古学	文禄・慶長の役(豊臣秀吉による朝鮮出兵)を考古学から検討する。具体的には遺物として滴水瓦と呼ばれる朝鮮の瓦と、遺構として朝鮮半島に築かれた倭城を取り上げる
第14回	戦国時代の城館から出土する遺物	戦国時代の城郭を発掘すると様々な遺物が出土する。特に陶磁器に関しては国内外で焼かれたものが出土する。ここでは陶磁器の用途などについて考えたい
第15回	まとめ	これまで述べてきた中・近世考古学をまとめる。考古学が時代を限るものでないことを再認識し、歴史研究における考古学の重要性を考える

担当者から一言
全国の代表的都市遺跡や集落遺跡、特に山城についての発掘調査成果を紹介しながら、中・近世考古学を学びたいと思います

講義名	考古地理実習Ⅰ/							担当教員	中井　均／石川　慎治／京樂　真帆子／ 塚本　礼仁／濱崎　一志
講義コード	1400760	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

地域文化学科で学び研究することになる専門分野に関して、基礎的な知識や研究の手法を学ぶ。学生は二つのグループに分かれ、授業ごとに学科教員全員の指導を受けることになる。

到達目標

(1)専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができるについては、第2回～第15回の毎回の小レポートで評価する（100%）。100点満点で60店以上を合格とする。
上記以外		

授業外学習

第2回より、毎回各分野のテーマに沿った小レポートを提出してもらう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学的滋賀ガイド	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	昭和堂	978-4-8122-1141-0
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古地理実習Ⅰ/							担当教員	中井　均／石川　慎治／京樂　真帆子／ 塚本　礼仁／濱崎　一志
講義コード	1400760	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	グループ分け、スケジュールを説明する。
第2回	保存修景学１	
第3回	保存修景学２	
第4回	地理学	
第5回	社会学	
第6回	考古学１	
第7回	考古学2	
第8回	考古学3	
第9回	歴史学１	
第10回	歴史学2	
第11回	歴史学3	
第12回	民俗学	
第13回	美術史学	
第14回	アジア交流１	
第15回	アジア交流2	

担当者から一言

講義名	考古地理実習ＩＩＡ/							担当教員	中井　均／髙橋　順之※
講義コード	1400770	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。

到達目標

考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料
上記以外	30	実習態度等

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『発掘調査のてびき』	文化庁文化財部記念物課監修・奈良文化財研究所	同成社	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	考古地理実習ⅡA/							担当教員	中井　均／髙橋　順之※
講義コード	1400770	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	発掘調査技術と報告書作成	発掘調査技術と報告書作成に関する概説
第2回	水準点測量1	レベルを使用して標高を移動する方法を体徳する。
第3回	水準点測量	レベルを使用して標高を移動する方法を体徳する。
第4回	グリッド設定	トランシットを使用してグリッド設定の方法を体徳する。
第5回	地形・遺構の測量(平板測量)1	平板測量
第6回	地形・遺構の測量(平板測量)2	平板測量
第7回	地形・遺構の測量(平板測量)3	平板測量
第8回	地形・遺構の測量(平板測量)4	平板測量
第9回	地形・遺構の測量(平板測量)5	平板測量
第10回	写真撮影(写真撮影の基本)1	写真撮影
第11回	写真撮影(写真撮影の基本)2	写真撮影
第12回	写真撮影(写真撮影の基本)3	写真撮影
第13回	報告書作成の実際(報告書の構成と原稿作成)1	報告書作成の実際
第14回	報告書作成の実際(挿図レイアウト)2	報告書作成の実際
第15回	報告書作成の実際(図版レイアウト)3	報告書作成の実際
第16回	考古学実習の目的・必要性	実測・拓本等の意義
第17回	土器の実測と観察Ⅰ	土器の実測と観察
第18回	土器の実測と観察Ⅱ	土器の実測と観察
第19回	遺構の実測Ⅰ	遺構の実測
第20回	遺構の実測Ⅱ	遺構の実測
第21回	遺構の実測Ⅲ	遺構の実測
第22回	遺構の実測Ⅳ	遺構の実測
第23回	瓦・土器の拓本と観察Ⅰ	瓦・土器の拓本と観
第24回	瓦・土器の拓本と観察Ⅱ	瓦・土器の拓本と観
第25回	瓦・石器の実測と観察Ⅰ	瓦・石器の実測と観察
第26回	瓦・石器の実測と観察Ⅱ	瓦・石器の実測と観察
第27回	瓦・石器の実測と観察Ⅲ	瓦・石器の実測と観察
第28回	製図・レイアウトⅠ	製図・レイアウト
第29回	製図・レイアウトⅡ	製図・レイアウト
第30回	講評、その他	講評

担当者から一言

講義名	考古地理実習ＩＩＢ/							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1400780	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業の前半15回は、多変量解析とGISを融合した実習をおこない、「数値データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につける。後半15回は、アンケート調査とGISを融合した実習をおこない、「質的データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につける。また、前半・後半ともに、終盤の数回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。

到達目標

(1)数値データ・質的データを統計的手法によって解析することができる。
(2)GISソフトウェアを操作し、データ解析の結果を地図化することができる。
(3)論理的なプレゼンテーションを行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	前半・後半の地域分析プレゼンテーションの報告内容による。到達目標（１）20%（前半10%・後半10%）、到達目標（２）20%（同）、到達目標（３）10%（前半5%・後半5%）とする。
上記以外	50	実習成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	統計学の図鑑	涌井良幸ほか	技術評論社	978-4-7741-7331-3
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bを合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	考古地理実習ⅡB/							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1400780	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前半ガイダンス	
第2回	多変量解析の準備	統計学の基礎知識の確認
第3回	回帰分析１	重回帰分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第4回	回帰分析２	重回帰分析の結果の地図化
第5回	判別分析１	判別分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第6回	判別分析２	判別分析の結果の地図化
第7回	主成分分析１	主成分分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第8回	主成分分析２	主成分分析の結果の地図化
第9回	因子分析１	因子分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第10回	因子分析２	因子分析の結果の地図化
第11回	クラスター分析１	クラスター分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第12回	クラスター分析２	クラスター分析の結果の地図化
第13回	地域分析プレゼンテーション１	グループワーク（企画、データ収集）
第14回	地域分析プレゼンテーション２	グループワーク（分析・解釈、プレゼンテーション作成）
第15回	地域分析プレゼンテーション３	報告会
第16回	後半ガイダンス	
第17回	アンケート調査法１	企画、調査票作成から回収の手順などについて解説する。
第18回	アンケート調査法２	データの入力とクリーニングについて解説し、課題実習に取り組む。
第19回	アンケート結果の集計法１	単純集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第20回	アンケート結果の集計法２	クロス集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第21回	アンケート結果の集計法３	クロス集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第22回	アンケート結果の分析法１	数量化Ⅰ類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第23回	アンケート結果の分析法２	数量化Ⅱ類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第24回	アンケート結果の分析法３	数量化III類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第25回	アンケート結果の分析法４	数量化分析の結果の地図化
第26回	地域分析プレゼンテーション１	グループワーク（企画）
第27回	地域分析プレゼンテーション２	グループワーク（データ収集）
第28回	地域分析プレゼンテーション３	グループワーク（集計・分析・解釈）
第29回	地域分析プレゼンテーション４	グループワーク（プレゼンテーション作成）
第30回	地域分析プレゼンテーション５	報告会

担当者から一言

講義名	古文書演習Ⅰ							担当教員	水野　章二
講義コード	1400890	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HIS203								

授業概要

歴史研究の素材となる史料には、古文書・古記録・木簡・金石文あるいは絵画史料など、多種多様なものがあるが、特に古文書はその中心的位置を占める。史料全体に対する関心と理解を深めるとともに、主として古代・中世の古文書をとりあげ、研究の基礎となる文書読解力を養う。そして文書の様式・形態・機能などの基本を学習し、あわせて文書の作成された時代・社会の特質を考える。なお授業では、古文書の写真コピーを使用する。

到達目標

（1）古代・中世の古文書の種類・機能やその変化を理解できる。
（2）古代・中世の文字・文体を読解・解釈できる。
（3）古代・中世の文書の作成システムや社会構造を理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	１００	毎回の授業における読解・発表により評価する。 （1）古代・中世の古文書の種類・機能やその変化を理解できる。　３０% （2）古代・中世の文字・文体を読解・解釈できる。　４０%

授業外学習

博物館・史料館などで実際の文書を見学する機会を設ける。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	古文書学入門	佐藤進一	法政大学出版局	4-588-32001-7
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	古文書演習Ⅰ							担当教員	水野　章二
講義コード	1400890	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HIS203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	史料とは何か	歴史学の素材である史料には、文献史料・考古史料・民俗史料などさまざまな種類があるが、文献史料においても、文書・記録・典籍など、多様な性格のものが含まれる。文書の特質を説明し、古文書
第2回	売券	売券は土地や財産などを売却した際に作成される証文で、時代とともに変遷するが、最も基本的な文書である。売券を解読・解説しながら、古文書の基礎的用語・概念を説明する。
第3回	公式様文書１（符）	律令の公式令に規定された多くの文書形式のうち、上下関係のある役所間で上から下に出されるのが符である。符のなかでも、最も重要な文書である太政官符を解読しながら、その特質を解説する。
第4回	公式様文書２（牒）	寺院と取り交わしたり、上下関係のはっきりしない役所間で交わされる文書形式が牒である。牒のなかでも、最も重要性が高い太政官牒などを解読しながら、その特質を解説する。
第5回	公式様文書３（解）	個人や役所間で、下から上へ上申する文書形式が解である。解を解読しながら、その特質を解説する。
第6回	公家様文書１（官宣旨）	律令官制の変質のなかから新しく生まれてきた公家様文書のうち、太政官符に代わって、太政官の事務局が発給するのが官宣旨である。官宣旨を解読しながら、その特質を解説する。
第7回	公家様文書２（下文）	平安中期以降、三位以上の貴族や寺院の政所、院庁などが発給する文書形式である下文が登場し、重要な役割を果たす。政所下文や院庁下文を解読しながら、その特質を解説する。
第8回	公家様文書３（綸旨・御教書）	私信である書札が公的政務に使用されるようになった書札様文書のうち、側近が主人の意をうけて発給する形式を奉書と呼ぶが、そのなかでも重要性が高いのが、天皇の命令である綸旨や三位以上の貴
第9回	武家様文書１（下文）	鎌倉幕府において、最も重要な職の補任・所領安堵などは下文形式の文書が使用される。鎌倉幕府が発給した下文を解読しながら、その特質を解説する。
第10回	武家様文書２（御教書）	将軍の意をうけて発給され、法令の伝達など、短期間の効力しかもたない命令に使用されたのが関東御教書である。関東御教書を解読しながら、その特質を解説する。
第11回	武家様文書３（下知状）	下知状は、鎌倉幕府において下文と奉書が合成されて成立した文書形式で、裁判の判決などに用いられた。下知状を解読しながら、その特質を解説する。
第12回	武家様文書４（御判御教書）	室町幕府においては、将軍が自ら署名して発給する直状形式の御判御教書が最高の文書となる。御判御教書を解読しながら、その特質を解説する。
第13回	軍忠状・着到状	鎌倉・南北朝期に、総領に統率された武士団が合戦に参加した際に作成・提出した文書が軍忠状・着到状である。軍忠状・着到状を解読しながら、当時の戦闘や軍事組織について解説する。
第14回	起請文	人が誓約する際、神仏を仲立ちとして、偽りがあれば神仏の罰を受けることを確約した文書が起請文である。起請文を解読しながら、当時の宗教意識や人間関係について解説する。
第15回	まとめ	古代・中世の文書がどのように作成され、どのように変遷していったかを、社会構造の変化と関連させて整理し、古代・中世社会の特質を確認する。

担当者から一言

講義名	古文書演習II							担当教員	東　幸代
講義コード	1400900	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230HIS204								

授業概要

本演習のねらいは、近世・近代の古文書の解読を通して、くずし字解読の基礎能力を身に付けることにある。あわせて、文献史料読解能力の向上と、近世・近代社会に対する理解の深化を目指す。

到達目標

漢字の部首のくずし方をマスターする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	８０	漢字のくずし字が解読できているか。
レポート課題		
上記以外	２０	毎回の予習課題を完了しているか。 小テストの結果。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

予習を必須とする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	くずし字用例辞典	児玉幸多	東京堂出版	
2				
3				

前提学力等

日本史料講読を履修済みであること。

履修資格

講義名	古文書演習 II							担当教員	東　幸代
講義コード	1400900	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230HIS204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	講義の概要説明。 実力確認のための小テストをおこなう。
第2回	古文書コピーの輪読①	領知宛行状を読む①。
第3回	古文書コピーの輪読②	領知宛行状を読む②。
第4回	古文書コピーの輪読③	年貢免定を読む①。
第5回	古文書コピーの輪読④	年貢免定を読む②。
第6回	古文書コピーの輪読⑤	本学所蔵古文書を読む①。
第7回	古文書コピーの輪読⑥	本学所蔵古文書を読む②。
第8回	古文書コピーの輪読⑦	本学所蔵古文書を読む③。
第9回	古文書コピーの輪読⑧	本学所蔵古文書を読む④。
第10回	古文書コピーの輪読⑨	本学所蔵古文書を読む⑤。
第11回	古文書コピーの輪読⑩	年賀状を読む①。
第12回	古文書コピーの輪読⑪	年賀状を読む②。
第13回	古文書コピーの輪読⑫	木版印刷物を読む①。
第14回	古文書コピーの輪読⑬	木版印刷物を読む②。
第15回	まとめ	学習した部首のくずし方の確認。 実力確認のための小テストをおこなう。

担当者から一言

講義名	自然地理学							担当教員	青木　哲哉※
講義コード	1400970	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C306								

授業概要

この授業では、第四紀（おおむね人類の時代で約200万年前から現在まで）の自然環境をテーマに、自然地理学の研究内容を解説する。
自然地理学は、多岐にわたる自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。授業では、自然環境の中でも代表的な気候と地形を中心に、第四紀で最も大きい環境変化であった氷河期、その後における気候変化、人間の主要な生活舞台となってきた平野（沖積平野）、ならびにそこで頻発した洪水VS人間の闘い（水害）について取り扱う。各項目は多様な自然環境と係わって研究されており、授業は地質や水文（河川・海洋）などにも言及する一般的・包括的な内容となる。
このような自然環境は、人間活動と密接に関係するため、人間社会や地域文化を深く理解する上での重要な知識に数えられる（人間文化学部と地域文化学科のディプロマポリシーAに関連）。また、それは教職の自然地理分野に必須の内容にあたり、教育現場で主体的に活用することができる。本授業では、受講生がこうした自然環境の専門知識を習得し、その基本的な内容について記述・説明できるようになることを目的とする。
授業は、講義形式で行い、複数の問題を出題しながら進める。授業での問題は以前の授業内容、自然環境の基礎知識、及び自然地理学の分析方法を要する事柄などに関するもので、挙手をして答えてもらう。

到達目標

(1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述できるようになる。
(2) 自然環境の専門的・基本的内容を説明できるようになる。
(3) 自然地理学の調査・分析方法を知識として身につけ、その要点を説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	到達確認テストは、到達目標(1)(2)(3)についてそれらの達成状況を試す出題となる。授業内容の理解と把握の度合いを基準に評価する。
レポート課題		
上記以外	20	授業での問題正解と授業内レポートも評価の対象となる。 各授業で出題する問題には、到達目標(1)(2)(3)に係わる授業内容や自然環境の基礎知識、自然地理学の分析方法を必要とする事柄などが幅広く含まれる。積極的な発言に伴う正解数に応じて、成績評価に問題正解点を加点する。

授業外学習

授業の後にノートの記述内容を見直し、授業内容を整理するとともに深くしっかり理解するよう心掛けてほしい。この復習には授業時間と同程度の時間を要する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は必要に応じて紹介する。授業でプリントを適宜配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	自然地理学							担当教員	青木　哲哉※
講義コード	1400970	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C306								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の概要と導入	授業の概要、授業の進め方とスケジュール、到達目標、成績評価方法、及び受講の留意点などについて説明する。
第2回	氷河期(1)－丘の形態と堆積物－	氷河期の発見に関する研究の前半部分を扱う。東ヨーロッパに平原における丘（ターミナルモレーン）の形態や分布、ならびにその堆積物である巨礫粘土の特色などについて説明する。
第3回	氷河期(2)－丘の形成と氷河期の発見－	氷河期の発見に関する研究の後半部分をみる。氷河の性質とそれに関連したターミナルモレーンの形成、ならびにスカンジナビア氷床が拡大していた寒冷期（氷河期）の存在について解説する。
第4回	授業内レポート(1)	授業で説明した自然環境に関するレポートを作成してもらう。
第5回	氷河期終了後の寒冷化	氷河期終了後の気候変化について説明する。放射性炭素年代測定の基本的な原理、それを用いて調査されたターミナルモレーンの形成時期、氷河が拡大した寒冷期（小氷期など）の存在などを取り扱
第6回	約2万年前以降の降水量変化	東アフリカで湖の水位を調査し、約2万年前以降の降水量変化について明らかにした研究を扱う。湖の水位と降水量の関係、過去の水位やその時期を解明する調査方法、ならびにその成果などに言及す
第7回	沖積平野(1)－扇状地－	日本の沖積平野と沖積層の定義を紹介した後、扇状地の特色を扱う。扇状地に分布する微地形とそれらの成因・土地条件や、扇状地の沖積層などについて、河川の作用と関連させて説明する。
第8回	授業内レポート(2)	授業で説明した自然環境に関するレポートを作成してもらう。
第9回	沖積平野(2)－自然堤防帯と三角州－	自然堤防帯と三角州の特色を取り扱う。両者でみられる微地形とそれらの成因・土地条件、ならびに沖積層などについて河川の作用と関連させて説明するとともに、三角州の形態や堆積物、ボーリング
第10回	沖積平野(3)ー三角州の沖積層－	三角州の沖積層を分析することによってわかる環境について解説する。沖積層（沖積層基底礫層、下部砂層、中部泥層、上部砂層、沖積陸成層）の特色から復原できる各層の堆積環境や海岸線の変遷な
第11回	沖積平野(4)－形成過程と環境変化－	約2万年前以降における環境変化と沖積平野の形成について扱う。扇状地、自然堤防帯、及び三角州の形成を気候や海水準変動などの環境変化と関連させながら説明する。
第12回	到達確認テストに関する説明	成績評価方法（確認）、テストの日時と教室、持込種別、試験の出題範囲、出題形式、及び解答の注意事項などについて説明する。
第13回	水害(1)－輪中地域の概要－	輪中地域の概要を取り扱う。輪中の定義、濃尾平野西部における水害の発生要因、及び江戸時代の輪中における人間生活の工夫などについて詳述する。〔キーワード〕 輪中、濃尾平野西部、地盤運
第14回	水害(2)－輪中地域の治水－	輪中地域における人間と洪水の闘いを解説する。江戸時代における輪中の形成（土地開発）と低水位工法、それによって発生した環境問題（天井川と押堀・砂入の形成）、ならびに明治時代の高水位工
第15回	到達確認テスト及び解説	授業内容の理解と把握の度合いを確認する筆記試験（到達確認テスト）を行う。

担当者から一言
(1) 授業中は受講マナーを守ること。 (2) 授業には能動的な姿勢で出席し、問題には積極的に挙手をして解答するように。

講義名	質的データ解析論							担当教員	武田　俊輔
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C205,235S0C205								

授業概要

社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、質的調査の方法を習得することを目的とする。

到達目標

(1)先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。
(2)特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。
(3)質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。
(4)参与観察の基本的な考え方を習得できる。
(5)行ったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	以下の5回のレポートを課す。 1)先行研究や関連資料、統計データを収集することができる(20%)。 2)インタビュー調査を適切に依頼し、また事前に適切な質問項目を設定することができる(20%)
上記以外		毎回提出してもらうレスポンスカードの内容が優れていた場合、加点を行うことがある。1回につき2点、ただし15回の授業を通して、5回以内（10点以内）とする。

レポートの提出回数が3回以下の場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	自分で調べる技術　市民のための調査入門	宮内泰介	岩波書店	4007001170
2	質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美	有斐閣	4641150370
3	よくわかる質的社会調査　プロセス編	谷富夫・山本努	ミネルヴァ書房	4623058441

授業中にレジュメやレポート執筆に必要な資料を配付する。

前提学力等

社会調査士資格認定科目（F科目。資格取得にはE科目の応用データ解析論と本科目のいずれか1つを履修すること）であり、１回生配当の社会調査論を履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	質的データ解析論							担当教員	武田　俊輔
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C205,235S0C205								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	質的調査法の概要と講義全体のスケジュール、レポート評価課題について説明する。
第2回	社会調査における「質的調査法」の位置づけと特徴：「量的調査」	量的調査と質的調査を対比させつつ、量的調査におけるサンプルの「代表性」と、質的調査における事例の「典型性」という考え方について説明する。
第3回	調査における「問題意識」の重要性	調査を行う上で、どのような問題意識を持つかによって、同じ事例を見ていても全く見え方が変わってくる。調査を進めていく中での問題意識の変容とそのことが持つ意義について説明する。
第4回	質的調査におけるドキュメントの発見・収集とデータ化：公的文書	調査を行うに当たって、まず行わなければならないのはテーマに関する先行研究や関連資料の収集である。それらの収集方法について具体的な方法を説明する。
第5回	ドキュメント分析の具体例と実践	収集した文書資料をどのように分析するか、その具体的な実例と方法を説明する。
第6回	聞き取り調査による素材の収集とデータ化のプロセス	インタビュー調査をどのように行うか。その依頼のプロセスに始まって、実際にインタビューを行う上での注意点、またインタビューで得たデータをどのように分析するかについて説明する。
第7回	聞き取り調査の具体例と実践	担当者自身の聞き取り調査に基づくデータ分析を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第8回	参与観察法による素材の収集とデータ化のプロセス	参与観察による調査をどのように行うか。その注意点やデータの整理・収集、その分析方法について説明する。
第9回	参与観察調査の具体例	担当者自身の参与観察調査に基づくデータ分析を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第10回	データの整理と編集：メモ・ノート・カード・KJ法	史資料・インタビュー・参与観察等を通じて様々な形で集まったデータについて、いかにメモやフィールドノーツを作成し、また整理するのか。その具体的な方法について説明する。
第11回	社会調査という行為の社会性：「調査非協力」・ラポール・オー	社会調査を行う上で注意しなくてはならない調査倫理、そして調査そのものが持つ社会性という問題について論じる。
第12回	歴史社会学的研究：内容分析と言説分析	担当者自身の内容分析・言説分析に基づく研究を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第13回	言説生成研究と社会問題の社会学	ある特定のテーマが「社会問題」として人々の意識に浮かび上がるプロセスについて、どのように分析するかを説明する。
第14回	ライフヒストリー研究：フィールドとしての個人	ある1人の個人の人生にも、そこには「社会」が反映している。そうした個人もまた一つのフィールドであり、そうした個人を通じて社会のあり方を分析する方法について説明する。
第15回	概念の構築と脱文脈化・再文脈化：調査を「報告書」「卒論」に	実際に調査したデータを、報告書や卒論にまとめるまでにどのようなプロセスを経るのかについて説明し、講義全体のまとめを行う。

担当者から一言
映像資料を数多く用い、それを見ていることを前提に講義を行う。また授業内でレポートを書いてもらうことや、授業内でレポート執筆に必要な資料を配付することもある。レポートは出席を前提として課すため、欠席しないこと。

講義名	社会学概論							担当教員	武田　俊輔／大野　光明／中村　好孝／ 細馬　宏通／丸山　真央
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C102,135S0C201								

授業概要

本講義は、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法について概説し、あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行うものである。

到達目標

(1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会学的に理解することができるようになる。
(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ることで、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会学的に理解することができるようになる(50%)、(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ることで、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる(50%)について、小レポート・中間レポート・最終レポート(合計100%)。
上記以外		

授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会学　第5版	アンソニー・ギデンズ	而立書房	4880593508
2	Do!ソシオロジー　改訂版 -- 現代日本を社会学で診る	友枝敏雄他編	有斐閣	4641124965
3	社会学入門	塩原良和・竹ノ下弘久編	弘文堂	4335551401

前提学力等

高校の倫理・政治経済、現代社会、世界史、日本史で修得している程度の知識は必要だが、とくに問わない。

履修資格

講義名	社会学概論							担当教員	武田　俊輔／大野　光明／中村　好孝／ 細馬　宏通／丸山　真央
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C102,135S0C201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	社会学に何ができるのか	イントロダクションとして、社会学的な発想に親しむ。
第2回	文化・情報・メディア	メディアを素材とした内容・言説分析の方法を学ぶ。
第3回	グローバル化とナショナリズム	ナショナリズムに関する基本理論を、日本の事例から学ぶ。
第4回	ネットワーク	社会的ネットワークに関する基本理論を学ぶ。
第5回	逸脱・社会問題	社会問題に関する基本理論を学ぶ。
第6回	医療	医療社会学の基礎を学ぶ。
第7回	福祉	福祉についての社会学的な議論を学ぶ。
第8回	ミクロ、エスノメソドロジー	ミクロ社会学・エスノメソドロジーについて概説する。
第9回	軍事・安全保障	軍事や安全保障についての社会学的な議論を学ぶ。
第10回	差別・マイノリティ	差別やマイノリティについての社会学的な議論を学ぶ。
第11回	社会運動	社会運動、労働運動等について概説する。
第12回	教育	教育社会学、若者の移行過程について学ぶ。
第13回	家族	家族の社会学的研究の基礎を学ぶ。
第14回	村落・地域社会	村落・地域社会の社会学的研究の基礎を学ぶ。
第15回	階層・階級	階層・階級の基本的な考え方と現実の姿を学ぶ。

担当者から一言

講義名	社会学史							担当教員	中村　好孝
講義コード	1401060	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

これまでの社会学の歴史について、社会学誕生以前の社会思想、近代に生まれた社会学、現代展開中の社会学の三期に分けて、主要な理論の概要とそれらの展開について学ぶ。社会学の歴史を学ぶことがなぜ大切なのかといえば、本講義でとりあげる社会学的な構え・方法態度は、今でも通用するからである。「社会学」の歴「史」の講義であるが、歴史について学ぶことと、一通りの社会学的な発想について身につけることとを、同じくらいに重要な目標として設定する。

到達目標

(1)社会学の歴史について一通りの知識を得る。(2)個々の社会学の議論・理論について理解する。(3)自分が今生きている社会について、社会学的に考えるための思考方法を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう（20%）。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう（20%）。到達目標(3)について、論述式試験を行なう（30%）。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%）。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう（15%）。

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

通常はレジュメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会学的想像力	ライト・ミルズ	ちくま学芸文庫	978-4480097811
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	社会学史							担当教員	中村　好孝
講義コード	1401060	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	社会学の歴史、社会思想の歴史について学ぶ意義について考える。
第2回	ホッブズ	ホッブズの議論から、社会の成立について考える。
第3回	社会契約説	ロックとルソーの議論を中心に、社会契約説について考える。
第4回	功利主義	ベンサムの議論から、功利主義について考える。
第5回	自由主義1	ミルの議論から、旧来の自由主義について考える。
第6回	自由主義2	現代の自由主義について考える。
第7回	分業論	アダム・スミスの議論から、分業という観点から社会の成立について考える。同感という概念を理解する。
第8回	史的唯物論	マルクスの議論から、社会を歴史的に捉えるということについて学ぶ。
第9回	ヴェーバー	ヴェーバーの議論から、近代社会の近代人について考える。
第10回	デュルケーム	デュルケームの議論から、社会学の方法について考える。
第11回	構造機能主義	パーソンズの社会学から、一般理論の試みについて学ぶ。
第12回	消費社会論	現代の社会学の一つの展開として、消費社会論について学ぶ。
第13回	ミクロ社会学	現代の社会学の一つの展開として、ミクロ社会学について学ぶ。
第14回	個人化論	現代の社会学の一つの展開として、個人化という議論について学ぶ。
第15回	全体のまとめ	社会の成立についての考察という観点から、全体の議論を整理する。

担当者から一言

講義名	社会調査実習（地域文化、人間関係）							担当教員	塚本　礼仁／萩原　和
講義コード	1401120	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320								

授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個々人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。なおこの実習は社会調査士資格・地域調査士資格を取得する際に必要となる認定科目である。

到達目標

(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
(2)調査計画を立案することができる
(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
(4)調査成果を発表し、討論することができる。
(5)報告書を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。

授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動に基づいて調査を行い、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域分析ハンドブック　Excelによる図表づくりの道具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
2				
3				

講義の中で紹介する。

前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論Ⅱもしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習Ⅰ・Ⅱのいずれかの単位を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	社会調査実習（地域文化、人間関係）							担当教員	塚本　礼仁／萩原　和
講義コード	1401120	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと共に、班分けを行う。
第2回	調査方法の解説（1）	社会調査の調査方法について解説する。
第3回	調査方法の解説（2）	社会調査の調査方法について解説する。
第4回	調査方法の解説（3）	社会調査の調査方法について解説する。
第5回	先行研究の収集と読解（1）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解（2）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第7回	先行研究の収集と読解（3）	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第8回	調査計画の策定と発表（1）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第9回	調査計画の策定と発表（2）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第10回	調査計画の策定と発表（3）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第11回	調査計画の策定と発表（4）	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第12回	現地調査（1）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第13回	現地調査（2）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第14回	現地調査（3）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第15回	現地調査（4）	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第16回	調査成果の発表と討論（1）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第17回	調査成果の発表と討論（2）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第18回	調査成果の発表と討論（3）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第19回	調査成果の発表と討論（4）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第20回	調査成果の発表と討論（5）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第21回	調査成果の発表と討論（6）	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第22回	追加調査（1）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第23回	追加調査（2）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第24回	追加調査（3）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第25回	追加調査（4）	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論（1）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第27回	報告書原稿の作成と討論（2）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第28回	報告書原稿の作成と討論（3）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第29回	報告書原稿の作成と討論（4）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第30回	報告書原稿の作成と討論（5）	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。

担当者から一言

講義名	地域社会調査実習							担当教員	塚本　礼仁／萩原　和
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320								

授業概要

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個々人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。

到達目標

(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。
(2)調査計画を立案することができる
(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。
(4)調査成果を発表し、討論することができる。
(5)報告書を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。

授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動にもとづいて調査をおこない、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民俗芸能の伝承活動と地域生活	澁谷美紀	農山漁村文化協会	978-4-540-05325-2
2	地場産業産地の革新	上野和彦	古今書院	978-4-7722-4105-2
3	地域分析ハンドブック　Excelによる図表づくりの道具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9

講義の中で紹介する。

前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論Ⅱもしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習Ⅰ・Ⅱのいずれかの単位を修得していることが望ましい。

履修資格

講義名	地域社会調査実習							担当教員	塚本　礼仁／萩原　和
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと班編成をおこなう。
第2回	調査方法の解説（1）	地域・社会調査の方法、特に調査倫理、危機管理、依頼文書の作成法などについて解説する。
第3回	調査方法の解説（2）	地域・社会調査の方法、特に社会学的な基本事項（インタビュー調査や質的調査における質問紙・調査票の作成、データの整理方法など）について解説する。
第4回	調査方法の解説（3）	地域・社会調査の方法、特に地理学的な基本事項（統計データの入手・使用法、地形図の使用法、土地利用調査・景観調査の手法など）について解説する。
第5回	先行研究の収集と読解（1）	年度のテーマ（①祭祀、②地場産業）に関する先行研究（「参考図書」掲載図書も含む）を班ごとに収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解（2）	年度のテーマ（①祭祀、②地場産業）に関する先行研究（「参考図書」掲載図書も含む）を班ごとに収集し、読解して報告する。
第7回	先行研究の収集と読解（3）	年度のテーマ（①祭祀、②地場産業）に関する先行研究（「参考図書」掲載図書も含む）を班ごとに収集し、読解して報告する。
第8回	調査計画の策定と発表（1）	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第9回	調査計画の策定と発表（2）	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第10回	調査計画の策定と発表（3）	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第11回	調査計画の策定と発表（4）	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第12回	調査計画の策定と発表（5）	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。
第13回	現地調査（1）	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第14回	現地調査（2）	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第15回	現地調査（3）	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。
第16回	調査成果の発表と討論（1）	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第17回	調査成果の発表と討論（2）	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第18回	調査成果の発表と討論（3）	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第19回	調査成果の発表と討論（4）	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第20回	調査成果の発表と討論（5）	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。
第21回	追加調査（1）	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第22回	追加調査（2）	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第23回	追加調査（3）	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第24回	追加調査（4）	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第25回	追加調査（5）	第16回～第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その結果を報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論（1）	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第27回	報告書原稿の作成と討論（2）	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第28回	報告書原稿の作成と討論（3）	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第29回	報告書原稿の作成と討論（4）	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。
第30回	報告書原稿の作成と討論（5）	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。

担当者から一言

講義名	社会調査方法論							担当教員	大野　光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230SOC204,233MKD281,235SOC203								

授業概要

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を身につけることを目的とする。
社会調査は大きくわければ、量的調査と質的調査にわけることができる。本講義では、（1）量的調査については、調査票を用いた調査の方法を修得することに重点を置く。具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、調査方法の選定（全数調査と標本調査）、標本抽出（無作為抽出、標本数・標本誤差の理解）、調査票と質問文の作成、調査の実施（調査票の配布・回収の方法）、収集されたデータの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）について学ぶ。（2）質的調査については、インタビュー調査の方法を学び、面接調査の実施方法やフィールドノートの作成方法などを修得する。
講義では、調査票の作成等、グループワークやグループディスカッションを積極的に取り入れる。

到達目標

（1）調査目的・方法・手順および調査問題の選択と仮説の設定について理解することができる。
（2）社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。
（3）質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標（1）、（2）、（3）について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標（1）と（2）について、授業中に数回の小課題を出して評価する。

小課題（複数回）と最終試験を実施する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会調査の基礎	篠原清夫ほか	弘文堂	978-4335551338
2	入門・社会調査法	轟亮・杉野勇	法律文化社	978-4589038173
3	質的社会調査の方法ーー他者の合理性の理解社会学	岸政彦ほか	有斐閣	978-4641150379

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

グループワークやグループディスカッションに積極的に参加できる人、あるいは、苦手かもしれないけれどチャレンジしてみようという人の参加をお待ちしています。

履修資格

講義名	社会調査方法論							担当教員	大野　光明
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230SOC204,233MKD281,235SOC203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンスとイントロダクション	授業の進め方について説明する。なぜ社会調査を学ぶのか、そして、現代社会においてなぜ社会調査が必要なのかについて考える。
第2回	調査の目的と方法	特に量的調査をおこなう場合の目的と調査方法の決め方について概説する。
第3回	調査の企画	調査の企画に際して考えるべきことを概説する。
第4回	調査の設計と仮説の構成	調査テーマの決定と仮説の構成について概説する。
第5回	全数調査と標本調査	対象者全体に実施する調査と一部を対象に実施する調査の違いと方法について概説する。
第6回	無作為抽出	無作為抽出の原理と方法について概説する。
第7回	標本数と標本誤差	調査に必要な標本数と誤差について概説する。
第8回	サンプリングの方法	標本抽出の諸方法と実際について概説する。
第9回	調査票の作成	調査票の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。
第10回	質問文の作成	質問項目、質問文（ワーディング）の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。
第11回	調査票を用いた調査の実施方法	調査票を用いた調査の諸方法と実際について概説する。
第12回	調査データの整理	エディティング、コーディング、データクリーニング等について概説する。
第13回	質的調査の方法（1）	インタビュー調査の方法と実際について概説する。
第14回	質的調査の方法（2）	フィールドノートの作成方法について概説する。
第15回	まとめ	授業全体のまとめをおこなう。

担当者から一言
社会調査士資格認定科目（B科目）。

講義名	社会調査論							担当教員	中井　治郎※
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130SOC103,133LVD107,135SOC202								

授業概要

社会調査とは、社会事象を人間の社会的生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。

到達目標

(1)社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。
(2)社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。
(3)国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	到達目標（３）については、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	30%	到達目標（１）（２）については、2回程度授業中に小レポートを実施する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。ただし、正当な事由があると認められる場合は考慮するので、事前または事後にその旨申し出ること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書はその都度紹介する。必要に応じて授業中にプリント等の資料を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	社会調査論							担当教員	中井　治郎※
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C103,133LVD107,135S0C202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	社会調査とは何か	社会調査士資格、原語、主要な要素と性格、目的、意義などについて述べる。
第2回	社会調査の分類	実践的調査と科学的調査について述べる。
第3回	社会調査の類型	統計調査（センサス）、学術調査、世論調査、市場調査について述べる。
第4回	社会調査の歴史（１）	ヨーロッパの社会調査の歴史について概観する。
第5回	社会調査の歴史（２）	アメリカの社会調査の歴史について概観する。
第6回	社会調査の歴史（３）	日本の社会調査の歴史について概観する。
第7回	国勢調査	日本の国勢調査の歴史、時期、地域、対象、事項、方法、問題点などについて述べる。
第8回	国際比較調査	国際比較調査の実際と課題について概説する。
第9回	調査研究の方法(1)	量的調査と質的調査について概説する。
第10回	調査研究の方法(2)	統計的方法と事例研究法について概説する。
第11回	調査票調査	調査の種類、手順、過程などについて述べる。
第12回	フィールドワーク	調査の種類、手順、過程などについて述べる。
第13回	様々なデータの活用	ドキュメント分析や映像分析などについて、その手法と課題を述べる。
第14回	社会調査と倫理	調査の規範、倫理、調査とプライバシーなどについて述べる。
第15回	まとめ	この授業全体について、総括を行う。

担当者から一言
この科目は社会調査士資格科目でもあるので、社会調査士の資格を取得しようと思っている人は必ず受講してください。

講義名	人文地理学Ａ							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1401500	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C105								

授業概要

地理学は、地表面で見られる現象が起こる空間的・地域的メカニズムの解明を目指してきた。人文地理学とは、地域の人口、民族、社会・文化、産業、集落（都市・農村）など、人間活動に由来するテーマを分析し、上記の目標にアプローチしようとする分野である。本講義では、人文地理学の基礎理論を紹介し、できるだけ多くの具体例で検証を加えながら、地理的現象の発生および変容のしくみについて考えていきたい。

到達目標

（１）世界・日本の地域問題について、地理学の理論を用いて考察することができる。
（２）世界・日本の地域問題について、統計データから特徴を読み取ることができる。
（３）世界・日本の地域問題について、地図から特徴を読み取ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（１）（２）（３）それぞれ20%。出題方針と採点基準は授業にて通知する。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（１）（２）（３）のいずれか、または複数が関係する宿題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定の教科書は用いず、毎回の配布資料に各回の参考図書などを示す。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地理学基礎シリーズ1　地理学概論	上野和彦ほか	朝倉書店	978-4-254-16816-7
2				
3				

適宜プリントなどを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	人文地理学Ａ							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1401500	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C105								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	地理学的な見方と考え方	人文地理学Ａ全体をつらぬく地理学の基本的な概念やキーワードについて解説する。
第3回	地理情報の地図化	地理的現象を俯瞰するためのツールである主題図について解説するとともに、デジタルマッピングの技術としてのGIS（地理情報システム）のしくみや社会的意義についても述べる。
第4回	空間認知と地理学	「頭の中の地理情報」で描かれるメンタルマップについて、行動地理学の研究成果や実社会での応用・活用例を紹介する。
第5回	農業立地論	経済立地論（食料生産）の基礎であるチューネンの農業立地論について解説する。
第6回	食料の地理学	古典的農業立地論の限界を押さえたうえで、「食」にまつわる社会・経済的な環境を研究対象とするフードシステム論について解説する。
第7回	工業立地論	経済立地論（工業）の基礎であるウェーバーの工業立地論について解説する。
第8回	産業と地理学	古典的工業立地論の限界を押さえたうえで、ポーターの産業クラスター論を紹介し、立地論から地域政策・計画論への拡張について述べる。
第9回	都市の地理学１	経済立地論（商業・サービス業）の基礎であるクリスタラーの中心地理論、さらにそこから派生した都市群システムの考え方について解説する。
第10回	都市の地理学２	都市の内部構造モデルに触れたうえで、現代の日本における人文的・自然的「都市問題」とそれらに関する「都市政策」について解説する。
第11回	ネットワークと地理学	コンビニエンスストアなど、商業・サービス業のチェーン展開と物流システムの特徴を整理し、これらからわかる「空間の組織化」について解説する。
第12回	文化と地理学	文化の伝播や地域差に関わる一般法則（空間的拡散モデル）を押さえたうえで、方言・食文化・地名など様々な文化地図を示し、その特徴を解説・議論する。
第13回	観光と地理学１	バトラーによる観光地の発展モデルをふまえつつ、成長の鈍化が始まる「許容限界圏」における観光地の対応を、「地域イメージ」の付与・補強という観点から議論する。
第14回	観光と地理学２	ニュー・ツーリズムのひとつとして注目を集めている「産業観光」を取り上げ、企業・産地がものづくりを見せる取り組みの現状と課題について解説する。
第15回	世界理解と地理学	世界を舞台に店舗を展開する巨大ファーストフードチェーンを取り上げ、地理学の立場から、グローバル化とローカル化の同期について論じる。

担当者から一言
地図帳、色鉛筆（セット）を持参すること。

講義名	人文地理学Ｂ							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1401510	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C211								

授業概要

コンピュータの普及にともない、GIS（地理情報システム）によって可視化された地理空間情報は、社会に広く浸透しつつある。例えば、自治体によるハザードマップの発行、警察の犯罪発生地点データの一般公開、ビジネス界におけるエリア・マーケティングなどのように、各方面で「場所」と「情報」を結びつけるGISが活用されてきた。本講義では、ソフトウェアを用いた実習も取り入れつつ、GISの理論と実践について解説する。

到達目標

（１）GISのしくみを理解し、地理データを探索・収集することができる。
（２）GISソフトウェアを操作し、地理的データを地図化することができる。
（３）自作の主題図をもとに地域問題を説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	オリジナルの主題図（第14・15回の授業で作成）を含む地域分析レポート。到達目標（１）（２）（３）それぞれ20%とする。
上記以外	40	毎回の作業成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5
2	フリーGISソフト　MANDARAパーフェクトマスター	谷　謙二	古今書院	978-4-7722-8109-6
3				

適宜プリントなどを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	人文地理学Ｂ							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1401510	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C211								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	GIS概論1	地理空間情報と社会
第3回	GIS概論2	GISデータの種類と取得方法
第4回	ソフトウェアの基本操作	MANDARAの機能、データ（属性・地図）の編集と結合
第5回	GISによる地形の分析	基盤地図情報（標高）を用いた段彩図の作成
第6回	GISによる土地利用の分析	国土数値情報細分土地利用メッシュデータを用いた土地利用図の作成
第7回	GISによる人口の分析	階級区分図の作成
第8回	GISによる農業の分析	農産物流通図の作成（線オブジェクト）
第9回	GISによる工業の分析	工業立地図の作成（アドレスマッチング）
第10回	GISによる商業の分析	店舗分布図の作成（バッファリング）
第11回	GISによる都市環境の分析	ヒートアイランド現象の地図化（土地利用図と等温線図のオーバーレイ）
第12回	GISと防災	火災危険度マップの作成
第13回	GISと防犯	犯罪危険個所マップの作成
第14回	GISによる地域分析1	企画、データの探索・収集
第15回	GISによる地域分析2	独自データによる地図作成

担当者から一言

講義名	西洋史概説							担当教員	北村　知之※
講義コード	1401750	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH201								

授業概要

高校の世界史で学んだヨーロッパ史を踏まえながら、今日のヨーロッパの形成史をたどる。特に民族移動や民族間の対立・融合に注目する。

到達目標

西欧世界の成立過程をしっかり意識しながら、現在のヨーロッパを見ることができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		下記参照
レポート課題		下記参照
上記以外		下記参照

３日間の集中講義なので、初日と２日目に宿題としてレポートを課し、最終日に試験を行う。これらを総合的に評価して成績をつける。

授業外学習

毎日レポートの宿題を課すので、復習をしっかりやってもらいたい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕		ミネルヴァ書房	
2	物語　○○○の歴史シリーズ		中央公論社（中公新書）	
3	図説　○○○の歴史シリーズ		河出書房新社	

前提学力等

履修資格

講義名	西洋史概説							担当教員	北村　知之※
講義コード	1401750	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ヨーロッパの地勢	ヨーロッパの地理を確認する。
第2回	ヨーロッパの言語	ヨーロッパの言語の歴史的分類について概略を知る。
第3回	先史時代のヨーロッパ	先史時代、ヨーロッパにはどんな人たちが住んでいたのか。ヨーロッパを形成する諸民族の分布や動向を知る。
第4回	ローマ帝国の形成	紀元前のローマが地中海の覇権国家に成長してゆく過程をたどる。
第5回	ローマと対抗する北方民族	ローマがヨーロッパ全体に拡大する過程は、北方の先住民との対立の歴史でもある。拡大するローマに対してケルトやゲルマンといった北方民族がどのように対抗したのかを見る。
第6回	ローマ帝国における北方民族	世界帝国となったローマの中にゲルマン人がどのように組み込まれていたのかに注目する。
第7回	ゲルマン民族の大移動	ゲルマン民族の大移動とはどのような事態だったのか。各民族に焦点を当てながら、その具体的様相を見てゆく。
第8回	カタラウヌムの戦い	古代末期の世界大戦。帝国と諸民族の合従連衡と、その後の西ローマ帝国の崩壊過程を概観する。
第9回	西ローマ帝国の消滅	西ローマ帝国が崩壊し、西欧中世世界が始まる。フランク王国や西ゴート王国の成立をたどる。
第10回	スペインのイスラム化	８世紀以降、スペイン（イベリア半島）はイスラム勢力の支配下にあった。ヨーロッパに対するイスラムの影響について、具体的様相を見る。
第11回	フランク王国とレコンキスタ	イスラム勢力はフランスまで攻め込んだがピレネー以南へ退けられた。その後のキリスト教勢力の失地回復はどのように進行したか。スペインの形成過程をたどる。
第12回	ゲルマン人のイギリス侵入	ローマがブリテン島から撤退した後、ブリテン島に侵入してきたゲルマン勢力はどのような展開をしたか。初期英国史を概観する。
第13回	ヴァイキングの時代	北欧のノルマン人たちが南下し、イギリスやフランス、さらには地中海にまで勢力を拡大してゆく。西欧におけるヴァイキングの影響を考察する。
第14回	フランク王国の分裂	９世紀、フランク王国が分裂を繰り返す中で、今日の西欧の原型が形成される。その過程をたどる。
第15回	総括	全体を振り返り、統一的な見通しを得る。

担当者から一言

講義名	組織とネットワークの社会学/							担当教員	岩舘　豊※
講義コード	1401790	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C302,335S0C309								

授業概要

組織とネットワークは社会を構成するきわめて重要な要素である。たとえば、企業、学校、役所、コンビニなどのフランチャイズ・ネットワーク、インターネットで結びつくリアル／ヴァーチャルなコミュニティ等々を抜きに現代社会を語ることは不可能である。また、社会そのものの存在を実感することは困難でも、組織とネットワークであればその存在を具体的で可視的なものとして認識することはさほど難しくない。したがって、組織とネットワークは、社会というつかみどころのない対象を捉えるための格好の切り口または出発点になりうる。このような問題意識のもとで近代以降の組織とネットワークの特徴を考察することによって、近現代社会の構造と変動を理解するとともに、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につけることがこの授業の目的である。

授業では、官僚制化と脱官僚制化のダイナミズムを軸としながら、組織とネットワークの歴史的変遷を見ていく。概念と理論について説明するだけでなく、関心と理解を深めるために映像や新聞記事などを積極的に活用しながら授業を進める。

到達目標

(1) 近代以降の組織とネットワークに関する基礎的な知識を得る
(2) 組織とネットワークの考察を通して、近現代社会の構造と変動に関する理解を深める
(3) 組織とネットワークの考察を通して、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	最終レポート
上記以外	60	平常点（出席・授業への参加度） 課題（授業内の作業）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは特に指定せず、配布資料をもとに講義を進める。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	権力と支配	M.ウェーバー	講談社	
2	産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する	小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充	有斐閣	
3	ボランティアからひろがる公共空間	関嘉寛	梓出版社	

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』、有斐閣、第4章「組織とネットワーク」。

前提学力等

履修資格

講義名	組織とネットワークの社会学/							担当教員	岩舘　豊※
講義コード	1401790	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C302,335S0C309								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方と成績評価の方法について説明する。
第2回	社会と組織・ネットワーク	組織とネットワークが社会においてどのような役割を果たしているかを考察する。
第3回	官僚制組織	ウェーバーの官僚制理論について学ぶ。
第4回	官僚制の逆機能	官僚制が持つ逆機能をマートンの議論を中心に考察する。
第5回	組織の合理化	フォード生産システムについて学ぶ。
第6回	ポスト・フォーディズム	「新時代の『日本的経営』」とその後の展開について、ポストフォーディズムの視点から概観する
第7回	労働のフレキシブル化	正社員の過重労働と非正規雇用の拡大について学び、その社会的影響を考察する。
第8回	労働組合の歴史	企業別労働組合と個人加盟型ユニオンについて学ぶ
第9回	労働組合の機能	労働者の権利と労働組合の機能について学ぶ
第10回	若者の労働組合実践	非正規で働く若者の労働組合実践の事例を考察する
第11回	脱官僚制とネットワーク	現代社会のネットワーク化について概観する
第12回	非営利組織	NPO・NGOの基本と社会関係資本について学ぶ
第13回	災害とボランティア①	阪神・淡路大震災の経験から学ぶ
第14回	災害とボランティア②	東日本大震災・津波被災地のボランティア活動の事例を考察する
第15回	まとめ	これまでの授業を振り返りながら、組織とネットワークが社会においてどのような役割を果たしているかを改めて検討する。

担当者から一言

講義名	卒業研究・論文（地域文化）							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／中井　均／萩原　和／濱崎　一志／水野　章二／横田　祥子
講義コード	1401830	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	430REG402								

授業概要

規定に従って、研究の成果を論文（作品）として提出する。

到達目標

(1)研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現・映像表現などによる卒業論文（作品）が作成できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現・映像表現などによる卒業論文（作品）が作成できるようになるについては、論文（作品）および口頭試問の内容により評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・論文（地域文化）							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1401830	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	430REG402								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容、スケジュールについて説明する。
第2回	卒業研究　その１	
第3回	卒業研究　その２	
第4回	卒業研究　その３	
第5回	卒業研究　その４	
第6回	卒業研究　その５	
第7回	卒業研究　その６	
第8回	卒業研究　その７	
第9回	卒業研究　その８	
第10回	卒業研究　その９	
第11回	卒業研究　その10	
第12回	卒業研究　その11	
第13回	卒業研究　その12	
第14回	卒業研究　その13	
第15回	卒業研究　その14	
第16回	卒業研究　その15	
第17回	卒業研究　その16	
第18回	卒業研究　その17	
第19回	卒業研究　その18	
第20回	卒業研究　その19	
第21回	卒業研究　その20	
第22回	卒業研究　その21	
第23回	卒業研究　その22	
第24回	卒業研究　その23	
第25回	卒業研究　その24	
第26回	卒業研究　その25	
第27回	卒業研究　その26	
第28回	卒業研究　その27	
第29回	卒業研究　その28	
第30回	卒業論文（作品）の完成	卒業論文（作品）を完成させ、期限内に提出する。

担当者から一言

１．担当教員の指導により、４年次前期の早い時期に卒業研究のテーマをかためて研究を進めること。
２．後期の早い時期に行う中間報告会で、卒業研究の進捗状況等を発表すること。

講義名	対外文化交流論Ａ							担当教員	鈴木　開
講義コード	1401840	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC210								

授業概要

テーマ：14～19世紀の東アジア国際関係と朝鮮半島

ねらい：①14～19世紀における中国（明、清）と朝鮮（高麗、朝鮮）の関係を制度と交渉の両面から概観する。②この時期の中朝関係をモデルとして構築された冊封体制論、朝貢システム論といった学説を実態の面から検証する。以上を通じて朝鮮半島と対外諸勢力との交流のあり方を歴史的な観点から説明できるようになることを目指す。

キーワード：韓国、朝鮮、中朝関係、中韓関係、国際政治、東アジア

到達目標

（1）東アジア国際関係の実情を中朝・中韓関係を軸として理解する。
（2）レポート課題を通じて日朝関係について理解を深め、中朝・中韓関係との違いを理解する。
（3）東アジア国際関係の背景を理解することで、東アジアにおける対外文化交流の歴史的特徴について説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	下記参考書一冊以上に目を通し、レポートを作成する。作成方法は授業時に指示する。
上記以外	30	平常点。授業への参加態度、積極的な発言などを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合、評価の対象としないことがある。

授業外学習

下記参考書一冊以上に目を通すこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。毎回、教員が作成した資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	朝鮮通信使（岩波新書）	仲尾宏	岩波書店	
2	新・倭館（ゆまに学芸選書）	田代和生	ゆまに書房	
3	朝鮮人のみた中世日本（歴史文化ライブラリー）	関周一	吉川弘文館	

上記のほか、講義時に適宜紹介する。

前提学力等

特にないが、関連資料を紹介するので、漢文講読、中国語、韓国語、モンゴル語などを履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	対外文化交流論Ａ							担当教員	鈴木　開
講義コード	1401840	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC210								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	はじめに―中朝・中韓関係という問題	本講義で扱う時代と地域、その理由について説明する。
第2回	元・明交替と高麗	元の崩壊と明の成立時期における中朝関係について解説する。
第3回	朝明関係①：15世紀	朝鮮王朝の成立と明との関係について考察する。
第4回	朝明関係②：16世紀	16世紀における朝鮮と明の歴史認識問題について解説する。
第5回	朝明関係③：17世紀	明朝末期における朝鮮との関係の変化について考察する。
第6回	豊臣秀吉の朝鮮侵略①：壬辰の乱・その一	豊臣秀吉の第一次朝鮮侵略について概要を述べる。
第7回	豊臣秀吉の朝鮮侵略②：壬辰の乱・その二	明・朝鮮からみた豊臣秀吉の朝鮮侵略について解説する。
第8回	豊臣秀吉の朝鮮侵略③：丁酉の乱	豊臣秀吉の第二次朝鮮侵略について朝明関係に与えた影響を中心に解説する。
第9回	明・清交替と朝鮮①：丁卯の乱	清の第一次朝鮮侵略について概要を述べる。
第10回	明・清交替と朝鮮②：丙子の乱	清の第二次朝鮮侵略の概要と歴史的意義について述べる。
第11回	朝清関係①：17世紀	戦乱の時代における朝鮮社会の状況とそれをめぐる国際情勢について述べる。
第12回	朝清関係②：18世紀	朝鮮と清の間の領土問題や歴史認識の問題について解説する。
第13回	朝清関係③：19世紀・その一	清朝末期の国際関係と朝清関係の歴史的意義について解説する。
第14回	朝清関係④：19世紀・その二	朝鮮と清の外交関係の終焉と交流の様相について述べる。
第15回	おわりに―歴史的にみた中朝・中韓関係	本講義のまとめとして、中朝・中韓関係の実態とそれを語る言説の食い違いについて述べる。

担当者から一言
現在の国際関係にも関心を向けながら講義に臨んで下さい。

講義名	対外文化交流論Ｂ							担当教員	土田　純子※
講義コード	1401850	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

いかなる地域・国も完全孤立の状態では存続しえない。隣接地域・隣接国との交流、航空機のある現在ははるか遠方の地域・国との文化的・経済的・政治的・社会的交流関係の中で、各地域・国はその歴史を刻み込んできたのであり、このことは現在進行形でもある。付け加えるなら、個人レベルにおいてもそれは当てはまる。日本列島は海を隔てて中国大陸・朝鮮半島などから地理的に孤立しているように見えるが、その海こそが交流の橋渡し役であった。日本文化は、主に中国・朝鮮の文化を常に取り入れてきた。最近では欧米文化も取り入れ、多様な文化を融合しつつあるように見える。本授業では、主に考古資料を中心に据えて、日本の対外交流の歴史を旧石器時代から三国時代まで通観するとともに、対外交流の具体例を掘り下げてみる。

到達目標

１．日本列島の地理的位置の再確認と海の再評価　２．日本文化は常に外来文化を吸収することによって発展してきたことを理解する３．文化の多様性を認め、文化融合の過程を理解する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	中間テストと期末テストを行い、配分は各々40%。
レポート課題	0	レポートは課しません。
上記以外	20	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

３分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業日の前日までに、ポータルにパワーポイントの資料を登録します。これをプリントまたはノートパソコンにダウンロードして、授業時に使用してください。これが教科書です。これを基に授業を行います。そのため、あらかじめポータルから資料をダウンロードすることが事前の準備と言え

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	配布するパワーポイントの資料			
2				
3				

授業日の前日までに、ポータルにパワーポイントの資料を登録します。これをプリントまたはノートパソコンにダウンロードして、授業時に使用し

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	概説　韓国の考古学	韓国考古学会 編	同成社	978-4886216397
2	東アジアと百済土器	土田純子	同成社	978-4886217509
3				

前提学力等

履修資格

講義名	対外文化交流論Ｂ							担当教員	土田　純子※
講義コード	1401850	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の説明と朝鮮半島の地理・歴史・文化	授業の主舞台である朝鮮半島の地理・歴史・文化について概説する。
第2回	新石器・縄文時代の対外交流	新石器時代の土器・装身具・漁労道具が日本で出土　北部九州と朝鮮半島南部の交流　黒曜石の移動
第3回	青銅器・弥生時代の対外交流（1）	朝鮮半島からの渡来人による稲作文化・青銅器・鉄器などの新技術　中国への朝貢　朝鮮半島南部から弥生土器出土
第4回	初期鉄器時代～原三国時代・弥生時代の対外交流（2）	中国への朝貢　朝鮮半島南部から弥生土器出土
第5回	高句麗の対外交流と日本の壁画	高句麗の対外交流を概説し、高句麗の工人が描いたと思われるキトラ古墳壁画などとその背景。
第6回	百済・中国の対外交流	百済出土中国陶磁器、青銅器や仏教伝来。日本にない中国遺物が百済にある意味。
第7回	前半部のまとめと中間テスト	前半部におけるまとめとそれに対する中間テストを行う。テストはオープンブック形式で行う。
第8回	百済・倭の対外交流（１）	韓国に前方後円墳　埴輪に似た円筒形土製品　須恵器の出土。
第9回	百済・倭の対外交流（2）	大壁建物・オンドル、横穴式石室、横穴墓。
第10回	百済・倭の対外交流（3）	都城制と仏教伝来。
第11回	百済と高句麗の対外交流	敵対国であった高句麗との関係を考古資料からひも解く。
第12回	加耶と倭の対外交流	須恵器の登場、加耶の倭系遺物の出土状況。
第13回	新羅と倭の対外交流	文献に見られる新羅と倭の関係。両地域で見られる考古資料の把握。
第14回	加耶・新羅と高句麗・中国の対外交流	新羅と高句麗との関係。高句麗の南下によって加耶・新羅にどのような変化があったのか。
第15回	後半部のまとめと期末テスト	後半部におけるまとめとそれに対する中間テストを行う。テストはオープンブック形式で行う。

担当者から一言
当たり前のことだが、授業中私語や雑音は慎むこと。

講義名	対外文化交流論Ｃ/							担当教員	Borjigin Burensain／河　かおる
講義コード	1401860	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

日本人の海外移民の歴史について学ぶ。日本の近代史は、移民活動をぬきにしては語れない。本学が位置する滋賀県も多くの移民を送り出した。日本人の移住先は、ハワイ、アメリカ本土やカナダをはじめ、メキシコ、ブラジルなどの中南米、朝鮮、満州、中国本土、ロシア極東、樺太、南洋群島、東南アジア、オセアニアとひろい範囲におよんでいる。日本人が、いつ、どこへ移住し、どんな仕事についたか、移住先の地域の性格にどのような違いがあったかなどについて、概要とともに、いくつかの地域を取り上げて具体的に学ぶ。

到達目標

(1)日本人の海外移民の歴史について概要を理解する。
(2)授業で扱う具体的な地域への移民について、その特徴を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	期末プレゼンテーション　30% 期末レポート　30%
上記以外	40	小レポートなど　30% 振り返りレポート　10%

授業外学習

課題レポート

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	海を渡った日本人	岡部牧夫	山川出版社	978-4634545601
2				
3				

講義内容に関連する文献リストを授業で配付する

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	対外文化交流論Ｃ/							担当教員	Borjigin Burensain／河　かおる
講義コード	1401860	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	日本人の海外移民について
第2回	近代日本人移民のはじまり	ハワイ移民
第3回	からゆきさん	
第4回	植民地への移民	朝鮮(1)
第5回	植民地への移民	朝鮮(2)
第6回	アメリカ・メキシコ移民の発展と排日	
第7回	滋賀県からカナダへの移民(1)	映画「バンクーバーの朝日」上映
第8回	滋賀県からカナダへの移民(2)	
第9回	南米移民(1)	
第10回	南米移民(2)	
第11回	満州移民(1)	
第12回	満州移民(2)	
第13回	満州移民の引揚と戦後	
第14回	朝鮮移民の引揚と戦後	
第15回	戦後移民と日系社会の発展	
第16回	期末プレゼンテーション(1)	
第17回	期末プレゼンテーション(2)	

担当者から一言

講義名	地域経済史論							担当教員	東　幸代
講義コード	1401900	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HIS302								

授業概要

日本近世における地域経済の史的展開をテーマとする講義である。近世の地域市場のみならず、全国市場においても重要な商品であった肥料を素材とし、近江国の地域経済のあり方を考える。また、前近代において重要な流通路であった琵琶湖の舟運の特徴について示す。

到達目標

日本近世の流通構造とその変遷を理解するとともに、その背景にある社会構造を理解する。あわせて、流通史における琵琶湖舟運の意義を理解することを目指す。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	８０	日本近世の流通構造とその変遷について理解ができているか。 琵琶湖舟運の意義について理解ができているか。 読み手に理解可能な説明ができているか。
レポート課題	２０	講義の概要が理解できているか。 正しい日本語を使用しているか。
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	近世魚肥流通の地域的展開	古田悦造	古今書院	
2				
3				

講義中にプリントを配布する。

前提学力等

近世近江論を受講済みであることが望ましい。高校日本史の教科書を事前に読んでおくと、理解がさらに深まる。

履修資格

講義名	地域経済史論							担当教員	東　幸代
講義コード	1401900	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HIS302								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	講義の概要説明。
第2回	近世の全国市場と地域市場①	近世の全国市場についての説明。
第3回	近世の全国市場と地域市場②	近世の地域市場についての説明。
第4回	近世の肥料とその流通①	近世の村と農業についての説明。
第5回	近世の肥料とその流通②	近世の肥料についての説明。
第6回	近世の肥料とその流通③	関西漁民についての説明。
第7回	近世の肥料とその流通④	干鰯の流通についての説明。
第8回	蝦夷地と近江国①	蝦夷地で活躍した近江商人についての説明。
第9回	蝦夷地と近江国②	蝦夷地の漁業についての説明。
第10回	魚肥と魚種転換	魚種転換の構造についての説明。
第11回	琵琶湖舟運の構造①	琵琶湖舟運の概要についての説明。
第12回	琵琶湖舟運の構造②	近世の琵琶湖舟運の特徴についての説明。
第13回	近江国内の魚肥流通①	近江国内における鯡魚肥の流通についての説明①。
第14回	近江国内の魚肥流通②	近江国内における鯡魚肥の流通についての説明②。
第15回	まとめ	講義全体の内容確認。

担当者から一言

講義名	地域研究論							担当教員	萩原　和
講義コード	1401920	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C104-C								

授業概要

当科目は、地域文化学の基礎的学問分野の知見を踏まえて、諸分野の研究課題に対する調査研究の基本、特にフィールドワークの方法論について概説する。特に、地域文化学科では、2年次においてプレゼミが始まることから、配属前に地域研究の基礎を固めること、さらには、環琵琶湖文化論実習で得た実地での知見を方法論として再構成し、自身の興味関心に根差した地域文化学研究の所作を身につけることを目的とする。

到達目標

（1）地域研究におけるフィールドワークの意義を概説し、配慮すべきポイントを3つ以上挙げ、その理由を説明することができる。
（2）過去に発刊された「環琵琶湖文化論実習報告書」を題材として、当該研究で採用されたフィールドワーク手法や研究アプローチを簡潔に説明することができる。
（3）地域研究の成果取りまとめの意義を概説し、社会還元の具体的な方法を3つ以上例示することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標における内容に関して、定期試験により評価する。
レポート課題	30	レスポンスペーパーをもとに評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学的滋賀ガイド　こだわりの歩き方	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科【編】	昭和堂	9784812211410
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域研究論							担当教員	萩原　和
講義コード	1401920	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C104-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域研究とは何か	ガイダンス（地域文化学科におけるフィールドワークの意図）
第2回	地域文化学が対象とするテーマ	環琵琶湖文化論実習から卒論までを俯瞰して
第3回	「歴史」領域からの研究アプローチ	過去の「文書記録」を読み込み、「仮説」、「論証」していく研究手法とは
第4回	「交流」領域からの研究アプローチ	ヒト、モノ、情報の関係性から現象を読み解く研究手法とは
第5回	「遺産」領域からの研究アプローチ	遺構、伝承から人々の営みを明らかにし、その意味性を問う研究手法とは
第6回	「現代社会」領域からの研究アプローチ	現代社会事象から「法則性」を見出し、社会実装する研究手法とは
第7回	フィールドに出る前の準備①	フィールドに関する情報収集の手順
第8回	フィールドに出る前の準備②	ヒアリングを含めた実地調査における「問い」の整理
第9回	フィールド調査の実施	調査対象へのアプローチ方法と留意点
第10回	フィールド調査後のデータ整理と分析	紙資料の整理・保存とデジタルデータ化
第11回	地域文化学視点での成果取りまとめ①	一次資料から図表づくりまで
第12回	地域文化学視点での成果取りまとめ②	得られた知見の文章化
第13回	地域への研究成果の還元①	環琵琶湖文化論実習の報告書を事例に
第14回	地域への研究成果の還元②	研究室ゼミ、学会発表を事例に
第15回	授業の総括	まとめ

担当者から一言

講義名	地域考古学Ａ							担当教員	秋山　浩三※
講義コード	1401930	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

○この授業は講義形式を中心とし、受講生との討論をまじえながら実施する。

○弥生時代に関する地域的特性を中心とした内容の講義を実施する。

○弥生時代を特徴づける諸要素について、全般的かつ基礎的な内容について学ぶ。

○時期的な対象範囲は、弥生時代を中心としつつ、先行する縄文時代、後続する古墳時代とのつながりについても考える。

○地域的な対象範囲は、列島全体とし、各地方の弥生時代の様相を学ぶが、とりわけ滋賀県が位置する近畿地方に関しては、具体的な事例を豊富にとりあげ、近畿弥生文化・社会の地域的な特性について考える。

○近年の考古学界で盛んに議論される、弥生時代研究の諸問題（都市論、実年代論、生産専業論ほか）に関しては、ややほりさげた内容を学ぶ。

到達目標

第１回
弥生時代研究の現状におけるあらましを理解する。
第２・３回
弥生時代開始の内容・意義を理解する。
第４・５回
近畿弥生文化の伝播における具体を理解する。
第６回
弥生人の生活環境・様相を理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	第１回～第15回の講義のなかからテーマを選び、その要旨をまとめて自分の考えを問うためのレポート提出を課す。
上記以外	50%	討論への能動的な参加など、講義中における受講生の積極性。

３分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

弥生時代の事項にかぎらず、新聞やネットにおける、考古学に関するニュース・情報に関心をもつように。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	弥生実年代と都市論のゆくえ　池上曽根遺跡	秋山浩三	新泉社	4-7877-0633-0
2	弥生大形農耕集落の研究	秋山浩三	青木書店	978-4-250-20713-6
3	弥生時代のモノとムラ	秋山浩三	新泉社	978‐4-7877-1703-0

必要なものは講義中にプリント配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学Ａ							担当教員	秋山　浩三※
講義コード	1401930	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	弥生人と我々とのつながり	○今回の講義に関するガイダンス。 ○受講生との討論を通じて、弥生時代の地域的な特性や近年の研究潮流に関して学ぶ。
第2回	米食のはじまり －縄文時代から弥生時代へ－①	○縄文時代から弥生時代への移行期をめぐる具体的様相に関して学ぶ。 ○列島における灌漑水田稲作の開始と伝播について考える。
第3回	同上②	○同上。
第4回	最初の＜近畿弥生人＞は 何処から来たか①	○近畿地方における弥生時代の開始状況に関して学ぶ。 ○近畿地方への灌漑水田稲作の伝播に関し、具体的な経路などについて考える。
第5回	同上②	○同上。
第6回	弥生人の体格と衣食住	○縄文時代から弥生時代への移行にあたっての人々の体格の変化や、当時の生活状況に関して学ぶ。 ○体格や生活の変化の要因について考える。
第7回	弥生人の生業（なりわい）	○弥生時代における農業をはじめとする各種の労働内容に関して学ぶ。 ○多方面におよぶ各種労働の意義や生産状況について考える。
第8回	弥生人のマツリ①	○縄文時代から弥生時代への移行期における祭祀形態、弥生時代青銅器を用いた祭祀の展開に関して学ぶ。
第9回	同上②	○同上。
第10回	弥生集落の風景①	○弥生時代集落における個々の構成要素や全体構造、各集落相互の関係性の様相に関して学ぶ。 ○集落様相の地域的な差異などの要因について考える。
第11回	同上②	○同上。
第12回	弥生時代に「都市」は存在したか	○近年盛んに議論される「弥生都市論」に関して学ぶ。 ○弥生都市論者が主張する論点の是非ついて考える。
第13回	卑弥呼の墓はどれか －弥生墓から古墳へ－	○弥生時代の埋葬形態の特徴、古墳との相違などに関して学ぶ。 ○倭国女王・邪馬台国の卑弥呼の墳墓にかかわる議論をふくめ出現期古墳について考える。
第14回	古墳の誕生 －弥生時代から古墳時代へ－	○古墳の出現をはじめ、弥生時代から古墳時代への移行期に関して学ぶ。 ○古墳出現期の時期的な解釈をふくめた移行期の問題について考える。
第15回	弥生社会をどのように考えるか	○講義全体の総括。 ○受講生との討論を通じて、様々な「弥生時代観」に関して学ぶ。

担当者から一言
本講義に関連するような、身近にある博物館や整備された遺跡について、事前に見学しておくと講義の内容を理解しやすい。

講義名	地域考古学Ｂ							担当教員	細川　修平※
講義コード	1401940	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

講義では、琵琶湖の周辺地域に築造された古墳を主な題材として、
①古墳とは何か。
②古墳時代に琵琶湖地域はどのような役割を担っていたのか。
③古墳に代表される遺跡を、現在の地域社会にどのように活かすのか。
という3つの課題について考えることを目標とします。
古墳とは、3世紀中頃の日本列島に出現した大型の墳墓です。古代社会が発展する過程において、権力者が巨大な墓を築造し、死後においても自らの権力を誇示するという動向が見られます。日本列島では、3世紀中頃に前方後円墳という日本独特の大型墳墓を誕生させます。この前方後円墳は７世紀初頭頃まで、300年以上にわたって築造されます。この300年間を古墳時代と呼び、初現的な古代国家、初期国家が形作られた時代と言われています。講義では、この300年間をターゲットして、古墳とは何か、古墳時代とはどのような時代であったのかを考えます。
具体的には、「琵琶湖地域」というフィールドを中心に、古墳の動向を検討します。琵琶湖地域の中で、どのような古墳が作られたのか。それは中央（大和や河内）の古墳と比べてどのような特徴があるのか。古墳の作り方や古墳を作る場所が300年間でどのように変化するのか。「琵琶湖地域」を題材に、具体的に、詳しくその過程を明らかにすることによって、古墳時代がどのような時代であったかを考えます。
「琵琶湖は日本の東西南北の結節点である。」「琵琶湖を制するものは天下を制する。」日常の生活でも耳にする言葉です。しかし、その実態

到達目標

（１）古墳時代とはどのような時代なのか。
（２）古墳時代の琵琶湖地域は、どのような地域であったのか。
（３）地域とは何か。そして、現在の地域において、古墳や遺跡をどのように活用するのか。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	６０	到達目標（１）（２）（３）について、自らの考えを問うためのレポート課題を課す。
上記以外	４０	講義の中で、数回の小課題を与え、自らの考えをまとめるためのミニレポートを課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中期古墳とその時代	広瀬和雄　編	雄山閣	978-4-639-02357-9
2				
3				

特に、必携ではありません。何かの機会に目を通しておけば、参考になると思います。

前提学力等

履修資格

講義名	地域考古学Ｂ							担当教員	細川　修平※
講義コード	1401940	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	古墳とは何か	3世紀中頃から7世紀初頭まで、日本列島には「前方後円墳」と呼ぶ大型の墳墓が営まれます。 前方後円墳に関する学史を確認しつつ、講義全体のガイダンスとします。
第2回	弥生時代の祭祀	古墳時代に先立つ弥生時代は、どのような時代だったのか。 野洲市の大岩山遺跡から出土した銅鐸を主な題材に、弥生時代の祭祀について概観します。銅鐸とは
第3回	弥生時代の墳墓	弥生時代には、どのようが墳墓が作られたのか。 古墳時代に続く、弥生時代の終末期には、墳墓が大きく発展します。東近江市の神郷亀塚墳丘墓を主
第4回	古墳の成立と邪馬台国	最近の学説では、古墳の成立と「邪馬台国」を関連させることが主流です。この学説を紹介するとともに、「邪馬台国の時代」の琵琶湖地域の様子を、彦根市稲部遺跡などを題材に概観します。
第5回	雪野山古墳の築造	東近江市・近江八幡市・竜王町にかけて存在する雪野山古墳は、琵琶湖地域で最古の前方後円墳です。この雪野山古墳を詳しく見ることで、琵琶湖地域がどのように古墳時代に変化していったのか、
第6回	琵琶湖・三大古墳の時代	4世紀中頃から後半。琵琶湖地域には、膳所茶臼山古墳・安土瓢箪山古墳・荒神山古墳　の３基の100mを越える大型前方後円墳が相次いで築造されます。この3基の古墳から、古墳時代における琵琶
第7回	丹後地域の古墳時代	京都府北部の丹後地域。この地域は、弥生時代から古墳時代にかけて、独特で重要な社会発展を示します。丹後地域と琵琶湖地域とを比較することによって、改めて琵琶湖地域の意味を確認します。
第8回	古市・百舌鳥古墳群	現在、世界遺産への登録を目指している大阪府の古市・百舌鳥古墳群。世界最大の墳墓である仁徳天皇陵古墳を含む大型古墳群です。その価値を確認することで、4世紀後半から5世紀の古墳時代につい
第9回	甲賀地域の古墳時代中期	古市・百舌鳥古墳群が営まれた5世紀。甲賀地域において突然に有力な内容を持つ泉古墳群が営まれます。近接する集落である植遺跡の動向とともに、甲賀地域の古墳時代の動向を概観することで、5
第10回	琵琶湖地域の5世紀	長浜古墳群や近江八幡市の千僧供古墳群など、琵琶湖地域の5世紀の古墳を概観します。４世紀に琵琶湖地域が果たした役割が大きく変化し、後退したことが見て取れます。この現象から、古墳時代に
第11回	継体大王と琵琶湖地域	古墳時代の大きな画期とされる継体大王。実は、琵琶湖地域と密接な関係を持つ大王でもあるのです。６世紀前半の琵琶湖地域の古墳を概観することで、継体大王と琵琶湖地域との関係や、古墳時代
第12回	琵琶湖地域と渡来人	６世紀前半に、再び重要な役割を持つことになった琵琶湖地域。その具体的な役割を担ったのが、渡来人・渡来系氏族と呼ばれる人々です。朝鮮半島から琵琶湖地域に渡り住んだ彼ら渡来人の活躍を、
第13回	古墳時代の終焉・そして近江大津宮	６世紀の終わり頃。琵琶湖地域では、前方後円墳の築造は停止し、古墳の造営も急激に下火となります。その背景には何があったのか。そして、この動向の到達点としての近江大津宮を位置づけること
第14回	古墳時代・古墳文化の周縁	古墳時代は、日本の歴史上の時代区分ですが、必ずしも、日本列島の全ての地域で古墳が営まれた訳ではありません。東北の遺跡や南九州の墓制、海浜部の文化など古墳文化周縁地域の状況を手がかり
第15回	古墳・遺跡を地域社会に活かす	講義全体のまとめとして、古墳と地域の関係を考えます。これを前提として、古墳や遺跡を、現代社会にどのように活かしてゆくのか。遺跡公園などをあり方を考えてみたいと思います。

担当者から一言
実際に、古墳を見学に行くことはできませんが、講義を通じて、古墳を見る楽しさ、考古学の楽しさを体験していただきたいと思います。

講義名	地域と空間							担当教員	市川　秀之
講義コード	1401980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER102-C								

授業概要

地域社会を理解するうえで、空間的視点からのアプローチは非常に有効である。この授業では村落および年を対象として、地域社会と空間の関連について説明を進めたい。具体的にはムラとマチの見方・歩き方が授業の中心となる。民俗学的視点からの村落・都市空間論や生業空間の利用を中心に講義するが、条里制・街道・城下町など歴史地理学的なテーマについても取り上げることとする。
　授業では多くの地図を配布し、それを利用して講義をすすめる。課題レポートではその地図を生かしたフィールドワークの成果の提出を求める。授業を通じて地図の利用に精通することも目的の一つである。

到達目標

（1）地域社会の空間的特質に関する基本的な概念および用語を理解する。
（2）地形図や小字図を読みとく技法を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	４０	・地域社会の空間的特質に関する基本的な概念および用語を理解できているか否かを評価（語句説明）。 ・地形図や小字図を読みとく技法を習得できているか否かを評価（地図読解）。
レポート課題	２０	任意の場所について新旧の地図を利用して、その土地の空間的な特性が説明できるかいなかを評価。
上記以外	４０	毎回提出するレスポンスカードの内容を通じて、その授業の内容を理解できているかいなかを評価。

レポートを提出していないものは評価対象とはしない。

授業外学習

　宿題は特に課さないが、毎回授業のあとで提出するレスポンスカードの内容については評価対象とする。また次回に配布するレスポンスへの回答については熟読しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本の民俗５	市川秀之ほか	吉川弘文館	978-4-642-07873-3
2				
3				

授業ではレジュメを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	地域と空間							担当教員	市川　秀之
講義コード	1401980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER102-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	住居と暮らし	母屋・屋敷地・生業の影響などについて講義
第2回	集落の形態	集落形態の地域性・集落形態の類型・集落形態と社会・集落と環境などについて講義
第3回	集落の成立	条里制・村落空間の成立過程・集村の成立などについて講義
第4回	地名	小字名からわかること・通称地名などについて講義
第5回	村落空間論	村落空間と世界観・民俗誌的村落空間研究・村落空間研究の枠組みなどについて講義
第6回	水田のしくみ	水田の構造・水田の歴史・棚田・湿田などについて講義
第7回	水利	灌漑の類型・河川灌漑・溜池灌漑・逆水灌漑などについて講義
第8回	畑作	畑作の類型・焼畑・屋敷畑などについて講義
第9回	共有林	コモンズとは・入会林野・山郷などについて講義
第10回	近世の交通	近世の駅制・近江の街道・水上交通・近代の変化について講義
第11回	実習・集落の立地とその歴史	長浜市木ノ本を事例として、等高線から地形を読解、条里・小字との照合・絵図との照合、などの作業をおこなう。色鉛筆持参のこと。
第12回	宿場町	都市とは・宿場町の構造・近江の宿場町などについて講義
第13回	宗教と都市	門前町・寺内町などについて講義
第14回	城下町	城下町の形成・陣屋町・城下町の空間構成・城下町の変容
第15回	盛り場・まとめ	前近代の盛り場・近代の盛り場などについて講義。15回の授業について整理する。

担当者から一言

講義名	地域文化演習Ⅰ							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1401990	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230REG201								

授業概要

３回生以後の卒業論文に関する指導を主な内容とする地域文化演習Ⅱ・地域文化演習Ⅲへの導入の授業である。このなかで、卒業論文のテーマをどうするのかなどの自覚を促し、３回生の時点でスムーズにゼミを選択し、個別的な指導を受けられるように方向づける。領域を日本文化史、日本地域史、地理学、中国の文化と社会、保存修景、考古・古代、社会学・文化研究、民俗学、日本美術史のゾーンに区分し、学生は前期と後期にそれぞれ一つずつ選択する。

到達目標

(1)研究課題を見いだし探求するために必要な専門知識・周辺知識を自ら進んで学習できるようになる(100%)。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	研究課題を見いだし探求するために必要な専門知識・周辺知識を自ら進んで学習できるようになる(100%)については、毎回のゼミでのディスカッションへの参加(50%)と、報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習Ⅰ							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1401990	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	230REG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容、スケジュールについて説明する。
第2回	地域文化演習　その１	
第3回	地域文化演習　その２	
第4回	地域文化演習　その３	
第5回	地域文化演習　その４	
第6回	地域文化演習　その５	
第7回	地域文化演習　その６	
第8回	地域文化演習　その７	
第9回	地域文化演習　その８	
第10回	地域文化演習　その９	
第11回	地域文化演習　その10	
第12回	地域文化演習　その11	
第13回	地域文化演習　その12	
第14回	地域文化演習　その13	
第15回	地域文化演習　その14	
第16回	地域文化演習　その15	
第17回	地域文化演習　その16	
第18回	地域文化演習　その17	
第19回	地域文化演習　その18	
第20回	地域文化演習　その19	
第21回	地域文化演習　その20	
第22回	地域文化演習　その21	
第23回	地域文化演習　その22	
第24回	地域文化演習　その23	
第25回	地域文化演習　その24	
第26回	地域文化演習　その25	
第27回	地域文化演習　その26	
第28回	地域文化演習　その27	
第29回	地域文化演習　その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化演習II							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1402000	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	330REG301								

授業概要

４回生の卒業論文に関する指導を内容とする地域文化演習IIIに直接つながる授業と位置づける。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。

到達目標

(1)指導教員やゼミ生、および地域との関わりのなかで、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	指導教員やゼミ生、および地域との関わりのなかで、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになる(100%)については、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による。

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習 II							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1402000	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	330REG301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容やスケジュールについて説明する。
第2回	地域文化演習　その１	
第3回	地域文化演習　その２	
第4回	地域文化演習　その３	
第5回	地域文化演習　その４	
第6回	地域文化演習　その５	
第7回	地域文化演習　その６	
第8回	地域文化演習　その７	
第9回	地域文化演習　その８	
第10回	地域文化演習　その９	
第11回	地域文化演習　その10	
第12回	地域文化演習　その11	
第13回	地域文化演習　その12	
第14回	地域文化演習　その13	
第15回	地域文化演習　その14	
第16回	地域文化演習　その15	
第17回	地域文化演習　その16	
第18回	地域文化演習　その17	
第19回	地域文化演習　その18	
第20回	地域文化演習　その19	
第21回	地域文化演習　その20	
第22回	地域文化演習　その21	
第23回	地域文化演習　その22	
第24回	地域文化演習　その23	
第25回	地域文化演習　その24	
第26回	地域文化演習　その25	
第27回	地域文化演習　その26	
第28回	地域文化演習　その27	
第29回	地域文化演習　その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化演習III							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1402010	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	430REG401								

授業概要

卒業論文に関する指導をする。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。

到達目標

(1)卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し、それに基づいて研究を実行できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し、それに基づいて研究を実行できるようになるについては、毎回のゼミでのディスカッション(50%)と報告内容(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各ゼミ教員の指示による

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化演習III							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1402010	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習		
ナンバリング番号	430REG401								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各担当教員より、各回の内容やスケジュールについて説明する。
第2回	地域文化演習　その１	
第3回	地域文化演習　その２	
第4回	地域文化演習　その３	
第5回	地域文化演習　その４	
第6回	地域文化演習　その５	
第7回	地域文化演習　その６	
第8回	地域文化演習　その７	
第9回	地域文化演習　その８	
第10回	地域文化演習　その９	
第11回	地域文化演習　その10	
第12回	地域文化演習　その11	
第13回	地域文化演習　その12	
第14回	地域文化演習　その13	
第15回	地域文化演習　その14	
第16回	地域文化演習　その15	
第17回	地域文化演習　その16	
第18回	地域文化演習　その17	
第19回	地域文化演習　その18	
第20回	地域文化演習　その19	
第21回	地域文化演習　その20	
第22回	地域文化演習　その21	
第23回	地域文化演習　その22	
第24回	地域文化演習　その23	
第25回	地域文化演習　その24	
第26回	地域文化演習　その25	
第27回	地域文化演習　その26	
第28回	地域文化演習　その27	
第29回	地域文化演習　その28	
第30回	まとめ	

担当者から一言

講義名	地域文化基礎演習							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1402011	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	130REG105								

授業概要

地域文化学科で学び研究することになる専門分野に関して、基礎的な知識や研究の手法を学ぶ。学生は二つのグループに分かれ、授業ごとに学科教員全員の指導を受けることになる。

到達目標

(1)専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	専門分野に関する基礎的な知識や研究の手法を身につけることができるについては、第2回～第15回の毎回の小レポートで評価する（100%）。100点満点で60店以上を合格とする。
上記以外		

授業外学習

第2回より、毎回各分野のテーマに沿った小レポートを提出してもらう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学的滋賀ガイド	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編	昭和堂	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化基礎演習							担当教員	学科教員／東　幸代／石川　慎治／ 市川　秀之／亀井　若菜／京樂　真帆子／ 鈴木　開／武田　俊輔／塚本　礼仁／ 中井　均／萩原　和／濱崎　一志／ 水野　章二／横田　祥子
講義コード	1402011	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	130REG105								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	グループ分け、スケジュールを説明する。
第2回	保存修景学１	
第3回	保存修景学２	
第4回	地理学	
第5回	社会学	
第6回	考古学１	
第7回	考古学2	
第8回	考古学3	
第9回	歴史学１	
第10回	歴史学2	
第11回	歴史学3	
第12回	民俗学	
第13回	美術史学	
第14回	アジア交流１	
第15回	アジア交流2	

担当者から一言

講義名	地域文化財論Ｂ							担当教員	濱崎　一志
講義コード	1402030	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER105-C								

授業概要

学術的な価値や美術的な価値は高くはないものの、人々の永きにわたる営みにより、地域の中ではぐくまれてきた地域文化財について講義する。歴史的環境を構成する地域文化財のうち，遺跡や建造物もしくは建造物群や文化的景観を中心に講義し，その保全について解説する。

到達目標

(1)身近な生活空間の中に遺存している地域文化財について理解し、その多様性を説明できること。
(2)地域文化財のはぐくまれてきた歴史的環境を理解し、説明できること。
(3)地域文化財を再評価し、その保存・活用について考えられること。
(4)地域や時代を問わず、地域文化財を取り上げ、人々を魅了する点について批評することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	到達目標で示す(1)身近な生活空間の中に遺存している地域文化財について理解し、その多様性を説明できること、(2)地域文化財のはぐくまれてきた歴史的環境を理解し、説明できること、(3)地域文化財を再評価し、その保存・活用について考えられること、(4)地域や時代を問わず、地域文化財を取り上げ、人々を魅了する点について批評することが
上記以外	20	レスポンスペーパーにより、講義内容の理解度を評価する。

課題レポート(80%)とレスポンスペーパー(20%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	都市史図集	都市史図集編纂委員会	彰国社	4-395-00489-X C3052
2	東洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	4-395-00087-8 C3052
3	西洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	4-395-00021-5 C3052

授業中にプリント配布

前提学力等

履修資格

講義名	地域文化財論Ｂ							担当教員	濱崎　一志
講義コード	1402030	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER105-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域文化財とは	学術的な価値や美術的な価値は高くはないものの、人々の永きにわたる営みにより、地域の中ではぐくまれてきた地域文化財について概説する。
第2回	伝統的建造物（群）の調査と保存	伝統的建造物群が文化財として扱われるようになった経緯と意義や、その特徴について概説する。
第3回	遺跡の調査と保存	遺跡の発掘調査の在り方と、保存を判断するまでの経緯について事例を挙げて説明する。
第4回	集落景観の構成要素	多様な集落景観をどのような構成要素をもとに調査し、分析するかについて事例を挙げて説明する。
第5回	メソポタミア文明とエジプト文明の都市と建築	中東における都市と建築やその遺跡について、メソポタミア文明やエジプト文明を中心に述べる。
第6回	インダス文明の都市と建築	インダス文明の都市と建築やその遺跡について述べる。
第7回	ギリシア・ローマの都市と建築	ギリシア・ローマの都市と建築やその遺跡について述べる。ローマの植民都市についても詳説する。
第8回	南アジア・東南アジアの仏教建築と都市	南アジア・東南アジアの仏教都市と建築やその遺跡について詳説する。
第9回	縄文・弥生・古墳時代の集落と建築	縄文・弥生・古墳時代の集落の構成や、建築および遺跡について詳説する。
第10回	奈良・平安時代の都市と建築	奈良・平安時代の律令都市と建築およびその遺跡について詳述する。
第11回	中世の都市と建築	中世京都において自然発生的に展開した構とその遺構について詳述する。
第12回	近世の町家	農家と比較すると地域性の少ない町家であるが、その少ない地域性について詳述する。
第13回	近世の農家	地域性に富んだ農家について概説する。
第14回	重要伝統的建造物群保存地区	重要伝統的建造物群保存地区について事例をあげ、その特徴と保存の経緯、保存の在り方などについて詳述する。
第15回	重要文化的景観	重要文化的景観について事例をあげ、その保存の問題点について詳述する。

担当者から一言

講義名	地誌学							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1402050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C305								

授業概要

地理学は系統地理学と地誌学とに大別される。系統地理学は「～の気候」（自然地理学）や「～の産業」（人文地理学）というようにさまざまなテーマごとの分析を行うが、地誌学は系統地理学の知見を統合し、「地域」それ自体の特性を明らかにする分野である。本講義では、国内外のいろいろな「地域」を素材とし、その特徴を他地域との共通性あるいはユニークさに留意しつつ解説していく。また、地図を使った作業などを通して、地域研究の経験も重ねさせていきたい。

到達目標

（1）日本・世界の地域問題を、人文地理学の観点から考察することができる。
（2）日本・世界の地域問題を、自然地理学の観点から考察することができる。
（3）日本・世界の地域問題を、統計データや地図から読み取ることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（1）（2）（3）それぞれ20%ずつ。出題方針、採点基準は授業にて通知する。
レポート課題		
上記以外	40	宿題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地理学基礎シリーズ　地誌学概論	矢ヶ崎典隆ほか	朝倉書店	974-4-254-16818-1
2	日本の地誌８　近畿圏	金田章裕・石川義孝編	朝倉書店	974-4-254-16768-7
3				

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Aを履修済みであること。

履修資格

講義名	地誌学							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1402050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330S0C305								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	地誌学概論１	地誌学の位置づけと目標、静態的地誌・動態的地誌・比較地誌について解説する。
第3回	地誌学概論２	担当教員の故郷の地誌：　福岡県大牟田市・熊本県荒尾市　炭鉱から観光・環境へ
第4回	地誌学概論３	近畿地方の地誌：　「近畿」の成り立ちと滋賀県　特に現在の京阪神大都市圏と滋賀県の関わりに注目した動態的地誌
第5回	滋賀県の地誌１	滋賀県の地域性：　滋賀県の自然環境、産業構造、社会・文化的特性、地域構造・地域差を整理した静態的地誌
第6回	滋賀県の地誌２	滋賀県の地域性：　滋賀県における琵琶湖の位置づけに注目した動態的地誌
第7回	滋賀県の地誌３	湖南・甲賀地域：　交通網の整備と連動する都市化・工業化に注目した動態的地誌
第8回	滋賀県の地誌４	湖東地域：　湖東平野の産業（農業・在来工業・観光など）に注目した動態的地誌
第9回	滋賀県の地誌５	湖西・湖北地域：　近江盆地の風土と暮らし（生活文化）に注目した動態的地誌
第10回	日本の地誌１	新潟県越後平野：　治水にみる地域と風土の関係（滋賀県との比較地誌）
第11回	日本の地誌２	香川県小豆島：　特産物（しょう油・オリーブ・素麺）にみる地域と産業の関係（滋賀県との比較地誌）
第12回	日本の地誌３	山梨県：　地域の歴史的背景と合併地名との関係（滋賀県との比較地誌）
第13回	日本の地誌４	富山県富山市：　地域の実情と都市問題・都市政策との関係（滋賀県との比較地誌）
第14回	外国の地誌１	イタリアの地域性と飲食文化
第15回	外国の地誌２	イタリアの地域性と産業文化

担当者から一言
地図帳と色鉛筆（セット）を持参すること。

講義名	中国・内モンゴル地域文化論/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1402080	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本講義は中国の少数民族自治区域の一つとしての内モンゴルと「モンゴル世界」の一部としての内モンゴルの多角的な側面を見ることによって、「モンゴル」の多様化と、中国の周縁の少数民族居住地域の社会動向を把握しようとするものである。それ等を通して多民族、多文化社会である中国周縁地域の複雑な状況を講義する。

到達目標

「モンゴル世界」の多様化した現実を紹介することによって「モンゴル＝遊牧」というステレオタイプからの脱却を目指したい。また内モンゴルの成り立ちを通して中国の少数民族問題に対して一定の認識を持たせたい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験に必ず参加すること。
レポート課題	30	レポート課題の提出とその内容による評価
上記以外	30	三分の二以上の出席が必要。また、レスポンスカードによる積極的な質問も評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	中国・内モンゴル地域文化論/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1402080	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	「モンゴル世界」の多様性（1）	モンゴル国、中国とロシアといった参加国に分散居住するモンゴル人世界の多様性について講義。
第3回	「モンゴル世界」の多様性（2）	モンゴル国、中国とロシアといった参加国に分散居住するモンゴル人世界の多様性について講義。
第4回	「モンゴル世界」の多様性（3）	モンゴル国、中国とロシアといった参加国に分散居住するモンゴル人世界の多様性について講義。
第5回	中国領「モンゴル族」（1）	中国領内各地に分散居住する「モンゴル族」の状況を講義。
第6回	中国領「モンゴル族」（2）	
第7回	内モンゴル自治区の成り立ち（1）	内モンゴル自治区の成り立ちを歴史的、現代的に捉えて講義。
第8回	内モンゴル自治区の成り立ち（2）	
第9回	モンゴル帝国とユーラシア（1）	ユーラシア各地における多民族と多文化的局面とモンゴル帝国との関係を講義。
第10回	モンゴル帝国とユーラシア（2）	ユーラシア各地における多民族と多文化的局面とモンゴル帝国との関係を講義。
第11回	元朝の中国統治と多民族社会の形成（1）	多民族国家中国の歴史的経緯を講義。
第12回	元朝の中国統治と多民族社会の形成（2）	多民族国家中国の歴史的経緯を講義。
第13回	現代中国の民族問題（1）	現代中国の民族問題を講義。
第14回	現代中国の民族問題（2）	現代中国の民族問題を講義。
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	中国語文献講読/							担当教員	横田　祥子
講義コード	1402090	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

中国語の新聞・雑誌・論文などの読解を通じて、中国語の高度な表現を学ぶとともに、現代中国事情を理解する。また、ピンイン・発音など基礎能力の確認と、基礎表現の定着をはかる。

到達目標

中国語メディアを日常的に利用できる語学力を身につける。また、中国語文献を読み、中国事情を理解できるようになることを目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	（1）中国語のピンインを正しく表記し、正確に発音できる。（10%） （2）中国語の文章を的確に読解できる。（10%） （3）日本語の文章を中国語に翻訳できる。（10%）
レポート課題	30	中国語の新聞・雑誌・論文を読んで理解し、適当な日本語に翻訳できる。
上記以外	40	毎回授業開始時に実施するテストで、単語・ピンイン・文章を正確に書ける。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

毎回、予習をしてきてください。電子辞書があると便利です。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	中国語文法教室	杉浦博文	大修館書店	9784469231212
2	中国語の文法スーパーマニュアル――中国語の奥底を流れる超重要ルールがわかる	古川裕	アルク	9784757413764
3	聴く中国語		日中通信社	

毎回読む文献は授業中に配付します。

前提学力等

原則として中国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBを履修していること。

履修資格

講義名	中国語文献講読/							担当教員	横田　祥子
講義コード	1402090	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	中国語基礎力の確認
第2回	中国語テキストの読解１ー日常生活についてー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第3回	中国語テキストの読解２ー日常生活についてー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第4回	中国語テキストの読解３ー食文化ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第5回	中国語テキストの読解４ー食文化ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第6回	中国語テキストの読解５ー社会問題ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第7回	中国語テキストの読解６ー社会問題ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第8回	中国語テキストの読解７ー若者事情ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第9回	中国語テキストの読解８ー若者事情ー	中国語テキストを用いて、ピンイン・声調と文法を確認しながら、読解していく。
第10回	中国映画から表現を学ぶ１	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第11回	中国映画から表現を学ぶ２	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第12回	中国映画から表現を学ぶ３	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第13回	中国映画から表現を学ぶ４	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第14回	中国映画から表現を学ぶ５	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第15回	中国映画から表現を学ぶ６	中国映画の名作を鑑賞しながら、中国文化を色濃く表す表現の仕方を学ぶ。また、映画を通じて中国事情について学ぶ。
第16回	中国語新聞記事の読解１	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第17回	中国語新聞記事の読解２	中国語の新聞記事を読み、新聞表現と中国事情を学ぶ。
第18回	中国語新聞記事の読解３ー日本に関する報道ー	日本についての中国語新聞記事を読む。
第19回	中国語新聞記事の読解４ー日本に関する報道ー	日本についての中国語新聞記事を読む。
第20回	中国語論文の読解１	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第21回	中国語論文の読解２	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第22回	中国語論文の読解３	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第23回	中国語論文の読解４	中国語で書かれた文化人類学の民族誌を読む。
第24回	中国映画から表現を学ぶ１	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第25回	中国映画から表現を学ぶ２	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第26回	中国映画から表現を学ぶ３	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第27回	中国映画から表現を学ぶ４	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第28回	中国映画から表現を学ぶ５	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第29回	中国映画から表現を学ぶ６	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。
第30回	中国映画から表現を学ぶ７	中国映画を鑑賞しながら、表現を学ぶとともに、民族事情について学ぶ。

担当者から一言
日本人にとって中国語の読解は、基本的文法をおさえていれば、それほど難しくありません。一年後には、たいていの文章が読めるようになります。ぜひ本授業を活用して下さい。

講義名	中国地域文化特論							担当教員	前田　尚美※
講義コード	1402100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

近年、中国は発展目覚まし一方で、外交において強硬な姿勢から注目される。そうした動きのなかで、その歴史として特に明代(1368～1644)やその実質的２代目にあたる永楽帝の存在が、海外への中国の存在感を示した存在として注目されている。
そこで本講義では中国の歴史の全体的な流れと各々の事件やトピックスを通じて、大きく東アジア(日本・朝鮮半島など）との影響と関係を特に明代に焦点を当てつつ見ていく。

到達目標

(1)明代の歴史的展開を理解すること
(2)東アジア全体からみるという視点の習得
(3)歴史から現代を見る・考える手法の習得

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	講義内容をどう受け止め、どのように考えたかを重視。
レポート課題		
上記以外	60	毎回の講義で提出してもらうレスポンスペーパー。講義内容をどう受け止め、どのように考えたかを重視。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義及びプリントで適宜紹介していく

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布。参考文献も適宜紹介していく。

前提学力等

高校世界史の中国史、アジア史や日本史の事項のついて知っておくことが望ましい。

履修資格

講義名	中国地域文化特論							担当教員	前田　尚美※
講義コード	1402100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	オリエンテーションを行い、授業方針などを説明。
第2回	中国と天下	中華など中国を示す言葉の起源を通じ、普段何気なく使用している中国や天下とは何なのかを見ていく。
第3回	中国を中心にした国際関係1	中国から見た日本や朝鮮半島との関係はどのようなものなのか。遣唐使などの存在はどのようなものなのか。
第4回	中国を中心にした国際関係2	中国では唐以降、北方民族からの侵入を受ける。そこから生じた国際関係の変化をみる。
第5回	中国を中心にした国際関係３	宋以降活発になる民間貿易は元（モンゴル帝国）になって一層推し進められる。その中で起きる元寇はどのようなものなのか。
第6回	元末期の東アジアの連動	1300年代半ばは、中国・日本・朝鮮半島で政権交代が相次ぐ。こうした連動とそれぞれの関係性の変化をみる。
第7回	明の成立と海禁	明が成立すると、中国の人々の海外出航を禁じる命令(海禁)が出される。一種の鎖国とも見えるこの政策と国際関係をみる。
第8回	海禁＝朝貢システム	明は海禁と貿易を両立させるため、新しい国際関係を構築する。どのように機能したのか。
第9回	日本と明の関係	明の対外関係や海禁、そして日本との関係。
第10回	日本と明の関係２	足利義満を中心に、日明貿易(勘合貿易)を明側からみる。
第11回	朝鮮・琉球と明の関係	日本の関係もまじえて、大きく東アジアの動きをみていく。
第12回	鄭和の南海遠征（西洋下り）	明の実質２代目になる永楽帝の大々的な対外政策とそのなかで特徴的な鄭和による遠征をみる。
第13回	北虜南倭	明代の北(モンゴルなど騎馬民族)と南(日本などの商人、倭寇)との対応の相違。
第14回	日本と明の関係３	豊臣秀吉の朝鮮出兵と明・朝鮮との関係。
第15回	まとめ	その後の清の国際関係と、それまでの流れのまとめ。

担当者から一言

講義名	中国地域文化論							担当教員	横田　祥子
講義コード	1402110	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC202								

授業概要

近年、中国が目覚ましい経済発展を遂げ、国際社会においてプレゼンスを高めるにつれ、経済発展や、それに伴う経済格差の拡大、環境汚染の深刻化など中国社会が直面している問題に関して、夥しい情報が流れている。これに比して、中国に生きる人々がどのような暮らしを送り、どのような文化的実践を行っているのかについては、相対的に情報量が減っているように思われる。しかし、隣国中国を総合的に理解するためには、政治経済的側面、社会問題だけでなく、社会的文化的側面からもアプローチする必要がある。そこで本授業では、中国の文化・社会を構成する重要なエッセンス、トピックを取り上げ、文化人類学的観点から理解を深める。

到達目標

（1）中国の文化の重要な基本概念を理解する。
（2）中国の文化の地域的・民族的多様性と、それに対する漢族の影響を理解する。
（3）中国文化の魅力を楽しむ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	（1）中国の文化の重要な基本概念を理解し、説明できる。（20%） （2）中国の文化の地域的・民族的多様性と、それに対する漢族の影響を理解し、説明できる。（20%） （3）中国の文化・社会について、自ら関心がある事象についての情報を収集し、まとめることができる。（30%）
上記以外	30	授業内での聞き取りにおいて、質問項目を立て、やさしい日本語で質問する工夫ができる。さらに聞き取った内容をまとめることができる。

授業外学習

大学図書館には、中国の世界遺産や少数民族の文化、周辺国への文化的影響力を描いた映像資料や、少数民族が置かれている状況を伝える映画が多数ありますので、ぜひ鑑賞してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ハンドブック現代中国	愛知大学現代中国学部	あるむ	9784863330634
2	現代中国を知るための60章	高井潔司，遊川和郎	明石書店	4750317721
3	漢民族と中国社会	橋本萬太郎	山川出版社	4634440504

前提学力等

履修資格

講義名	中国地域文化論							担当教員	横田　祥子
講義コード	1402110	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230EXC202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業概要の説明を行う。
第2回	民族（１）――中国各地の民族	中国に住む民族の多様性と生態環境による生業の違いを知る。
第3回	親族・家族（１）――親族基本概念、「宗族」	漢族の父系親族集団の成り立ちを知る。
第4回	親族・家族（２）――宗族の祖先祭祀	漢族の父系親族集団がどのような活動を行っているかを知る。
第5回	世界観（１）――風水思想	風水思想の基本と親族との関係について学ぶ。
第6回	世界観（２）――墓地風水	墓地に関する風水の重要性を学ぶ。
第7回	宗教（１）――民俗宗教、漢族の神霊観	漢族の神霊体系を把握する。
第8回	宗教（２）――宗教の動態性	漢族の民俗宗教のユニークな論理を学ぶ。
第9回	民族（２）ーー中国ムスリムと結婚儀礼	中国に住むイスラーム教徒である回族の生活と結婚儀礼について学ぶ。
第10回	民族（３）ーー白族と葬送儀礼	中国の少数民族である白族の葬送儀礼を通して、漢族が周辺民族に与えてきた影響力を学ぶ。
第11回	民族（４）――中華民族多元一体論、民族政策	多様な民族を一つの国民として統合するために、どのようなイデオロギーが用いられているのかを学ぶ。
第12回	食文化（１）ーーミャオ族の米食文化と小麦文化	米食文化圏、小麦文化圏に分けて主食の違いを知る。
第13回	食文化（２）ーー茶葉の拡がり	中国南西部、インド原産の茶がどのように飲まれ、流通しているかを学ぶ。
第14回	中国の芸能（１）ーー楽器	儀礼に用いられる楽器について知る。
第15回	中国の芸能（２）ーーオペラ	地方劇の成り立ちと特徴について学ぶ。

担当者から一言
中国文化の魅力は尽きることがありません。講義では、映像資料を利用しながら解説していきます。また、学習内容を元に、留学生への聞き取りを行います。中国文化の基本的理念を理解し、留学生との交流を通じて直接的な理解を深めてください。

講義名	朝鮮地域文化特論							担当教員	安田　純也※
講義コード	1402170	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330EXC302								

授業概要

この授業では、朝鮮文化の形成、展開を歴史的に振り返るが、今年度は建国1100年を迎えた高麗王朝を取り上げる。高麗は約500年の長きにわたって朝鮮半島を支配した王朝であり、朝鮮の伝統文化と中国から伝来した文化が調和をなした時代である。また、高麗の文化財の多くは日本列島各地に伝存しており、高麗は日本と関わりの深い王朝である。
授業では、韓国、日本の学界における研究成果を踏まえつつ、高麗王朝の歴史について論じる。

到達目標

朝鮮文化史の概要を把握できるようにする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	
レポート課題	20	1回課します。
上記以外	40	質問、宿題など。

宿題は随時課す。小テストは１回実施する。

授業外学習

授業では、冒頭で前回の復習を行うので、毎回の復習及びノートの整理を行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

配布プリントを中心とする。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	世界歴史大系 朝鮮史1	李成市ほか	山川出版社	
2	世界史史料4	歴史学研究会	岩波書店	
3				

授業中に適宜紹介する。

前提学力等

朝鮮半島の歴史に興味を持つ学生を対象とする。

履修資格

講義名	朝鮮地域文化特論							担当教員	安田　純也※
講義コード	1402170	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330EXC302								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、朝鮮の地理	授業の進め方などを説明し、朝鮮の地理を学ぶ。
第2回	朝鮮の歴史(1)	神話と朝鮮古代・中世の歴史を学ぶ。
第3回	朝鮮の歴史(2)	朝鮮近世～現代の歴史を学ぶ。
第4回	高麗の史料	高麗王朝を知るための史料について述べる。
第5回	後三国の争乱と高麗建国	高麗王朝の建国について述べる。
第6回	王都開京の諸相	都の様子について述べる。
第7回	儒教と科挙	儒教の流布について述べる。
第8回	統治組織の整備	中央の統治制度について述べる。
第9回	郡県制の展開	地方の制度について述べる。
第10回	仏教教団の展開	仏教の隆盛について述べる。
第11回	高麗大蔵経の彫造	仏典の大規模刊行事業について述べる。
第12回	高麗仏画の発見	仏教文物について述べる。
第13回	武臣政権の成立	武臣が政権を掌握する過程について述べる。
第14回	モンゴルへの服属	モンゴル族の勢力拡大と元寇について述べる。
第15回	高麗の滅亡	倭寇などによる高麗の混乱と滅亡について述べる。

担当者から一言
履修予定の学生は、必ず初回から出席すること（毎回出欠をとります）。 板書が多いので、ノートを持参すること。

講義名	朝鮮地域文化論Ｂ/							担当教員	河　かおる
講義コード	1402190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

朝鮮半島の近現代史を理解することを目的とする。近現代の通史を時系列に従って基本的な流れをつかみつつ、特に困難な近代の幕開け、植民地化、今も続く民族分断を経験した朝鮮半島の歴史への理解を深める。植民地化と民族分断を経験した近現代史の「困難さ」への想像力を鍛え、朝鮮の近現代史を密接な関連を持つ日本の近現代史を省察的にとらえ直すことを授業のねらいとする。

★5月に留学から帰国する学生も履修できるよう、講義は5月中旬から開始する予定。休講分は学期末に調整する（詳細は講義中に説明する）。初回ガイダンスは4月の初回に実施し、その内容は海外で履修登録した者にもポータルを通じて配信する。
　なお、該当する学生の履修登録が無かった場合は、通常どおりのスケジュールで授業を行う。

到達目標

(1) 講義および配付資料の内容を理解し、小レポート毎に与えられた課題に適切に取り組める。
(2) 朝鮮の近現代史、特に日本とかかわる事柄に関して正確に理解し、基本的な説明ができる。
(3) 講義の内容を踏まえ、植民地化と民族分断を経験した朝鮮近現代史に関するテーマを自ら立て、そのテーマについて論理的に説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	期末レポート　40%
上記以外	60	小レポート　50% 振り返りレポート　10%

授業外学習

ほぼ毎回小レポート課題を出す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	朝鮮の歴史	田中俊明	昭和堂	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本の植民地支配 ― 肯定・賛美論を検証する	水野直樹・藤永壯・駒込武	岩波書店	
2				
3				

授業内容に関する文献リストを授業で配付する。

前提学力等

3・4回生配当科目だが、前期開講のため、留学の関係で所定の学年で履修しにくいので、2回生での履修も認めている。

履修資格

講義名	朝鮮地域文化論Ｂ/							担当教員	河　かおる
講義コード	1402190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	どの程度知識があるかについてのグループ・ワーク
第2回	開国と開化をめぐる葛藤	1860年代～1894年
第3回	近代国家樹立の模索	1894～1905年
第4回	植民地化の危機の中で	1905～1910年
第5回	武断政治と三一独立運動	1910～1919年
第6回	「文化政治」と民族運動の展開	1920～1930年
第7回	「満洲事変」と朝鮮／総力戦と朝鮮(1)	1930～1945年
第8回	「満洲事変」と朝鮮／総力戦と朝鮮(2)	1930～1945年
第9回	中間まとめ	
第10回	解放から分断へ	1945～朝鮮戦争
第11回	南北の国家建設	朝鮮戦争後～1970年代
第12回	南北の緊張と交流	1980年代～現在まで
第13回	臣民／国民を管理するシステムの近現代史	映画「住民登録証を引き裂け！」上映
第14回	家族制度の近現代史／「なまえ」をめぐる近現代史	
第15回	期末レポート構想発表会	

担当者から一言

講義名	朝鮮文化論/							担当教員	河　かおる
講義コード	1402200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業では、隣国「朝鮮」（現在朝鮮半島にある二つの国家およびそれ以前も含む）について、次のような手順で理解を深め、考察していきます。
前半は、「国の名前」「人」「言葉」等についての歴史や現状について確認しつつ、呼称の問題について考えて行きます。前半の締めくくりとしてレポート課題を出します。
後半は、韓国・朝鮮に関するトピックを３つとりあげて講義した後、受講生の皆さん自身が見つけたトピックについてグループ（受講人数が少なければ個人）で調べ、最終的にプレゼンテーションをします。

到達目標

(1)朝鮮にまつわる呼称の問題（差別的呼称を含む）について、その歴史的背景を理解し、論理的に説明できる。
(2)韓国・朝鮮に関するいくつかのトピックについて理解を深める。
(3)韓国・朝鮮に関するトピックについてグループで調査を深め、プレゼンテーションできる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	
上記以外	70	小レポート　30% プレゼンテーション　30% 振り返りレポート　10%

授業外学習

ほぼ毎回、小レポート課題を出す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	朝鮮文化論/							担当教員	河　かおる
講義コード	1402200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	・授業のねらいの説明 ・レポート課題についての説明
第2回	朝鮮の「国の呼称の歴史」について①	
第3回	朝鮮の「国の呼称の歴史」について②	
第4回	日本人は朝鮮／朝鮮人をどう呼んできたのか？	
第5回	言語名をめぐる呼称問題；「韓国語」「朝鮮語」「ハングル語」？	
第6回	トピック①2016～2017年にかけての「ロウソク市民革命」について	
第7回	発表会	レポート提出日、レポートの発表会
第8回	レポートの講評	
第9回	トピック②竹島／独島問題	
第10回	トピック③朝鮮語の近現代史／祝祭日に見る韓国・朝鮮・日本	
第11回	トピック④在外コリアン／在韓外国人（韓国の多文化政策）	
第12回	プレゼンテーションの説明／テーマ決め／グループ分け	
第13回	トピック⑤「言論民主化」って？	
第14回	トピック⑥　未定	
第15回	プレゼンテーション(1)	
第16回	プレゼンテーション(2)	補講期間or期末テスト期間

担当者から一言

講義名	地理学実習Ⅰ							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1402201	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230S0C212								

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業は、多変量解析とGISを融合した実習をおこない、「数値データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につけるものである。また、終盤3回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。なお、地理学実習Ⅱは、アンケート調査などから得られる質的データに関する内容である。

到達目標

(1)数値データを統計的手法によって解析することができる。
(2)GISソフトウェアを操作し、多変量解析の結果を地図化することができる。
(3)論理的なプレゼンテーションを行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終報告による。到達目標（１）20%、到達目標（２）20%、到達目標（３）10%とする。
上記以外	50	実習成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新版　地域分析：　データ入手・解析・評価	村山祐司・駒木伸比古	古今書院	978-7722-5272-0
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bおよび地理学実習Ⅱを合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	地理学実習Ⅰ							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1402201	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230S0C212								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	多変量解析の準備	統計学の基礎知識の確認
第3回	回帰分析１	重回帰分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第4回	回帰分析２	重回帰分析の結果の地図化
第5回	判別分析１	判別分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第6回	判別分析２	判別分析の結果の地図化
第7回	主成分分析１	主成分分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第8回	主成分分析２	主成分分析の結果の地図化
第9回	因子分析１	因子分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第10回	因子分析２	因子分析の結果の地図化
第11回	クラスター分析１	クラスター分析の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第12回	クラスター分析２	クラスター分析の結果の地図化
第13回	地域分析プレゼンテーション１	グループワーク（企画、データ収集）
第14回	地域分析プレゼンテーション２	グループワーク（分析・解釈、プレゼンテーション作成）
第15回	地域分析プレゼンテーション３	報告会

担当者から一言

講義名	地理学実習II							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1402202	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230S0C213								

授業概要

地理学による地域分析では、収集したデータを統計的に処理し、さらに可視化して、現象を解釈・考察する。本授業は、アンケート調査とGISを融合した実習をおこない、「質的データを可視化（地図化）する」ための基礎的技能を身につけるものである。また、終盤5回を使って、独自のデータを用いた地域分析プレゼンテーションをまとめる。なお、地理学実習Ⅰは、官公庁統計などの数値データに関する内容である。

到達目標

(1)質的データの収集・集計をすることができる。
(2)質的データを統計的手法によって解析し、GISソフトウェアで地図化することができる。
(3)論理的なプレゼンテーションを行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終報告による。到達目標（１）20%、到達目標（２）20%、到達目標（３）10%とする。
上記以外	50	実習成果物による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	らくらく図解　アンケート分析教室	菅　民郎	オーム社	978-4-274-06693-1
2	地域分析ハンドブック	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9
3	MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版	後藤真太郎ほか	古今書院	978-4-7722-4162-5

適宜プリントを配布する。

前提学力等

人文地理学Bおよび地理学実習Ⅰを合わせて履修することが望ましい。

履修資格

講義名	地理学実習II							担当教員	塚本　礼仁
講義コード	1402202	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230S0C213								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	
第2回	アンケート調査法１	企画、調査票の作成から回収の手順などについて解説する。
第3回	アンケート調査法２	データの入力とクリーニングについて解説し、課題実習に取り組む。
第4回	アンケート結果の集計法１	単純集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第5回	アンケート結果の集計法２	クロス集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第6回	アンケート結果の集計法３	クロス集計とグラフについて解説し、課題実習に取り組む。
第7回	アンケート結果の分析法１	数量化Ｉ類の理論と実際、ソフトウエアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第8回	アンケート結果の分析法２	数量化II類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第9回	アンケート結果の分析法３	数量化III類の理論と実際、ソフトウェアの操作法を解説し、課題実習に取り組む。
第10回	アンケート結果の分析法４	数量化分析の結果の地図化
第11回	地域分析プレゼンテーション１	グループワーク（企画）
第12回	地域分析プレゼンテーション２	グループワーク（データ収集）
第13回	地域分析プレゼンテーション３	グループワーク（集計・分析・解釈）
第14回	地域分析プレゼンテーション４	グループワーク（プレゼンテーション作成）
第15回	地域分析プレゼンテーション５	報告会

担当者から一言

講義名	哲学概論Ａ							担当教員	鞍田　崇※
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH202,235LAH301								

授業概要

これからのあるべき社会の姿をデザインするにはどうすればよいか。

この授業ではその道筋を考えていきます。でも、この課題は、じつは、従来通りの哲学だけでは担いきれません。デザインや建築、工芸や農業、コミュニティ再生など、さまざまな分野の連携があってはじめて可能となるものです。この授業ではそうした関連ジャンルの現在進行形の動きを適宜参照しつつ、来るべき社会に向けての構想力・判断力を培うことをめざします。

ところで、ここでいう「社会」とは、自分たちが生活をいとなむ社会です。「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」を考える上で、何よりも大事なのは、「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。この講義では、何よりもまず、そうした実感を皆さんと共有していきたいと考えています。

でも、なぜか。社会が大きく変わりつつある、いや大きく変えなきゃいけない時代だからです。この講義を機に、特にみなさんにぜひ考えていただきたいことが２点あります。

到達目標

１．自分の頭で考えるとはどういうことか、その実際を実感すること。
２．社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。
３．身近な日常生活の中に本当の創造性のきっかけをつかむこと。
４．現代社会で問われていることの思想的意味と歴史的背景を理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	学期末の最終レポート課題です。論述力、表現力、着眼点など、総合的に判断します。
レポート課題	35	毎回、小レポート課題を出します。予備知識なしで取り組めるものですので、ちょっとしたエクササイズと思って取り組んでください。
上記以外	15	平常点として、授業への取り組み方など。

授業外学習

参考事例として掲げたものは、適宜自分でも調べるように。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	民藝の「インティマシー」	鞍田崇	明治大学出版会	978-4-906811-13-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	〈民藝〉のレッスン	鞍田崇（編）	フィルムアート社	4845911833
2	「生活工芸」の時代	三谷龍二（編）	新潮社	4103365315
3	哲学入門以前	川原栄峰	南窓社	4816500545

前提学力等

哲学概論ですが、狭義の哲学・思想だけが対象ではありません。
デザインやアート、建築や工芸、農業や民俗などなど、ひろく柔軟な興味関心をもっていることがのぞましいです。そうじゃない人は、この機会に

履修資格

講義名	哲学概論Ａ							担当教員	鞍田　崇※
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH202,235LAH301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	プロローグ	座布団とイスは、どう違いますか？これが、実は哲学の基本です。
第2回	いま「哲学」とは？	哲学とデザイン、デザインと哲学、両者はいまとても近い位置にあります。でも、どのあたりでしょうか。
第3回	あらためて「いま」とは？	COUNTER + TREND = ? エコロジーと社会の２０年周期説。過去半世紀にわたるエコの取り組みから「いま」を考えます。
第4回	エコロジー第３世代の幕開け①	2010年代は、大きな変化のはじまりの時代。まず、ソーシャル（社会意識）の高まりについて。
第5回	エコロジー第３世代の幕開け②	ライススタイル（生活意識）のブーム化が二つ目。
第6回	エコロジー第３世代の幕開け③	「私たち」からの撤退と、「無数の小さな矢印」の時代について。
第7回	エコロジー第３世代の幕開け④	20世紀と21世紀のちがい、ゼロ年代と10年代のちがい。
第8回	日 常①	10年代以降、重要になる問題を、「日常」「感性」「風土」「平凡」の四つのキーワードのもとに考えていきます。まずはその一つ目。20世紀ドイツの思想を参考に、表層文化と基層文化について。
第9回	日 常②	「つくること」からの撤退、あるいは「ポスト工業化社会」の次について。手仕事のこれからも考えつつ。
第10回	感 性①	これも自分と認めざるをえない「自分」とは？
第11回	感 性②	彼は私にキスをした。これを英訳できますか。そこから見えてくる「私」と身体の関係。フランスの思想家たちの議論も参考に。
第12回	風 土①	シュリンキング・ソサイエティという言葉があります。人口減少期を表す用語です。その意味を、「縮退」から「濃縮」へという視点から。
第13回	風 土②	ひきつづき、人口減少期の可能性と成長の在り方について。自然をどう考えるかがカギになります。
第14回	平 凡①	平凡といわれて喜ぶ人はいません。でもじつは大事なのはそこ。ひろがりから深まりへ、「価値観の転倒」の試み。
第15回	平 凡②：まとめ	「肯定のみされる平凡」、かつてそう言った日本の思想家がいます。その議論を参考に、講義全体をまとめます。
担当者から一言		

講義名	統計学基礎							担当教員	細馬　宏通
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD106,134NUT107,135PSY203								

授業概要

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。

到達目標

(1)母集団と標本の概念を身につける。
(2)相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。
(3)推定と検定の基本手順を習得する。
(4)日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	全回で扱った統計学的知識が正しく理解できているかを問う。
レポート課題		
上記以外	30%	小テスト（随時）：各回で扱った統計学的知識を理解しているかを問う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	栄養科学シリーズ基礎統計学	鈴木良雄　廣津信義	講談社サイエンティフィック	978-4-06-155348-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	統計学基礎							担当教員	細馬　宏通
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD106,134NUT107,135PSY203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	統計学は（何の）役に立つのか？
第2回	母集団と標本	サンプリングによって世界を把握するという考え方について。記述統計学と推計統計学の違い。
第3回	分布を考える	分布の代表的な形。偶然のできごとはいかに分布するのか。二項分布について。
第4回	表とグラフ、位置とばらつき	数値計算の前に、データを視覚化し、整理するだけで分かることは何か。位置とばらつきについて。
第5回	記述統計(1)	平均と標準偏差、その表現法。
第6回	記述統計(2)	中央値と四分位数、箱ひげ図。
第7回	正規分布とは何か	正規分布の主な性質
第8回	推定	推計統計学とは何か。中心極限定理と信頼区間。
第9回	比較と検定	仮説検定法、帰無仮説の考え方、平均の比較。
第10回	比較と検定（２）	さまざまな検定法：平均の差の検定、χ二乗検定など。
第11回	分散分析と多重比較	要因と水準、対応の考え方。一元分散分析の基礎。多重比較の基礎。
第12回	相関と回帰（1）	記述統計としての相関。相関係数の読み方。
第13回	相関と回帰（2）	推計統計としての回帰。モデルを立てること。「実現値＝期待値＋誤差」という考え方。
第14回	さまざまな統計的手法	パラメトリック／ノンパラメトリック検定のいろいろ。多変量解析の紹介。
第15回	まとめ	科学における統計学の位置づけ。統計の用いられ方。統計の誤用について。

担当者から一言

講義名	東洋史概説							担当教員	鈴木　開
講義コード	1402370	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC101								

授業概要

テーマ：中国における近世と近代
ねらい：対象地域を現代中国の領域とその隣接地域に、対象時期を10～19世紀に設定し、その歴史的展開を概観する。
趣旨：本講義は中国史を中心に東洋史について概観する。本年度は近世および近代の歴史を対象とする。その際、可能な限り日本をはじめとする隣接地域との関わりを重視する。本講義名は「東洋史」であるが、英文では「East Asia」の歴史となっている。「東洋」と「East Asia」は当然ながら一致しない。中国史が東洋史においてどのような位置にあるのか、また東洋史という枠組みが今日における歴史理解に有効であるのか、最新の学説を適宜紹介しながら考えていきたい。

到達目標

(1)中国における近世と近代の歴史の流れについて理解する。
(2)中国史の理解を「中国」のなかだけで完結させるのではなく、日本を含めた隣接地域との関わりのなかで理解する。
(3)そのようにして視野を広げていくなかで、「東洋史」という枠組みが持つ意義や限界を認識する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	学期末の定期試験の期間に実施
レポート課題		
上記以外	30	平常点。出席状況、積極的な発言といった参加態度を総合的に評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は、適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	東洋史概説							担当教員	鈴木　開
講義コード	1402370	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	はじめに―東洋史とは何か	東洋史という分野の成立と本講義で扱う時代や地域について説明する。
第2回	北宋の成立	中国近世の開始期といわれる宋の成立過程を概観する。
第3回	南宋と「征服王朝」	宋の南遷と当時の国際情勢、思想状況について述べる。
第4回	モンゴル帝国・元朝の展開	元のモンゴル帝国としての側面と中国王朝としての側面について述べる。
第5回	明朝の成立と展開	明の成立と展開について、元の継承国家としての側面を中心に述べる。
第6回	明代における経済の発展	明の時代における社会や人々（民衆）の生活の有り様について述べる。
第7回	清朝の成立	明の滅亡と清の成立の因果関係について解説する。
第8回	清朝の繁栄	清の時代における社会や人々（民衆）の生活の有り様について述べる。
第9回	明清交替と朝鮮・日本	明から清への王朝交替がおよぼした国際秩序の変動について、朝鮮・日本を軸に述べる。
第10回	アヘン戦争	中国近代の契機とされるアヘン戦争について概観する。
第11回	太平天国と洋務運動	清末の社会の動揺とそれに対する対応について述べる。
第12回	清の辺境喪失と朝鮮	清末の国際秩序の変動について、朝鮮と清の関係を軸に述べる。
第13回	日清戦争	日清戦争の東アジア史的意義について述べる。
第14回	戊戌変法の展開	日清戦争後の清の政治的対応について述べる。
第15回	おわりに―東洋史のなくなる日	本講義で扱った内容を通じて「東洋史」という枠組みの有効性について考える。

担当者から一言

講義名	日本・地域交流特論							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HIS301								

授業概要

日本古代史の史料を輪読しながら、当時の政治・文化・社会への理解を深める。

到達目標

(1)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の書き下しを正確に行うことが出来る。
(2)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、史料の解釈を正確に行うことが出来る。
(3)日本の歴史に関する基礎知識を理解し、地域交流などの論点についての議論を行うことが出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	適宜行う小テスト　30パーセント まとめの確認テスト　70パーセント

授業外学習

授業期間内に適宜確認テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本・地域交流特論							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HIS301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行う。 当該年度のテーマ、史料、スケジュールについて説明する。
第2回	『小右記』の検討（１）	『小右記』の検討を行う。
第3回	『小右記』の検討（２）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第4回	『小右記』の検討（３）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第5回	『小右記』の検討（４）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第6回	『小右記』の検討（５）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第7回	『小右記』の検討（６）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第8回	『小右記』の検討（７）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第9回	『小右記』の検討（８）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第10回	『小右記』の検討（９）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第11回	『小右記』の検討（10）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第12回	『小右記』の検討（11）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第13回	『小右記』の検討（12）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第14回	『小右記』の検討（13）	引き続き、『小右記』の検討を行う。
第15回	まとめ	まとめの確認テストを行う。

担当者から一言

講義名	日本史概説							担当教員	水野　章二
講義コード	1402390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS102								

授業概要

日本の前近代がどのような社会であったかを、近現代社会との対比を通して具体的に考える。特に民衆に焦点をあて、民衆が生きていくために不可避的に取り結ばざるを得なかった社会集団―身分編成のあり方や生産・生活の場の特質、前提となった歴史的環境とその変化などを多面的に検討する。

到達目標

（1）前近代社会における民衆の生活環境が理解できる。
（2）前近代社会に生きた人々の意識・認識が理解できる。
（3）前近代社会と近現代社会の相違が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	８０	（1）前近代社会における民衆の生活環境が理解できる。　３０％ （2）前近代社会に生きた人々の意識・認識が理解できる。　３０％ （3）前近代社会と近現代社会の相違が理解できる。　２０％
レポート課題		
上記以外	２０	到達目標各項目について、理解度を確認し、質問させるレスポンスペーパーを随時提出。

授業外学習

関連する著書・論文を各自で読み込む。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	里山の成立―中世の環境と資源―	水野章二	吉川弘文館	978-4-642-08284-6
2	中世の人と自然の関係史	水野章二	吉川弘文館	978-4-642-02884-4
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本史概説							担当教員	水野　章二
講義コード	1402390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前近代社会への視点	近代以前の社会は、さまざまな点において、現代とは大きく異なっていた。なぜそのような違いが生まれたのかを、歴史学的に考えていくための基本的な方法について説明する。
第2回	気候変動と生活環境	人類の歴史は長いが、過去１万年程度の間においても、大きな気候の変化がみられる。日本列島の縄文・弥生時代の環境変化や、水田農耕が選び取られていった過程を整理する。
第3回	古代・中世社会の人口	古代・中世における人口規模や平均寿命、生活環境などの特徴と変化をたどり、社会の特質について考える。
第4回	災害・飢饉	前近代社会において人々を最も苦しめたのは飢饉と疫病であったが、その前提となった風・水・旱・虫害などの農業災害の実態を明らかにする。
第5回	環境変化と社会変動	平安・鎌倉時代は相対的に気温の高い時期であるが、室町時代以降は気温が低下していく。気温や環境の変化が、社会にどのような影響を与えていくのかを整理する。
第6回	環琵琶湖地域の環境	前近代の近江はその名のように湖の国であり、畿内と日本海側や東日本との接点に位置し、豊かな地域文化を生んだ。近江地域の歴史的特質について考える。
第7回	前近代社会の人生サイクル	生存することが現在よりも困難であった前近代の日本では、人は神仏の世界からやってきて、童→人→翁を経て、また神仏の世界に帰ると意識された。年齢の持つ意味やそのような意識を生んだ社会の
第8回	社会集団と身分	国家などの機能が現在よりはるかに小さい前近代社会では、さまざまな社会集団が大きな役割を果たしていた。身分はそれらの社会集団に基礎をおいているが、名前や姿・形、被り物との関係など、そ
第9回	前近代社会の子ども	前近代社会では、子どもが無事生育し、成人することは容易ではなかったため、さまざまな生育儀礼が行われ、独特の役割も生まれた。現在とは大きく異なる子どもの実像を明らかにする。
第10回	さまざまな童	童身分は、生育過程にある幼い子どもだけではなく、人に養われ、自立できない人間も含んでおり、なかには生涯童として生きていかねばならない人々も存在した。多様な童身分の実態を整理してい
第11回	差別と排除	前近代社会では、病気・犯罪などの種々の理由によって、帰属していた社会集団から排除・脱落する人々が発生した。社会保障が整備されていない社会における、集団からの排除・転落の問題を考え
第12回	ケガレとキヨメ	日本人は、死や病気・犯罪など、人や社会を混乱させる状況をケガレと意識した。必ず発生するケガレを除去する行為がキヨメであるが、キヨメが被差別身分の職掌とされていく過程を検討する。
第13回	ハンセン病の歴史	ハンセン病は感染力の弱い伝染病であるが、種々の障害や皮膚症状をともなうこともあり、近年まで差別に苦しめられてきた。ハンセン病の歴史をたどりながら、社会のなかで病気がどのように解釈さ
第14回	身分制社会の特質	食料生産や医療・科学技術など、さまざまな限界をかかえていた前近代社会は、現代社会と比べて、はるかに少ない人口しか養うことができず、生きていくことが簡単ではなかった。そのような社会の
第15回	まとめ	前近代社会における民衆の生き方を整理し、現代社会の特質を確認する。

担当者から一言

講義名	日本社会論							担当教員	武田　俊輔
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C101-C,235S0C303-C								

授業概要

同じ「日本社会」の中で暮らしつつも、その社会のメンバーシップからはじき出されてきた様々な人々の姿を通して，戦前・戦後の「日本社会」の姿を再検討することにある。労働市場からも教育からも福祉からも排除されていく人々の視点から「日本社会」はどう映るのか。またそうした人々を改めて社会に包摂した形で社会的な連帯を創り出すことの可能性を論じる。

到達目標

(1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、そのメカニズムを理解することができる。
(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、(2)戦後～現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について、の2点についての理解度に基づき、評価を行う。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて、加点する場合がある（最大5点）。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ナショナリズム論・入門	大澤真幸・姜尚中（編著）	有斐閣	4641123357
2				
3				

毎回、レジュメを配布する。

前提学力等

近現代の日本史について、高校教科書程度の知識があることが望ましい（必須ではない）。

履修資格

講義名	日本社会論							担当教員	武田　俊輔
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130S0C101-C,235S0C303-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	近代における「日本」や「日本人」意識の創出、そしてその境界線が歴史的に変容し続けて来たことを論じる。
第2回	「四民平等」の中の格差と差別	明治政府による「日本人」意識の創出と国民統合、そしてその一方での排除や差別について論じる。
第3回	メディアとしての天皇制	国民統合のメディアとしての天皇制について論じる。
第4回	天皇をめぐる忠誠ゲーム	天皇制をめぐる人々の本音と建前、利用や自粛を通じて、人々が自ら国家への動員に協力することになるメカニズムを論じる。
第5回	「日本人」への主体化と差別の連鎖	琉球の日本への併合と同化政策、そして琉球出身者が自ら同化に向かわざるを得なくなったメカニズムを論じる。
第6回	農村の貧困とコロニアリズム	満洲移民を通して、戦前期日本の農村の貧困と国家への動員を論じる。
第7回	都市における貧困	戦前期日本における都市の貧困と社会政策の不在について論じる。
第8回	植民地の獲得・喪失と「日本人」概念の再編成	戦後に入って植民地を失った日本において、「日本」や「日本人」概念がいかに再構築されたかを論じる、
第9回	高度成長の中の「見えない貧困」（１）	戦後日本の高度成長において、貧困や社会的排除は一見して見えにくくなったが、しかし存在していた。日雇い労働や金の卵を通してそれについて論じる。
第10回	高度成長の中の「見えない貧困」（２）	戦後日本の高度成長において、貧困や社会的排除は一見して見えにくくなったが、しかし存在していた。女性労働者の位置づけを通してそれについて論じる。
第11回	グローバル化と新たな貧困（１）	1990年代に新たな低賃金労働力としての非正規雇用がいかに増加していったかを論じる。
第12回	グローバル化と新たな貧困（２）	1990年代に新たな低賃金労働力として外国人労働者がいかに増加していったか、また非正規雇用の日本人・日系人・技能実習生をめぐる雇用ポートフォリオ体制について論じる。
第13回	外国人労働者をめぐる日本社会の壁	日系人などの外国人労働者をめぐる生活面のバリアについて論じる。
第14回	地域社会における連帯の試みとその可能性／困難	地域社会における外国人労働者との多文化共生の試みについて論じる。
第15回	まとめ	海外の事例と比較しつつ、日本社会における差別や社会的排除について論じる。

担当者から一言
ほぼ毎回の講義で映像資料を用い、その理解を前提として講義を行うので、欠席しないこと。

講義名	日本史料講読							担当教員	水野　章二／東　幸代
講義コード	1402420	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	130REG104								

授業概要

日本の前近代の社会や文化を理解する上で必要な各種史料の読解力を養う。各時代を代表する史料を選んで輪読し、史料の具体的な内容を検討するとともに、史料の作成された時代や社会の特質などについて考察して、歴史研究の基礎を身につける。
前期は彦根藩関係の史料、後期は鎌倉幕府法などをとりあげる。第１回（前期）・第16回（後期）はテキストとする史料の性格と時代背景などを解説するが、第２回（前期）・第17回（後期）以降は順番に報告者を決め、史料の解釈などをしてもらうとともに、その歴史的な意味などを考える。

到達目標

（1）近世の基本史料の解釈・理解ができる。
（2）古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	５０	（1）近世の基本史料の解釈・理解ができる。２５％ （2）古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。２５％
レポート課題	５０	（1）近世の基本史料の解釈・理解ができる。２５％ （2）古代・中世の漢文史料の解釈・理解ができる。２５％
上記以外		

授業外学習

適宜紹介する中・近世史の基本文献を各自で読み込む。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは授業時にプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本史料講読							担当教員	水野　章二／東　幸代
講義コード	1402420	単位数	2	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	130REG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期授業方針の説明と今後の進め方	彦根藩関係史料をとりあげ、史料の性格や作成された目的、当時の彦根藩をとりまく社会状況などを解説するとともに、輪読担当者が何をどのような方法で調べて、報告するのかを説明し、今後の進め
第2回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第3回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第4回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第5回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第6回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第7回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第8回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第9回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第10回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第11回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第12回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第13回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第14回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した史料を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第15回	前期まとめ	近世史料の特色を整理するとともに、近世社会がどのような社会であったのかを確認する。
第16回	後期授業方針の説明と今後の進め方	鎌倉幕府法（御成敗式目）を素材に、中世法の特質や式目が作成された時代背景などを解説するとともに、輪読担当者が何をどのような方法で調べて、報告するのかを説明し、今後の進め方を確定す
第17回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第18回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第19回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第20回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第21回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第22回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第23回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第24回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第25回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第26回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第27回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第28回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第29回	担当者による史料解釈と調べた内容の報告	各自が担当した条文（漢文）を解釈し、その内容について調べてきたことを発表するとともに、それに対する質問・回答を通じて、史料読解能力を深める。
第30回	後期まとめ	中世史料の特色を整理するとともに、中世社会がどのような社会であったのかを確認する。

担当者から一言

講義名	日本文化史論II /							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402440	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

ジェンダーでみる日本史を考える。日本における女性史研究は戦前からの長い歴史を持っている。近年、ジェンダーの概念を取り入れることによって、新しい日本女性史が描かれるようになってきた。女性であることが歴史の中でどういう意味を持ち、どう評価されてきたのかを考えていく。

到達目標

(1)日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。
(2)日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。
(3)日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	女性史ジェンダー論に関するテーマでレポートをまとめることができる。
上記以外	30	毎回のレスポンスカードの評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本文化史論II /							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402440	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	女性史・ジェンダー論を学ぶ意味とは？	ガイダンスを行う。
第2回	悪女は悪い女なのか？	悪女について検討する。
第3回	女も漢字を書く？	女性と文字について検討する。
第4回	逆玉は平安貴族の望み？	結婚について検討する。
第5回	正妻への道は険しい？	引き続き、結婚について検討する。
第6回	不倫の倫って何？	不臨について検討する。
第7回	誰にとっての強姦なのか？	強姦について検討する。
第8回	座って産む？寝て産む？	出産について検討する。
第9回	生理の血は汚い？	穢れについて検討する。
第10回	女も成仏できる？	女性と仏教について検討する。
第11回	女は銃後にいた？	女性と戦争について検討する。
第12回	女も銃をとった？	引き続き、女性と戦争について検討する。
第13回	女も学び始めた？	女性と学びについて検討する。
第14回	男性史がうまれた？	男性史について検討する。
第15回	まとめ	まとめを行う。

担当者から一言

講義名	日本文化史論Ｂ							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402442	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

　ジェンダーでみる日本史を考える。日本における女性史研究は戦前からの長い歴史を持っている。近年、ジェンダーの概念を取り入れることによって、新しい日本女性史が描かれるようになってきた。女性であることが歴史の中でどういう意味を持ち、どう評価されてきたのかを考えていく。

到達目標

(1)日本文化の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることが出来る。
(2)日本文化史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることが出来る。
(3)日本文化史の基礎知識に基づき、文化の保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	女性史ジェンダー論に関するテーマでレポートをまとめることができる。
上記以外	30	毎回のレスポンスカードの評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本文化史論Ｂ							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402442	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	女性史・ジェンダー論を学ぶ意味とは？	ガイダンスを行う。
第2回	悪女は悪い女なのか？	悪女について検討する。
第3回	女も漢字を書く？	女性と文字について検討する。
第4回	逆玉は平安貴族の望み？	結婚について検討する。
第5回	正妻への道は険しい？	引き続き、結婚について検討する。
第6回	不倫の倫って何？	不臨について検討する。
第7回	誰にとっての強姦なのか？	強姦について検討する。
第8回	座って産む？寝て産む？	出産について検討する。
第9回	生理の血は汚い？	穢れについて検討する。
第10回	女も成仏できる？	女性と仏教について検討する。
第11回	女は銃後にいた？	女性と戦争について検討する。
第12回	女も銃をとった？	引き続き、女性と戦争について検討する。
第13回	女も学び始めた？	女性と学びについて検討する。
第14回	男性史がうまれた？	男性史について検討する。
第15回	まとめ	まとめを行う。

担当者から一言

講義名	日本文化論							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402450	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS101								

授業概要

日本文化の諸相を歴史的に分析する。特に、日本映画に描かれる日本文化の問題点を歴史学的見地から評価していく。

到達目標

(1)日本前近代の歴史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。
(2)日本の近代史に関する基礎知識を理解し、それを現代社会との比較を通して論じることが出来る。
(3)日本文化の基礎知識に基づき、その保存と活用について具体的な提言が出来る。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	課題映画について論じる。
上記以外	30	毎回のレスポンスカード

授業外学習

適宜指示する

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	日本文化論							担当教員	京樂　真帆子
講義コード	1402450	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HIS101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	日本映画史概論	日本の映画史について概説する。
第2回	映画監督・溝口健二について	溝口健二について説明する。
第3回	散所研究の研究と成果	散所研究について説明する。
第4回	映画『山椒大夫』について　その１	映画『山椒大夫』について説明する。
第5回	映画『山椒大夫』について　その２	引き続き、映画『山椒大夫』について説明する。
第6回	『もののけ姫』との比較検討	『もののけ姫』との比較検討を行う。
第7回	二つの荘園世界表象	庄園世界について説明する。
第8回	映画俳優の活躍	映画俳優の活躍について説明する。
第9回	映画を支えた人たち　その１	映画を支えた人たちについて説明する。
第10回	映画を支えた人たち　その２	引き続き、映画を支えた人たちについて説明する。
第11回	映画と戦争	映画と戦争について説明する。
第12回	映像の戦争協力	映像の戦争協力について説明する。
第13回	日本文化の中の映画	日本文化の中の映画について説明する。
第14回	課題映画について	レポート課題の映画について説明する。
第15回	まとめ	全体をまとめる。

担当者から一言

講義名	人間文化論Ａ							担当教員	細馬　宏通／奥村　万寿美／塚本　礼仁／藤木　庸介／Borjigin Burensain
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD102,134NUT102,135LAH2011,37BAC102								

授業概要

人間文化学部は、地域文化学科、生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科、国際コミュニケーション学科の5学科から成っている。しかしそれぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではない。では、それぞれの学科は外の分野に向かってどのように開かれているのだろうか、それを考える手がかりとして、この講義では異なる学科に属する10組の教員どうしの対談と、各学科の教員による5つのレクチャーが行われる。これから4年間を過ごす学部で、どのように学問の関心を広げ、他学科の教員や学生と交流を開いていけばよいのか、この講義からそのことを考えるヒントをつかんでほしい。

到達目標

(1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。
(2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。
(3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート課題（学生による学科間ディスカッションによるもの）
上記以外	50	各対談時のリスポンスペーパー

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論Ａ							担当教員	細馬　宏通／奥村　万寿美／塚本　礼仁／藤木　庸介／Borjigin Burensain
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD102,134NUT102,135LAH2011,37BAC102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	この講義の進め方に関するガイダンス。
第2回	国際コミュニケーション×人間関係	第2回～第11回は各学科から一人の教員が対談形式の講義を行います。学科の組み合わせの日取りは変更される場合があります。教員の組み合わせと講義タイトルは4月のオリエンテーション時に伝え
第3回	地域文化×生活デザイン	
第4回	地域文化×国際コミュニケーション	
第5回	生活デザイン×国際コミュニケーション	
第6回	生活栄養×国際コミュニケーション	
第7回	生活デザイン×人間関係	
第8回	地域文化×人間関係	
第9回	生活栄養×人間関係	
第10回	生活デザイン×生活栄養	
第11回	地域文化×生活栄養	
第12回	各学科によるまとめ（１）	生活栄養学科まとめ／地域文化学科まとめ ／生活デザイン学科まとめ
第13回	各学科によるまとめ（２）	国際コミュニケーション学科まとめ ／人間関係学科まとめ／次週の準備
第14回	学生自身によるディスカッション	各5学科から最低1人を含むチームを作り、他学科の学生との討議を行います。
第15回	ディスカッションをまとめる	レポートをまとめるためのガイダンス。

担当者から一言

講義名	人間文化論Ｂ							担当教員	小熊　猛／京樂　真帆子／塚本　礼仁／ 濱崎　一志／Martin Hawkes／横田　祥子
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD103,134NUT103,135LAH2021,37BAC103								

授業概要

テーマ：「交流する文化、交差するまなざし」
　文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ちながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。
　本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。

到達目標

文化の交流や変容の諸相について理解すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	ミニレポートもしくは小テストに対する採点
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

その都度、紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論Ｂ							担当教員	小熊　猛／京樂　真帆子／塚本　礼仁／ 濱崎　一志／Martin Hawkes／横田　祥子
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD103,134NUT103,135LAH2021,37BAC103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	「異国」との交流	3回の講義の概要を説明する。「異」なるモノとの出会い、時空間の歴史学的認識について、「国風文化」論の再検討を行う。（京樂真帆子）
第2回	「異界」との交流	「異」なるモノとの出会い、時空間の歴史学的認識について、「百鬼夜行」を通して再検討する。（京樂真帆子）
第3回	「異性」との交流	「異」なるモノとの出会い、時空間の歴史学的認識について、性の多様性を確認した上で、異性への呼びかけを和歌に詠んでもらう。（京樂真帆子）
第4回	Starbucksの文化地理	スターバックスの世界展開を素材として、地理学の立場から、文化の交流・交差、受容・反発という問題にアプローチする。（塚本礼仁）
第5回	蒲焼の文化地理	日本人が好むウナギの蒲焼を素材として、地理学の立場から、文化の交流・交差、受容・反発という問題にアプローチする。（塚本礼仁）
第6回	地域イメージの文化地理	人びとが抱く地域イメージを素材として、地理学の立場から、文化の交流・交差、受容・反発という問題にアプローチする。（塚本礼仁）
第7回	アーチの誕生と伝播	メソポタミアで生まれ、ローマ帝国の繁栄とともに広く伝播したアーチ構造であるが、インド亜大陸では11世紀まで採用されることはなかった。建築技術の伝播を文化の選択的取得の視点から論じる。
第8回	仏教東漸	インド亜大陸で生まれた仏教が中央アジア、中国、朝鮮をへて日本に伝来するまでの変遷を建築史的視点で論じる。（濱崎一志）
第9回	滋賀県の民家	滋賀県の民家の特徴と系譜や、その分布域について事例をあげながら論じる。（濱崎一志）
第10回	英語の変遷：英語の外面史	英語の外面史：英語の時代区分 英語は古英語、中英語、近代英語と大別される。それぞれの時代の人々の移動と言語接触、英語とい
第11回	英語の変遷：古英語から中英語へ	古英語から中英語へ 第10回で概観した英語の歴史的変化の古英語から中英語への変化に注目して講義を進める。（小熊
第12回	英語の変遷：中英語から近代英語へ	中英語から近代英語へ 中英語から近代英語は音韻的変化によって区別される。大母音推移に触れながら講義を進める。（小
第13回	Global languages	In this first class, we will explore languages in history that expanded beyond their homelands to become international languages. (Martin Hawkes)
第14回	Global Englishes	In this second class, we will look at the current situation of one language that claims to be a global language - English. (Martin Hawkes)
第15回	The Future of Global Englishes	In the final class, we will look forward to the future of global communication. Will English remain the most important global language? (Martin Hawkes)

担当者から一言

講義名	人間文化論Ｃ							担当教員	宮本　雅子／奥村　万寿美／中村　好孝／ 松嶋　秀明／横田　尚美
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD104,134NUT104,135LAH203								

授業概要

人間文化論Ｃでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題ついて考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系３学科（生活デザイン・生活栄養・人間関係）教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。
この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について５回講義する（宮本・横田）。次に、現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点をとりあげながら、健康を維持・増進するための食生活について５回講義する（奥村）。さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を５回講義する（松嶋・中村）。

到達目標

（宮本・横田）（1）住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす人体を含む環境への影響に関心を持つことができる。
（奥村）　現代の「食と栄養」を取り巻く様々な問題点を踏まえ、健康を維持・増進するための食生活について理解することができる。
（松嶋・中村）（1）家族をみるための視点を身につけることができる。（2）現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	（宮本・横田）到達目標の（1）住宅の中の暮らしとその変化について理解すること、（2）自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる、については、課題レポート（33%：（1）19%、（2）14%）

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。
授業時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間文化論Ｃ							担当教員	宮本　雅子／奥村　万寿美／中村　好孝／松嶋　秀明／横田　尚美
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	133LVD104,134NUT104,135LAH203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	日本の住まい	日本の住宅について概観する。
第2回	超高齢社会における住環境	超高齢社会における日本の住宅問題について考えるきっかけとする。
第3回	日本のあかり	日本のあかりの歴史について概観し、現代の照明環境について考える。
第4回	ファッション消費環境	衣服は最もからだに近い環境である。その視点から、服と人間とのかかわりについての問題点を考える。
第5回	ファッション産業をとりまく環境	毎日からだに身に着ける服がどのような環境で作られているのか、より広い視野で衣服と環境について考える。
第6回	日本人の食事の変遷	日本人の食文化と食事について解説するとともに，現代の日本人の目指す食事について考察する．
第7回	日本の食糧事情	現在、私たちはどのような食の環境の中に置かれ、どのような食の問題を抱えているのか、食の安全・安心について考える。
第8回	健康食品とサプリメント	近年、いわゆる健康食品やサプリメントが数多く市場に出まわっている。その機能性や摂取法、健康被害にあわないための注意点などについて述べる。
第9回	健康を維持増進するため食生活	生活習慣病予防のために、何を・いつ・どのように食べるのかについて述べる
第10回	「食べる力」＝「生きる力」を育む食育～実践力を育てる～	「食べる力」を育む実践力の強化法について述べる。
第11回	家族のなりたちと人間の心理	進化心理学、あるいは文化心理学の観点から、人間の家族のもつ特殊性、家族の成立する要件などについて外観する。また、そのことが食生活や、住居の問題といかに密接につながっているのかについ
第12回	家族を形成する心理	恋愛から結婚、出産というライフイベントを人はどのように経験し、のりこえていくのか。そこに心理学的にどのような問題が生じていくのかについて家族心理学的観点から述べる。
第13回	家族を維持する心理	出産、育児と、仕事との両立、あるいは父親の育児参加といった問題について、家族心理学的観点から述べる。
第14回	家族関係の歪みがもたらすもの	家族をいとなんでいくうえで遭遇する障害や病理、具体的には愛着の問題、産後うつ、思春期の不適応などについて述べる
第15回	家族関係の社会学	家族関係が社会関係により、いかに相互に影響されあっているのかについて、社会学的観点から述べる。

担当者から一言

講義名	農耕社会論/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1402580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

農村が八割以上を占める中国社会は、古今を問わず農民によって動かされてきた。その原動力の裏にはどんな仕組みが存在するであろうか。本講義では、農耕と文明との関係など、基礎的な知識を簡単に回顧したうえで、主として中国の農耕社会とその影響を受けて形勢された周辺地域の農耕社会を比較しながらアジアの農耕社会の仕組みを見ていきたい。また、農村問題通して経済大国ー中国が抱える問題とその行方を講義する。

到達目標

本講義では、世界最大規模の農耕社会を抱える中国の農村の社会構造を歴史的に整理したうえで、農耕大国中国の現状を理解できることを目指したい。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末試験に参加すること
レポート課題	30	課されたレポートの提出とその内容による評価
上記以外	30	三分の二以上の出席とレスポンスカードによる積極的なやり取りを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	農耕社会論/							担当教員	Borjigin Burensain
講義コード	1402580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	世界最大の農耕社会である中国の農村問題を紹介
第2回	農耕と農村の起源	基層知識としての世界における農耕の起源を講義。
第3回	中国文明と農耕	中国における文明の起源と農耕との関係について講義。
第4回	牧畜の起源	農耕と同様な一次生産手段としての牧畜の起源を探ることによって、アジア南北各地の農村の姿を
第5回	新大陸原産穀物と中国	中国における人口の膨張と新大陸原産穀物との関係について講義。
第6回	秘密結社と中国社会（１）	中国社会を動かしてきた秘密結社の仕組みを講義
第7回	秘密結社と中国社会（２）」	中国社会を動かしてきた秘密結社の仕組み講義
第8回	中国における人口問題	人口大国中国を歴史的に考察
第9回	現代中国における人口問題	現代中国における人口問題の構造を講義
第10回	中国農村の貧困問題	中国社会における農村の位置づけを講義
第11回	中国の出稼ぎ労働者	中国の経済発展を支える出稼ぎ労働者について講義。
第12回	中国における戸籍制度（１）	中国における二元戸籍制度の確立過程を講義
第13回	中国における戸籍制度（２）	中国における二元戸籍制度の確立過程を講義
第14回	中国における戸籍制度（３）	中国における二元戸籍制度の確立過程を講義
第15回	まとめ	講義をまとめ

担当者から一言

講義名	博物館経営論							担当教員	市川　秀之／中井　均
講義コード	1402601	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR201,3300TH302								

授業概要

学芸員としての活動を円滑におこなうために必要とされる博物館の施設・組織・運営に関する内容を事例を中心に講義する。また近年重要になってきている博物館運営への市民参加についてもとりあげたい。

到達目標

（1）博物館運営についての基礎的知識を習得すること
（2）実際の博物館の運営について評価する視点を獲得すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	４０	博物館運営についての基礎的知識が習得されているかいなか
レポート課題	２０	実際の博物館を見学しそれのレポートを作成することによって運営について評価する視点を獲得できているか否かを評価
上記以外	４０	毎回提出するレスポンスカードを通じて授業の内容を理解しているか否かを評価

レポートを提出していないものは評価対象としない

授業外学習

宿題は特に課さないが、毎回提出を求めるレスポンスカードについては採点の対象とする。また次回に配布する回答についても熟読すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新時代の博物館学	全国大学博物館講座協議会西日本部会	芙蓉書房出版978-4-8295-0551-9	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業ではプリントを配布する

前提学力等

博物館学概論を履修していることが望ましい

履修資格

講義名	博物館経営論							担当教員	市川　秀之／中井　均
講義コード	1402601	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR201,3300TH302								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ミュージアムマネージメントとは	授業の進め方について説明・博物館経営論とは、について講義
第2回	行政と博物館	都道府県と博物館・地方自治体と博物館の関係・博物館の予算・博物館の来館者、について講義
第3回	博物館の組織と運営	博物館の組織・運営の変化、について講義
第4回	公立・国立以外の博物館	博物館の公共性とは・私立博物館・企業立博物館・集落立の博物館、について講義
第5回	博物館・展示の評価とミュージアムマーケテイング	博物館の評価とは・展示に対する評価・博物館全体に対する評価、について講義
第6回	博物館の立地と施設	博物館の立地・博物館の設備、施設、について講義
第7回	広報	広報の効果・広報の方法、について講義
第8回	博物館の危機管理	近年の博物館被災・博物館をとりまくリスク・リスクマネージメント、について講義
第9回	大学と博物館	大学博物館・大学と博物館の関係、について講義
第10回	博物館の行動規範	さまざまな行動規範・学芸員の行動規範、について講義
第11回	博物館とボランテイア活動	博物館におけるボランテイア活動について講義
第12回	博物館のネットワーク	博物館同士の連携、博物館と他の諸団体との連携のありかたについて講義
第13回	地域社会と博物館	地域社会における博物館の意味合いについて講義
第14回	ミュージアムショップ	博物館の魅力の一つであるミュージアムショップについて講義する
第15回	博物館運営の課題	現在の博物館の運営をとりまく諸問題について講義する

担当者から一言

講義名	博物館展示論							担当教員	亀井　若菜／未定＊
講義コード	1402602	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR203,330OTH301								

授業概要

博物館は、展示を通して来館者に情報を発信し、来館者はそれを受け止める。博物館の重要な役割を担う展示に関する諸問題について考えていく。

到達目標

(1)博物館展示のいくつかの例を見ることにより、自分で展示の方法や問題について考えられるようになる。
(2)博物館における実際の展示の方法や調査研究、収集保管、広報・教育普及等の内容について理解できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

到達目標(1)については、授業毎のレスポンスカード（２０%）と、レポートで評価する（３０%）。
到達目標(2)については、授業毎のレスポンスカード（３０%）と、レポートで評価する（２０%）。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	博物館展示論							担当教員	亀井　若菜／未定＊
講義コード	1402602	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	304CUR203,3300TH301								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	博物館展示とは	履修について説明するので、第1回目の授業には必ず出席すること。
第2回	博物館展示の歴史	
第3回	現代社会における展示の意味	
第4回	展示の例　ケーススタディ１	
第5回	展示の例　ケーススタディ２	
第6回	展示の例　ケーススタディ３	
第7回	展示の例　ケーススタディ４	
第8回	博物館展示の諸問題	
第9回	展示に見る館の独自性	
第10回	展示と展覧会、展示の設備と装置	
第11回	パネル・解説・図録の作成	
第12回	資料の調査研究	
第13回	資料の収集と保管	
第14回	広報・教育普及	
第15回	博物館展示の見学	

担当者から一言

講義名	地域と行政							担当教員	萩原　和
講義コード	1402665	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C210								

授業概要

当科目は、日本における地方自治制度の基本的な枠組みを理解しつつ、地域と行政との関係に焦点をあてるとともに、今後の地域自治、地域づくりに求められる事項について学ぶ。　特に、地方自治体における行政職員が直面している課題、業務内容の中身にも触れることで、地域政策の実際に触れながら、新たな自治体行政の潮流について理解を深める。

到達目標

(1) 日本の地方自治の変遷について、きっかけとなった歴史的な出来事を示しながら概説することができる。
(2) 地方自治制度における今日的な課題を3つ以上挙げ、その主たる要因を説明できる。
(3) 地域と行政の協働に必要な要件を3つ以上挙げ、先進的な事例を複数提示できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標の内容に関して、定期試験を実施し、評価する。
レポート課題		
上記以外	30	レスポンスペーパーの内容を評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代地方自治	佐々木信夫	学陽書房	9784313161405
2	一番やさしい地方自治の本 第2次改訂版	平谷英明	学陽書房	978-4313165922
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域と行政							担当教員	萩原　和
講義コード	1402665	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C210								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域コミュニティと自治体行政における今日的課題	ガイダンス
第2回	日本における行政組織の体系	戦前から高度成長期までの日本
第3回	地方公務員の各種業務	法制度と担当部局との関係性
第4回	首長選出と議会運営のあらまし	住民の声を自治体行政へどう伝えるか
第5回	地方自治体における財政の仕組み	地方交付税からみる国と地方との関係性
第6回	平成の市町村合併と都市内分権の実際	地方財政改革と地域が直面する課題
第7回	少子高齢化の中で模索される福祉政策	地域包括ケアにおける行政の模索
第8回	自身のコミュニティの範囲を測る	アクティブラーニングの回
第9回	若者と消防団組織	京都府下における大学の実践を中心に
第10回	地方自治体における政策立案の実際	条例制定プロセスを事例に
第11回	地縁組織とＮＰＯ、行政による地域協働	「新しい公共」に向けた模索
第12回	地域担当職員制度からみる自治体職員の可能性と課題	滋賀県内の自治体の現状から
第13回	再構築される地域コミュニティ機能	大規模災害での地方自治体の意思決定
第14回	市民参加型の地域づくりに求められる視点	パブリックコメントを事例に
第15回	授業の総括	まとめ
担当者から一言		

講義名	地域と経済							担当教員	萩原　和
講義コード	1402705	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C209								

授業概要

当科目は、日本における地域経済の動向を理解しつつ、地域と地場産業との関係に焦点をあてるとともに、持続的な経済の観点から、今後の地域活性化に求められる要件を整理する。特に、環境ビジネス、さらにはクラウドファンディングに見られるような、「ヒト」、「モノ」、「コト」、「カネ」をつなぐような経済システムが注目されていることから、新たな地域振興の潮流について理解を深める。

到達目標

(1) 地域産業における今日的な課題を3つ以上挙げ、その主たる要因を説明できる。
(2) 自分自身が取り巻く地域（滋賀県）において、活動する主要な地場産業が如何なる課題に直面しているかを整理し説明することができる。
(3) 持続的な経済活動に必要な要件を3つ以上挙げ、先進的な事例を複数提示できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標に関する内容について、定期試験を課して評価する。
レポート課題		
上記以外	30	レスポンスペーパーについて評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国際化時代の地域経済学　第4版	岡田知弘ほか	有斐閣	978-4-641-22075-1
2				
3				

必要な参考文献は、授業中に説明する。

前提学力等

履修資格

講義名	地域と経済							担当教員	萩原　和
講義コード	1402705	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C209								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域の経済とは何か	ガイダンス
第2回	地域経済の形成過程	戦前から高度成長期までの日本経済
第3回	経済活動における持続性とは	少子高齢化の中の現代日本
第4回	グローバル化と地場産業	産業空洞化と地方衰退
第5回	第二次産業からの転換への模索	地方都市の新たな経済活動モデルとは
第6回	滋賀県における小売業の変遷	商店街、スーパー、郊外店まで
第7回	滋賀県における第二次産業	家内工業をルーツとする機械工業の発展
第8回	滋賀県の産業支援の現状とベンチャー企業の動向	滋賀における新産業創出の実際
第9回	観光産業における滋賀県の位置づけ	近隣府県の動向と比較しての滋賀観光の特徴
第10回	第一次産業としての農林水産業	滋賀県の農林水産業の特徴
第11回	6次産業化を模索する中山間地域	若者の地元定着のモデルケースを事例に
第12回	都市と農村とのはざまの中でどう住まうのか	京阪神と滋賀との空間的関係性
第13回	クラウドファンディング	古民家改築と新たなビジネスの模索
第14回	持続的な経済活動のあり方とその要件	滋賀県におけるエコビジネスを事例に
第15回	授業の総括	まとめ

担当者から一言

講義名	比較文化論（地域）							担当教員	石川　慎治
講義コード	1402710	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C208								

授業概要

2005年に改正された文化財保護法において、「地域における人々の生活又は生業及び当該地区の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」として、文化的景観が定義された。この講義では、地域の歴史および風土との関連の中で成立してきた文化的景観を対象として、海外の事例なども紹介しながら日本における地域文化の多様性をみていく。

到達目標

主に日本の文化的景観について学び、各地の多様な地域文化について述べることができるようにする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	55%	到達目標について、自らの考えを問うためのレポート課題を課す。
上記以外	45%	到達目標にについて、毎回レスポンスペーパーを提出する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	比較文化論（地域）							担当教員	石川　慎治
講義コード	1402710	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	講義のねらいと概要	文化財保護法における文化的景観について学ぶ。
第2回	農林水産業に関連する文化的景観　1	文化的景観における水田景観について学ぶ。
第3回	農林水産業に関連する文化的景観　2	文化的景観における畑地景観について学ぶ。
第4回	農林水産業に関連する文化的景観　3	文化的景観における草地景観について学ぶ。
第5回	農林水産業に関連する文化的景観　4	文化的景観における森林景観について学ぶ。
第6回	農林水産業に関連する文化的景観　5	文化的景観における水利用景観について学ぶ。
第7回	農林水産業に関連する文化的景観　6	文化的景観における海・湖景観について学ぶ。
第8回	採掘・製造に関連する文化的景観　1	文化的景観における採掘・鉱山に関する景観について学ぶ。
第9回	採掘・製造に関連する文化的景観　2	文化的景観における製造に関する景観について学ぶ。
第10回	流通・往来に関連する文化的景観　1	文化的景観における街道景観について学ぶ。
第11回	流通・往来に関連する文化的景観　2	文化的景観における河川景観について学ぶ。
第12回	居住に関連する文化的景観　1	文化的景観における城下町の景観について学ぶ。
第13回	居住に関連する文化的景観　2	文化的景観における城下町の景観について学ぶ。
第14回	居住に関連する文化的景観　3	文化的景観における都市景観について学ぶ。
第15回	まとめ	文化的景観から見た地域文化の多様性について学ぶ。

担当者から一言

講義名	東アジア考古学概論							担当教員	土田　純子※
講義コード	1402711	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC103								

授業概要

朝鮮半島は、旧石器時代から現在に至るまで日本と非常に関係が深い。朝鮮考古学の概要を理解し、日本考古学と比較してその相違性と相似性を理解することを目的とする。まず最初に、朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史の概要を講義する。そして、旧石器時代から朝鮮時代までの各時代における考古学の成果と問題点を概説する。場合によっては、主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して、理解を深める。

到達目標

１．朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史を理解する　２．旧石器時代から三国時代までの朝鮮考古学の内容を理解する　３．日本考古学と比較して、日本と朝鮮との歴史的な関係を考える

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	中間テストと期末テストを行い、配分は各々40%。
レポート課題	0	レポートは課しません。
上記以外	20	レスポンスカードを兼ねた出席カードで、出席を確認。出席カード代筆は、評価で0点となる。

３分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業日の前日までに、ポータルにパワーポイントの資料を登録します。これをプリントまたはノートパソコンにダウンロードして、授業時に使用してください。これが教科書です。これを基に授業を行います。そのため、あらかじめポータルから資料をダウンロードすることが事前の準備と言え

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	配布するパワーポイントの資料			
2				
3				

授業日の前日までに、ポータルにパワーポイントの資料を登録します。これをプリントまたはノートパソコンにダウンロードして、授業時に使用し

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	概説　韓国の考古学	韓国考古学会 編	同成社	978-4886216397
2	東アジアと百済土器	土田純子	同成社	978-4886217509
3				

前提学力等

履修資格

講義名	東アジア考古学概論							担当教員	土田　純子※
講義コード	1402711	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130EXC103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業の説明と朝鮮の歴史・文化概要	授業の注意と進め方の説明。朝鮮半島の地理と歴史。朝鮮考古学史。
第2回	旧石器時代の考古学	全谷遺跡からヨーロッパ・アフリカ系のハンドアックス出土。剥片尖頭器の存在。細石器。韓国の旧石器のスライド上映。
第3回	新石器時代の考古学	土器出現。北方ユーラシアに広がる幾何学文土器の一派。櫛目文土器は地域差が顕著。韓国独特の釣針・オサンリ型釣針。日本列島との交流。櫛目紋土器時代の遺物などのスライド上映。
第4回	青銅器時代の考古学	稲作の開始。無文土器も地域差が顕著。無文土器の編年。松菊里遺跡の重要性、2本柱の松菊里式住居。
第5回	初期鉄器時代の考古学	鉄器と粘土帯土器の出現。青銅器文化が最高潮に達し、様々な青銅器が出現。
第6回	原三国時代の考古学	馬韓・弁韓・辰韓の様相について、考古資料と中国三国志の記述から詳察。
第7回	前半部のまとめと中間テスト	前半部におけるまとめとそれに対する中間テストを行う。テストはオープンブック形式で行う。
第8回	三国時代高句麗の考古学1	桓仁、集安、平壌。五女山城。積石塚と壁画古墳。集安の遺跡、将軍塚、好太王碑、国内城、山城子山城。
第9回	三国時代高句麗の考古学2	平壌の遺跡、定陵寺、大聖山城。安岳3号墳。徳興里古墳。北朝鮮壁画古墳の映像。
第10回	三国時代百済の考古学1	漢城（ソウル）、熊津（公州）、泗沘（扶餘）。ソウルの遺跡、石村洞古墳群、風納土城。百済の歴史の映像。
第11回	三国時代百済の考古学2	公州の遺跡、宋山里古墳群、武寧王陵、艇止山遺跡、大壁建物。扶余の遺跡、扶蘇山城、陵山里古墳群。大壁建物の映像。
第12回	栄山江流域の考古学	栄山江流域の前方後円墳と倭系古墳。
第13回	三国時代新羅の考古学	積石木槨墳。慶州の遺跡、皇南大塚、天馬塚。積石木槨墳発掘調査の映像。
第14回	三国時代加耶の考古学	小国の連盟体。金官加耶・安羅加耶・小加耶・大加耶の考古学的様相。
第15回	後半部のまとめと期末テスト	後半部におけるまとめとそれに対する中間テストを行う。テストはオープンブック形式で行う。

担当者から一言
当たり前のことだが、授業中私語や雑音は慎むこと。

講義名	東アジア世界論							担当教員	鈴木　開
講義コード	1402712	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

東アジア世界とは何かという問題には、日本という存在が深く関係している。本講義では、「冊封体制」「朝貢体制」という用語によって説明されてきた前近代の東アジア世界の虚像と実像とを、様々な学説を紹介しながら学んでいく。

到達目標

（1）「東アジア世界」のありようを歴史的な観点から説明できるようになる。
（2）「冊封体制」「鎖国」といった東アジア世界に特徴的な国際関係のあり方を理解できるようなる。
（3）（特に社会科教員志望者）歴史研究と歴史教育の相互連関を具体例に即して理解し、実践につなげることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	学期末の定期試験期間における試験を実施する
レポート課題		
上記以外	30	平常点。出席状況や積極的な発言といった参加態度を総合的に評価する。

授業外学習

履修に際して、下記参考書の一部に目を通しておくことが望ましい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使わない。毎回、史料を中心としたプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	世界のなかの日清韓関係史（選書メチエ）	岡本隆司	講談社	
2	東アジア文化圏の形成（世界史リブレット）	李成市	山川出版社	
3	変容する近代東アジアの国際秩序（世界史リブレット）	茂木敏夫	山川出版社	

適宜、指示する。

前提学力等

特にない。

履修資格

講義名	東アジア世界論							担当教員	鈴木　開
講義コード	1402712	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	はじめに―「東アジア世界」とは何か	現代において「東アジア世界」という用語から喚起されるさまざまなイメージについて紹介する。
第2回	「冊封体制」論とその脈絡（１）	1960年代に提唱された「東アジア世界論」「冊封体制論」を紹介する。
第3回	「冊封体制」論とその脈絡（２）	「東アジア世界論」「冊封体制論」が提唱された同時代的文脈を学ぶ。
第4回	「冊封体制」論とその脈絡（３）	「東アジア世界論」「冊封体制論」への批判とその妥当性について検証する。
第5回	「中国的世界秩序」論の登場	同じ1960年代に提唱された「中国的世界秩序論」の世界史的文脈を学ぶ。
第6回	「典型的朝貢関係」論の読み方（１）	「中国的世界秩序論」を中国と朝鮮の関係に適用した「典型的朝貢関係論」の概要を紹介する。
第7回	「典型的朝貢関係」論の読み方（２）	「典型的朝貢関係論」への批判とその妥当性について検証する。
第8回	「日本型華夷秩序」論の意味	日本史分野で提唱された「日本型華夷秩序論」が「東アジア世界論」に与えた影響について学ぶ。
第9回	「朝貢システム」論への転換	歴史学分野を越える広がりをみせた「朝貢システム論」の内容と問題点を指摘する。
第10回	「互市システム」論の成果と限界（１）	「朝貢システム論」への批判として提出された「互市システム論」の意義について述べる。
第11回	「互市システム」論の成果と限界（２）	「互市システム論」の問題点について述べる。
第12回	「大清帝国史」研究がもたらしたもの	「東アジア世界論」とは別の文脈からなされた「大清帝国史研究」の諸分野への影響を紹介する。
第13回	「天朝体制」論の提唱まで	これまえの議論を踏まえて提唱された「天朝体制論」の意味について考察する。
第14回	「東アジア海域史」研究の歩み	「東アジア世界論」の新たな展開といて「東アジア海域史研究」の動向を紹介する。
第15回	おわりに―「東アジア世界論」の現在	「東アジア世界論」の現代的意味について述べる。

担当者から一言

講義名	美術史Ａ							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1402731	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業では、「絵画の中の女性と往生」というテーマを立て、中世の絵巻や掛幅などの表現を見ていく。中世の人々にとって、死んで極楽に往生することは悲願であった。そのため往生を表現する絵画は数多く制作されている。しかし誰もが往生できるわけではない。法華経には女性が男子の姿に変わって往生する話が記されている。また中世には女性に対する穢れ観から女性の往生は難しいともされていた。しかし中世の絵画の中にはそのような思想を逸脱するような表現を見出すこともできる。様々なイメージの中に、女性の往生はどのように表現されているのか、それはどのように解釈できるのかを考えていきたい。
授業では毎回パワーポイントで各作品の表現の全体および細部を見ながら話を進める。絵の表現については、それがどのように見えるか学生に意見を求め、双方向での授業を行いたい。

到達目標

(1)　造形表現の特徴や意味を理解できるようになる。
(2)　美術作品に関心を持ち、美術に表現されたものの意味を自分自身で考えられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	到達目標の(2)についてはレポートを提出する。
上記以外	30	到達目標(1)についてはレスポンスカードを提出する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史Ａ							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1402731	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	この授業の概要・目的を説明する。
第2回	往生の思想と来迎図	往生の思想や絵画について概観する。
第3回	地獄の思想と図像	地獄の思想と図像について概観する。
第4回	往生の図像（１）	往生を表す場面の諸相とその特徴を考える。 往生＝死であるが、往生する人の臨終の姿は絵では死んだ姿としては表されない。まるで生きている
第5回	往生の図像（２）	往生を表す場面の諸相とその特徴を考える。
第6回	九相図の表現（１）	死体が腐って骨になる様子を表す九相図について概観する。 九相図は死や死体の穢れを表すものであるが、その死体はほとんどの場合女性の姿で表される。しか
第7回	九相図の表現（２）	九相図の表現の意図を考える。
第8回	絵巻の中の女性と往生（１）	「掃墨物語絵巻」を概観する。この絵巻では、化粧の仕方を間違えて男に逃げられた娘が出家する話が語られる。しかし話の面白さとは別に、絵の表現から隠された意図を追及していくと、女性に対す
第9回	絵巻の中の女性と往生（２）	「掃墨物語絵巻」を考える。
第10回	絵巻の中の女性と往生（３）	「信貴山縁起絵巻」には老齢の尼が登場する。この尼は女性でありながら一人で聖なる山＝信貴山に登る。しかし聖なる山は男性の領域である。女性に対する禁忌を克服する物語を支える登場人物の性
第11回	絵巻の中の女性と往生（４）	「信貴山縁起絵巻」を考える。
第12回	絵巻の中の女性と往生（５）	「信貴山縁起絵巻」を考える。
第13回	泣く姿の意味（１）	往生場面には近親者の「泣く姿」が描かれるが、ほかの場面では「泣く姿」はどのように描かれるのか。「泣く姿」の意味について考える。
第14回	泣く姿の意味（２）	「泣く姿」の意味について考える。
第15回	意見交換	授業を通して考えたことについて意見交換を行う。

担当者から一言

講義名	美術史概論/							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1402740	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

この授業では、「絵画の中の女性と往生」というテーマを立て、中世の絵巻や掛幅などの表現を見ていく。中世の人々にとって、死んで極楽に往生することは悲願であった。そのため往生を表現する絵画は数多く制作されている。しかし誰もが往生できるわけではない。法華経には女性が男子の姿に変わって往生する話が記されている。また中世には女性に対する穢れ観から女性の往生は難しいともされていた。しかし中世の絵画の中にはそのような思想を逸脱するような表現を見出すこともできる。様々なイメージの中に、女性の往生はどのように表現されているのか、それはどのように解釈できるのかを考えていきたい。
授業では毎回パワーポイントで各作品の表現の全体および細部を見ながら話を進める。絵の表現については、それがどのように見えるか学生に意見を求め、双方向での授業を行いたい。

到達目標

(1)　造形表現の特徴や意味を理解できるようになる。
(2)　美術作品に関心を持ち、美術に表現されたものの意味を自分自身で考えられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	到達目標の(2)についてはレポートを提出する。
上記以外	30	到達目標(1)についてはレスポンスカードを提出する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史概論/							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1402740	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	この授業の概要・目的を説明する。
第2回	往生の思想と来迎図	往生の思想や絵画について概観する。
第3回	地獄の思想と図像	地獄の思想と図像について概観する。
第4回	往生の図像（１）	往生を表す場面の諸相とその特徴を考える。 往生＝死であるが、往生する人の臨終の姿は絵では死んだ姿としては表されない。まるで生きている
第5回	往生の図像（２）	往生を表す場面の諸相とその特徴を考える。
第6回	九相図の表現（１）	死体が腐って骨になる様子を表す九相図について概観する。 九相図は死や死体の穢れを表すものであるが、その死体はほとんどの場合女性の姿で表される。しか
第7回	九相図の表現（２）	九相図の表現の意図を考える。
第8回	絵巻の中の女性と往生（１）	「掃墨物語絵巻」を概観する。この絵巻では、化粧の仕方を間違えて男に逃げられた娘が出家する話が語られる。しかし話の面白さとは別に、絵の表現から隠された意図を追及していくと、女性に対す
第9回	絵巻の中の女性と往生（２）	「掃墨物語絵巻」を考える。
第10回	絵巻の中の女性と往生（３）	「信貴山縁起絵巻」には老齢の尼が登場する。この尼は女性でありながら一人で聖なる山＝信貴山に登る。しかし聖なる山は男性の領域である。女性に対する禁忌を克服する物語を支える登場人物の性
第11回	絵巻の中の女性と往生（４）	「信貴山縁起絵巻」を考える。
第12回	絵巻の中の女性と往生（５）	「信貴山縁起絵巻」を考える。
第13回	泣く姿の意味（１）	往生場面には近親者の「泣く姿」が描かれるが、ほかの場面では「泣く姿」はどのように描かれるのか。「泣く姿」の意味について考える。
第14回	泣く姿の意味（２）	「泣く姿」の意味について考える。
第15回	意見交換	授業を通して考えたことについて意見交換を行う。

担当者から一言

講義名	美術史実習							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1402741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HIS202								

授業概要

美術史を研究していく上では、実際に作品（実物）を見ることが大変重要である。作品の図版を掲載した出版物は多くあるが、それらは印刷されたものに過ぎない。オリジナルの作品は一つしかないものであり、自分の目でそれを見て、質感や大きさなどを捉えることが研究の第一歩となる。
この授業では、美術館・博物館等に足を運び、自分の目で作品を見てそれについて報告することを実施する。見学は２～３回ほどを予定している（土日祝日に実施する予定）。見学に行く場所は、京都の博物館・美術館、彦根城博物館、寺院等から、展示の予定により決める。また、授業スケジュールは、見学に行った分の時間を換算して立てる。授業スケジュールについては初回の授業で説明する。
見学前には事前勉強を、見学後には報告をしてもらう。報告内容はレポートとして提出してもらう。
履修学生がともに作品を見て意見を交換し合うことにより、美術に対する興味が高まることを期待する。

到達目標

(1)美術作品に対して興味を持ち、自分の目で作品の特質を捉えることができるようになる。
(2)美術作品の特質を自分の言葉で語ることができるようになり、作品に関する先行研究をある程度調べられるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	到達目標(2)‥見学後の授業で、一つの作品についてその特質や先行研究について報告し、レポートとして提出する。レポートは見学毎に提出する。
上記以外	40	到達目標(1)‥見学を積極的に行い、見学の際に、自分の言葉で作品の特質を語ることができるようになる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	美術史実習							担当教員	亀井　若菜
講義コード	1402741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HIS202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方について説明する。見学の日程や授業スケジュールについても知らせるので、出席すること。
第2回	見学のための事前勉強	
第3回	見学のための事前勉強	
第4回	博物館・美術館等での見学	第４回・第５回　博物館・美術館等での見学
第6回	見学後の報告	
第7回	見学後の報告・レポート提出	
第8回	博物館・美術館での見学	第８回・第９回　博物館・美術館等での見学
第10回	見学後の報告	
第11回	見学後の報告・レポート提出	
第12回	博物館・美術館での見学	第１２回・第１３回　博物館・美術館等での見学
第14回	見学後の報告	
第15回	見学後の報告・レポート提出	

担当者から一言

講義名	文化財・保存修景論Ａ							担当教員	濱崎　一志／井口　貢※
講義コード	1402920	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

歴史的環境を構成する地域文化財の保存・修景・活用について論ずる。前半では濱崎が、歴史的環境を構成する地域文化財、町なみや集落、遺構、遺跡などを調査し、その現代的意義を再評価し、現在の生活空間に再生させ活用するために、その保存や修景の方法と、保存・修景することの意義について、海外や国内の具体的な例をあげながら論ずる。後半では井口が、文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興（まちづくりや観光振興を中心に）の実態や望ましい在り方について考察していく。

到達目標

(1)地域文化財の調査、再評価、保存・活用について理解し、説明できること。
(2)地域文化財の活用したまちづくりのあり方について自らの考えを述べることができる。
(3)文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興の望ましい在り方について自らの考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)地域文化財の調査、再評価、保存・活用について理解し、説明できること、(2)地域文化財の活用したまちづくりのあり方について自らの考えを述べることができる、については濱崎の課題レポート(50%：(1)40%、(2)60%)で評価する。
上記以外		

課題レポート(80%)とレスポンスペーパー(20%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリント配布

前提学力等

履修資格

講義名	文化財・保存修景論Ａ							担当教員	濱崎　一志／井口　貢※
講義コード	1402920	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	空き家問題とまちづくり	空き家の増加は集落の防犯や防災、景観などに悪影響を及ぼすだけでなく、集落機能の衰退をも引き起こす。空き家問題の解決とまちづくりについて概説する。
第2回	古民家の保存と活用	古民家の保存と活用について事例をあげて解説する。
第3回	地域文化財の保存と活用	地域文化財の保存と活用について事例をあげて解説する。
第4回	伝統的建造物群保存地区とまちづくり	重要伝統的建造物群保存地区に選定された彦根の芹町河原町、近江八幡市、東近江市五個荘金堂、大津市坂本を事例として解説する。
第5回	遺跡の保存と活用(1)	遺跡の復原とそのあり方について国内の遺跡を事例として解説する。
第6回	遺跡の保存と活用(2)	遺跡の復原とそのあり方についてパキスタン、シリアの遺跡を事例として解説する。
第7回	文化的景観の保存と活用	重要文化的景観に選定された近江八幡円山・白王や米原市東草野を事例として取り上げ、保存と活用を進める上での諸問題について解説する。
第8回	文化財のオーセンティシティ	文化財の保存と活用に際し、忘れてはならない文化財のオーセンティシティについて解説する。
第9回	まちづくりと観光振興	まちづくりと観光の関係性・・・結果か目的か
第10回	文化財と観光	観光振興と静態保存、動態保存
第11回	町なみ保存と観光まちづくり	金沢、岐阜、名古屋などの都市観光の事例を中心に
第12回	町なみ保存と観光まちづくり	足助、郡上八幡などの事例を中心に
第13回	生活遺構をまちづくりに活かす	近江八幡の事例を中心に
第14回	産業遺産と産業観光	名古屋圏と観光振興
第15回	まとめとレポート	まとめ

担当者から一言

講義名	文化財情報論							担当教員	石川　慎治／濱崎　一志
講義コード	1402940	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HER202								

授業概要

文化財に関する視覚的な情報をどのように取り扱うかについて講義する。３次元モデルの構築、レンダリングやアニメーションの作成、２次元画像情報の処理などを，AutoCAD、3D Studioなどを用いて実際にデータを入力しながら説明する。

到達目標

(1)３次元で図形を描くことの基礎を理解する。
(2)３次元で古建築を描くことの基礎を理解し、３次元モデルを作成することができる。
(3)作成した古建築の３次元モデルを用いてアニメーションを作成し、視覚的に表現することができる。
(4)写実的なアニメーションを作成するため、３次元モデルに貼り付ける２次元データを処理することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す(1)３次元で図形を描くことの基礎を理解する、(2)３次元で古建築を描くことの基礎を理解し、３次元モデルを作成することができる、(3)作成した古建築の３次元モデルを用いてアニメーションを作成し、視覚的に表現することができる、(4)写実的なアニメーションを作成するため、３次元モデルに貼り付ける２次元データを処理する

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

各自が学部情報室において復習をおこない、疑問点があれば質問に来ること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配付

前提学力等

履修資格

講義名	文化財情報論							担当教員	石川　慎治／濱崎　一志
講義コード	1402940	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HER202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	文化財を情報処理するにあたっての課題	文化財に関する視覚的な情報をどのように取り扱うかについて概説する。
第2回	AutoCADの基礎	CADの基礎について概説する。唐招提寺金堂の実測図からどのようにデータを取り出すかについて説明する。
第3回	AutoCADを用いた３次元モデルの構築(1)	唐招提寺金堂の基壇と階段の作成
第4回	AutoCADを用いた３次元モデルの構築(2)	唐招提寺金堂の礎石、柱の作成
第5回	AutoCADを用いた３次元モデルの構築(3)	唐招提寺金堂の梁、桁の作成
第6回	AutoCADを用いた３次元モデルの構築(4)	唐招提寺金堂の屋根、組物の作成
第7回	3D Studioの基礎	アニメーション作成の基礎について概説する。
第8回	3D Studioを用いた３次元モデルのフォトリアリスティック・レンダ	マテリアルを貼り付けたフォトリアリスティック・レンダリングについて概説する。
第9回	Photo Shopの基礎	Photo Shopの基礎について概説する。
第10回	PhotoShopを用いたマテリアル作成	フォトリアリスティック・レンダリングに用いるマテリアルの作成について詳述する。
第11回	PhotoShopを用いたマテリアル作成の応用	フォトリアリスティック・レンダリングに用いるマテリアルの作成について試行錯誤を繰り返す。
第12回	3D Studioを用いた３次元モデルのアニメーションの作成	AutoCADで作成した唐招提寺金堂の３次元データにマテリアルを貼り付け、フォトリアリスティックなアニメーションを作成する。
第13回	Illustratorを用いたプレゼンテーションの基礎	Illustratorを用いたプレゼンテーションの基礎について概説する。
第14回	Illustratorを用いたプレゼンテーションの応用	3D Studioで作成したフォトリアリスティックな静止画を用いてポスターを作成する。
第15回	大型スキャナーを用いた背景画像の作成	背景画像として用いる大判の画像や地図の取り込みについて概説し、分布図の作成などに応用する。

担当者から一言

講義名	文化社会学							担当教員	武田　俊輔
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C201,235S0C304								

授業概要

本講義は，近現代の日本における観光や開発，地域おこしと呼ばれる現象が，地域社会とそこに住む人々に対してどのような影響を与えるのかについて，地域社会における「伝統的」とされる芸能や祭りの変化，そしてその担い手である地域住民の暮らしの変化を切り口として，考えていく視点を手に入れてもらうことをねらいとしている。祭り・芸能を手がかりとした講義だが，それらへの美学的関心というより，地域社会における政治的・経済的な状況，観光や地域振興と地域文化とを結びつけて考えていくことに対する関心を持つ人向けの講義である。

到達目標

(1)「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できるようになる。
(2)「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る。
(3)「伝統」文化の創造と再編成の中で、人々がどのような影響を受け、またそうした状況をどのように活用しているのかについて考察できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	(1)「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できる(30%)。 (2)「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る(30%)。
上記以外		

レスポンスカードの内容に基づいて加点する場合がある（5点以内）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ふるさと資源化と民俗学	岩本通弥編著	吉川弘文館	4642081909
2	長浜曳山祭の過去と現在	市川秀之・武田俊輔（編著）	おうみ学術出版会	4883256154
3				

授業中にレジュメを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	文化社会学							担当教員	武田　俊輔
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C201,235S0C304								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	講義全体の概要を説明する。
第2回	地域社会の衰退と文化をめぐる政治	なぜ地域社会において文化や祭礼などを通した観光化や地域おこしが必要とされるのか、そもそも衰退を招いた政治的な原因について論じる。
第3回	創造される「地域イメージ」	1930年代における祭礼や民俗芸能、民謡を通じた地域おこしの流行と「伝統の創造」、そしてそれがもたらした帰結を論じる。
第4回	和太鼓の近代と「伝統」イメージ	戦後日本における伝統的な「和太鼓」のイメージが、メディアを通じていかに「創造」されたかを論じる。
第5回	保存と観光をめぐる疑似対立	一見すると伝統を保存するということと、観光化は矛盾するように見えるが、実際にはその両者は結びついている。そのメカニズムを論じる。
第6回	文化財をめぐるディスコミュニケーション	「文化財」という保存のための仕組みが、実際には全く違った帰結を生み出すメカニズムを論じる。
第7回	「昔のまま」「伝統」というリアリティ	明らかに「伝統の創造」と思われるにもかかわらず、それが地域住民からは「伝統」と主張され、それが正当性を帯びるのはなぜかについて論じる。
第8回	文化財を拒む人々	祭礼の存続において、「文化財」という冠をあえて拒否する人々の祭礼への考え方について論じる。
第9回	祭礼における社会的文脈の流用	文化財であること、観光の目玉であること、そうした様々な社会的な文脈を活用しつつ、祭礼の担い手が祭礼を存続させていくプロセスを論じる。
第10回	地域社会における文化の流用と再創造（１）	文化の客体化論を中心に、担い手が自らの文化を「観光」という文脈に合わせて再構築していくプロセスを論じる。
第11回	地域社会における文化の流用と再創造（２）	日本国内におけるエスニック・マイノリティが自らの存在を日本社会で主張する上で、いかに文化を流用するのか、そのプロセスを論じる。
第12回	唄のルーツと重なり合う声	唄が人から人へ、地域から地域へと伝播していく中で、いかに創造され、また変容していくのかについて論じる。
第13回	反原発運動と祭りをめぐる相剋	原発に抗して自らの農業や漁業に根ざした暮らしを守ろうとする住民が、いかにして祭礼をそのシンボルとして復活させているかについて論じる。
第14回	ユネスコ無形文化遺産をめぐって	日本における国指定重要無形民俗文化財に指定されている山車・鉾・屋台行事が、ユネスコ無形文化遺産の登録候補となっている。このことが担い手や地域社会にもたらしている現状を論じる。
第15回	まとめ	講義全体のまとめを行う。

担当者から一言
授業内で映像や音声資料を用い、その内容を前提として講義するため、欠席しないこと。

講義名	文化人類学概論Ａ							担当教員	島村　一平
講義コード	1402960	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH204,137BAC104								

授業概要

文化人類学は，異文化理解のための学問であると同時に、自文化理解のための学問でもある．国境を越えて様々な人々が行き交う現代，文化人類学が生み出してきた異文化理解の方法論は，益々，重要性を持つものだと考えられる．
　俗に日本の常識は世界の非常識という。「世界の常識」というものが存在するかどうかは不明であるが、皆さんの身の回りの「常識」は、果たして「常識」なのだろうか。
　本講義ではこうした「常識」の自明性について再考し、「あたりまえ」的思考からの脱却をめざす。進度に応じて多少の内容の変更の可能性がある。

到達目標

１）文化人類学の鍛えてきた基礎理論を学ぶことで、異文化理解の基礎的な方法を身に着けることができる。
２）まずは偏見を持たずに外国の文化と接するための基礎的なものの考え方が身に付く。３）一見すると我々の文化とはかけ離れている遠い国や地域の文化の中に我々の文化と同じ普遍性が見いだせるようになる。
４）我々日本人が持つ「正しさ」や「当たり前」が、必ずしも普遍的な価値を持つものではないことも理解できるようになる。（日本の文化を相対的に眺めるという視点を身に着けることができるようになる）。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	穴埋め試験・・・文化人類学の基礎的な理論を理解できているか。あるいは著名な文化人類学者の名前なども問う。 記述試験・・・論理的であること。文化人類学の概念を正確に理解できていること。発想にオリジナリティがあるこ
レポート課題	40	論理的であること。文化人類学の用語が正確に理解し、使えていること。ネット情報だけに頼らず、文献も調べていること。
上記以外		授業期間中に発言をした学生は、一回につき1点を加点していきます。

授業外学習

各回の該当する教科書の部分は、事前に読んでおくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	文化人類学カレッジ版	波平恵美子	医学書院	9784260013178
2	文化人類学キーワード	山下晋司・船曳建夫	有斐閣	978464105886
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	よくわかる文化人類学	綾部恒雄・桑山敬己	ミネルヴァ書房	4623045773
2	よくわかる異文化コミュニケーション	池田理知子	ミネルヴァ書房	9784623056095
3				

前提学力等

特になし。

履修資格

講義名	文化人類学概論Ａ							担当教員	島村　一平
講義コード	1402960	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH204,137BAC104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス：異文化理解の方法論としての文化人類学	文化人類学とは、どのような学問なのかを概観します。さらに、それが異文化理解の方法としてなぜ有効なのかを考えていきます。
第2回	人間と文化	文化人類学の基礎概念である「文化相対主義」について学びます。
第3回	文化人類学と質的研究Ⅰ	文化人類学的フィールドワークでは、「質的な思考」や「質的研究」を重要視します。ここで質的研究とは何なのかを学びます。
第4回	文化人類学と質的研究Ⅱ	文化人類学の方法論であるエスノグラフィーについて学びます。 教科書『カレッジ版文化人類学』第2章p.32－p.49
第5回	ディスカッション	これまでの講義の内容についてディスカッションを行います。テーマは、「自文化を相対化する」「やってみたい質的調査」などを予定しています。
第6回	他者性と西洋近代	「異文化」という言葉に代表される［他者化」の背後に潜む歴史を紐解きます。 ミネルヴァ書房『よくわかる文化人類学』ｐ．174-177
第7回	人生と通過儀礼	われわれは人生の中でさまざまな通過儀礼を経験します。ここでは通過儀礼とは何か、その説明原理である境界理論などを学びます。
第8回	儀礼の構造とコミュニタス	ファンヘネップの「儀礼の構造」論やターナーの「コミュニタス」論を学びます。時間や空間の人為性という概念を理解します。
第9回	宗教と世界観Ⅰ：文化人類学と宗教・邪術	人類にとって普遍的な宗教現象や宗教意識の深奥にまでさかのぼって考察します。今回は、宗教やその大元となる呪術的思考の源泉まで、ふれて人間にとって宗教とは何かという問題に迫っていきま
第10回	宗教と世界観Ⅱ：妖術・シャーマニズム・宗教と民族復興	ここでは災厄の説明原理としての「妖術」やシャーマニズムについて学びます。また、宗教が民族復興と関連していることについて学びます。
第11回	宗教と世界観Ⅲ：グローバル化時代における宗教	この回では、グローバル化する世界と宗教の問題について考えていきます。
第12回	ディスカッション	これまでの講義内容についてディスカッションを行います。テーマは、「近代化と妖術と邪術」「宗教と民族問題」などを予定しています。
第13回	異文化接触	この回では、異文化接触において、コンフリクトがおきるのが当然と思いがちだが、いかにしてコンフリクトが生まれたり、そのきっかけとなる偏見が生まれるのか、そのメカニズムを明らかにしま
第14回	「日本人論」を相対化する	日本人とは何か、という問題について、欧米を中心にした外国のみならず日本でも多くの議論がなされてきました。我々はなぜ「日本人論」がすきなのか。欧米が描く日本人論と何が違うのか。考察を
第15回	ディスカッション	これまでの講義内容についてディスカッションを行います。

担当者から一言

講義名	文化人類学概論Ｂ							担当教員	棚瀬　慈郎
講義コード	1402970	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH205,137ILA101								

授業概要

文化人類学において蓄積されてきた知見のうち、１）親族研究、２）医療人類学、３）「死」とそれにまつわるシンボリズムと儀礼の研究を中心に論じる。

到達目標

文化人類学の広範な学問的蓄積の中で、特に親族研究についての理論、知見についての知識の獲得を目指す。また医療人類学や葬送儀礼についても学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	１００	講義で紹介してきた文化人類学の理論や用語、代表的な研究、事例についての理解度を評価基準とする。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	文化人類学（カレッジ版）	波平恵美子	医学書院	9784260013178
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	文化人類学概論Ｂ							担当教員	棚瀬　慈郎
講義コード	1402970	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH205,137ILA101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	民族生殖理論	生殖に関する民族的な理論は、文化や時代によって大きく異なる。その文化人類学における研究について概観する。
第2回	親子関係	
第3回	婚姻と家族	
第4回	婚姻と家族	
第5回	婚姻と家族	
第6回	社会的交換	
第7回	社会的交換	
第8回	クラン、リネージ	
第9回	擬制的親子関係	
第10回	日本の家	
第11回	医療人類学	
第12回	医療人類学	
第13回	死についての観念	
第14回	葬送儀礼と先祖観	
第15回	現代医療と死	

担当者から一言

講義名	文化人類学特論							担当教員	棚瀬　慈郎
講義コード	1402980	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH206,337ILA205								

授業概要

人間は、その文化に固有の宇宙観、生命観に従って、人間の誕生、性、死を意味づけてきた。講義の中では、豊富な文化人類学的資料を提示し、そういった普遍的な人間事象が各文化においてもつ意味を考察する。
また現代的な医療システムの浸透は、人間の生と死のあり方を大きく変化させつつあるが、現代における誕生、性、死の問題についても検討する。

到達目標

性、誕生、死といった人間の普遍的な事象を考察することを通じて、文化の特殊性と、人間存在の普遍性についての考察を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	１００	授業中に紹介した文化人類学のタームや理論についての理解度を評価基準とする。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	文化人類学特論							担当教員	棚瀬　慈郎
講義コード	1402980	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	2300TH206,3371LA205								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	民俗生殖理論	文化人類学における理論の紹介と、具体的事例についての検討
第2回	民俗生殖理論（２）	
第3回	出産の社会的意味	
第4回	生殖医療	
第5回	親子関係	
第6回	様々な家族の形	
第7回	婚姻（１）	
第8回	婚姻（２）	
第9回	婚姻（３）	
第10回	ジェンダーについて	
第11回	性を考える	
第12回	様々な性の形	
第13回	人間と死（１）	
第14回	人間と死（２）	
第15回	人間と死（３）	

担当者から一言

講義名	民俗学							担当教員	市川　秀之
講義コード	1403020	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER103								

授業概要

民俗学はわれわれが過ごしている日常生活の意味を問い直す学問である。滋賀県の民俗は、古くから多くの民俗学者の研究対象となり、そこからさまざまな民俗学的知見が生成されてきた。宮座論・環境民俗学など滋賀県を母胎として誕生した研究領域も多い。この授業では、過去の研究や調査成果を紹介し、近江の民俗を具体的な事例としながら、民俗学全体を概括的に解説する。
　この授業は民俗学特論や民俗学実習の基礎科目としての位置づけを持つ。

到達目標

（1）民俗学の基本的な用語を理解すること
（2）民俗の基本的な概念を理解し、それを文章の形で表現すること
（3）フィールドワークの基礎を身につけること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	４０	・民俗学の基本的な用語を理解すること （語句説明） ・民俗の基本的な概念を理解し、それを文章の形で表現すること（記述式）
レポート課題	２０	年中行事の観察や聞き取りをおこない、その成果を文章で表現する
上記以外	４０	毎回提出するレスポンスカードを通じて、各授業の内容を理解しているか否かを評価

レポートを提出しないと評価対象にしない

授業外学習

　宿題は特に課さないが、毎回授業のあとで提出するレスポンスカードの内容については評価対象とする。レスポンスカードへの回答は次回に配布するので熟読すること

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめて学ぶ民俗学	市川秀之ほか	ミネルヴァ書房	
2				
3				

毎回レジュメを配布する。

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	民俗学							担当教員	市川　秀之
講義コード	1403020	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	130HER103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	民俗学とは	授業の進め方について説明・柳田國男・二つのミンゾクガク・伝承・民俗学とは？について講義
第2回	年中行事	ハレ、ケ、ケガレ・新暦と旧暦・正月と盆・農耕儀礼について講義
第3回	山の信仰	山岳信仰・修験道の山・木地師について講義
第4回	民間信仰	民間信仰とは・山の神・野神・大将軍について講義
第5回	境界	モンゴルのオボー・ムラの境・境界の多様性・境界祭祀の類型・村落空間の中での境界・境界の性格、について講義
第6回	宮座	宮座とは・宮座の類型・宮座の組織、について講義
第7回	宮座の歴史	宮座の成立・近世における身やあの変質・近代での変化、について講義
第8回	墓制	滋賀県下の墓制・墓制の類型・墓標、について講義
第9回	オコナイ	オコナイの源流・湖北のオコナイ・湖南のオコナイ、修正会からオコナイへ、について講義
第10回	イエと家族	イエと家族・相続の類型・インキョ・滋賀県におけるイエ、について講義
第11回	婚姻	婚姻の歴史・配偶者の選択・民俗事例からみた日本の社会と婚姻、について講義
第12回	村落組織	ムラ、村、集落・ムラの成員・ムラの下部組織・情報の伝達・寄り合い、について講義
第13回	ふなずしの系譜	近江のふなずし・日本のおけるすしの類型と変化・ふなずしのふるさと、について講義
第14回	都市・現代の民俗学	都市民俗学・都市民の信仰・都市祭礼・新たな年中行事、について講義
第15回	環境民俗学	環境民俗学とは・環境民俗学の視点、について講義

担当者から一言

講義名	民俗学実習							担当教員	市川　秀之
講義コード	1403030	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER205								

授業概要

民俗学の基本的な実務の習得をめざす。具体的には民具の観察・実測、石造物の調査、聞き取り調査、祭礼観察調査などの実習を行う。

到達目標

（1）民俗学研究に必要な実測技術、写真撮影技術などを習得すること。
（2）聞き取り調査、祭礼などの観察調査を計画的に実施し、その成果をまとめ、発表する能力を身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	１００	授業における態度や、成果物（実測図・トレース・写真など）・発表内容などをもとに評価する

授業外学習

授業時間外で、聞き取り調査や祭礼観察調査をまとめ、そのデータを提出する。２回

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

民俗学を履修していること。

履修資格

講義名	民俗学実習							担当教員	市川　秀之
講義コード	1403030	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	230HER205								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	民具の観察	さまざまな民具を観察しその特色について学ぶ
第2回	民具の実測１	民具の実測方法を実践を通じて学ぶ
第3回	民具の実測２	民具の実測方法を実践を通じて学ぶ
第4回	民具の実測３	民具の実測方法を実践を通じて学ぶ
第5回	民具の実測４	民具の実測方法を実践を通じて学ぶ
第6回	民具のトレース	民具の実測図のトレースの技法を学ぶ
第7回	民具の写真撮影	民具の写真撮影の方法について学ぶ
第8回	聞き取り調査１	報告書などによって具体的なフィールドの民俗の概要を調べる
第9回	聞き取り調査２	調査地の民俗の概要を報告する
第10回	聞き取り調査３	調査地における質問項目を報告する
第11回	聞き取り調査４	調査成果を報告する
第12回	石造物調査	拓本など石造物調査について必要な技法を学ぶ
第13回	祭礼調査１	祭礼の参与観察調査の方法を学ぶ
第14回	祭礼調査２	具体的な祭礼について概要を報告する
第15回	祭礼調査３	見学した祭礼調査の成果を報告する

担当者から一言

講義名	民俗学特論							担当教員	市川　秀之
講義コード	1403031	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER304								

授業概要

民俗の歴史的な変化を検討するのが歴史民俗学である。そのためにどのような資料をどのように用いるのかをこの授業では具体的に講義していきたい。古文書・日記から石造物にいたる具体的な資料を紹介しながら、その分析方法についても講義することとしたい。

到達目標

（1）歴史民俗学における基本的な概念・用語などを理解する。
（2）歴史民俗学における資料の利用法について理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０	民俗学における基本的な概念・用語・資料操作方法などを十分理解しているか否かを評価する
レポート課題		
上記以外	４０	毎回提出するレスポンスカードの内容から、授業の理解度を評価する

授業外学習

授業はレジュメをもとに行うが事前に配布したものについては熟読しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回レジュメを配布する

前提学力等

民俗学を受講していること。2年次・3年次での履修が望ましい。

履修資格

講義名	民俗学特論							担当教員	市川　秀之
講義コード	1403031	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	330HER304								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	歴史民俗学	授業の進め方について説明・民俗学とは・初期柳田における民俗学と歴史学・地域歴史民俗学における資料論、について講義
第2回	諸国風俗問状答を読む	諸国風俗問状答をもとに近世の民俗と史料について講義
第3回	中世の日記	中世の日記をもとに、中世の民俗と史料について講義
第4回	近世の日記	近世の日記をもとに近世の民俗と史料について講義
第5回	古代・中世の絵図	古代・中世の絵図をもとに、絵図に描かれた民俗について講義
第6回	近世・近代の絵図	近世・近代の絵図をもとに、絵図・地図から読み取れる民俗について講義
第7回	中世史料と民俗	中世の古文書をもとに、中世の民俗と史料について講義
第8回	近世家文書と民俗	近世の家文書をもとに、近世の民俗と史料について講義
第9回	年中行事書と民俗	年中行事書をもとに近世の民俗と史料について講義
第10回	近世村文書と民俗	近世村文書をもとに、近世の民俗と史料について講義
第11回	近代公文書と民俗	近代公文書をもとに、近代の民俗と史料について講義
第12回	絵画資料の利用	絵巻物・絵馬などの絵画資料に描かれた民俗について講義
第13回	墓石の利用	墓石の悉皆調査の成果から読み取れる民俗の変化について講義
第14回	信仰的石造物	信仰的石造物を紹介し、そこから読み取れる民俗について講義
第15回	まとめ	地域歴史民俗学における資料について整理し、民俗の歴史的な変化についても講義

担当者から一言

講義名	モンゴル地域文化論/							担当教員	島村　一平
講義コード	1403070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

本講義では，モンゴル遊牧社会が生み出した文化の魅力をさまざまな側面から描き出していきたい．扱う主なテーマは音楽，宗教，民族問題である。音楽に関しては、民族音楽のみならず，現代の都市の若者たちの間で流行しているポピュラー音楽から，現代モンゴル社会のもつ諸問題を概観していきたい。民族問題に関しては，ロシア，モンゴル．中国の三カ国に分断されて居住するモンゴル系の集団ブリヤート人の歴史と社会に焦点を当てて話を進めていきたい．中でも，シャーマニズムとエスニシティの関係を中心に論じていく．

本講義は国際コミュニケーション学科の「アジア文化論C」を読み替えることで単位が取得されます。受講希望者は、アジア文化論Cを見ること。

到達目標

モンゴル文化の諸側面を理解する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	試験で100%評価する。記述式試験。
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

遊牧社会論を履修していることが望ましい

履修資格

講義名	モンゴル地域文化論/							担当教員	島村　一平
講義コード	1403070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概論	モンゴルという国について概観する。

講義名	量的データ解析論Ⅰ							担当教員	丸山　真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C206,235S0C204								

授業概要

この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。あわせて統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計学に関する理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。

到達目標

（1）社会統計のデータを整理・分析する基礎知識（記述統計と推測統計の基礎）を習得する。
（2）統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	到達課題の（1）と（2）について、実際の量的データを分析して作成するレポート課題を課す。
上記以外	70	到達課題の（1）と（2）について、実際の量的データを分析して作成する小課題を課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会統計学	ボーンシュテット・ノーキ	ハーベスト社	
2	社会統計学ベイシック	片瀬一男ほか	ミネルヴァ書房	
3	SPSSによる多変量解析	村瀬洋一ほか編	オーム社	

参考書は授業の中で指示する。

前提学力等

社会調査論、統計学基礎が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

履修資格

講義名	量的データ解析論Ⅰ							担当教員	丸山　真央
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C206,235S0C204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方とパソコンの使用法について説明する。
第2回	統計資料の集め方、使い方、まとめ方：既存統計資料の活用法、二	既存統計資料の活用法と二次分析について学ぶ。
第3回	グラフの基本	グラフの基本について学ぶ。
第4回	量的データとは何か：量的調査のプロセス、変数と尺度、調査票の	量的調査のプロセス、変数と尺度について学ぶ。調査票について説明する。
第5回	多様な分析の方向性（1）：記述統計と推測統計、仮説検証と探索	記述統計と推測統計、仮説検証型の分析と探索型の分析について学ぶ。
第6回	多様な分析の方向性（2）：仮説とモデル構築	仮説と分析モデルについて学ぶ。
第7回	SPSSの基本的な操作法、度数分布表	SPSSの基本的な操作法について説明する。度数分布表について学ぶ。
第8回	変数の加工、代表値とばらつき	変数の加工法について説明する。代表値とばらつきについて学ぶ。
第9回	2変数のクロス集計	2変数のクロス集計について学ぶ。
第10回	関連性を表す統計量：関連性とは何か、相関係数	関連性を表す統計量について学ぶ。
第11回	3変数のクロス集計：関連と因果、擬似相関、エラボレーション	3変数のクロス集計について学ぶ。
第12回	統計的推定と統計的検定	統計的推定と統計的検定について学ぶ。
第13回	独立性の検定と比率の差の検定	独立性の検定と比率の差の検定について学ぶ。
第14回	平均の差の推定と検定：t検定とF検定	平均の差の推定と検定について学ぶ。
第15回	まとめ	授業全体のまとめをおこなう。

担当者から一言
社会調査士資格認定科目（C科目）

講義名	量的データ解析論II							担当教員	岡本　裕介※
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C207,335S0C311								

授業概要

人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げる。

到達目標

(1)各手法の基本的な考え方を身に着けること（これが主たる目的）。
(2)計算の概要、統計パッケージの出力の見方を理解し、各手法の誤用を避けられるようになること。
(3)研究事例や歴史を紐解いて、具体的な問題意識との関連を考えられるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	演習問題を解いて提出する。多変量解析の場合、分析者の裁量の余地があるので、正解は1つではないが、基本的な注意事項をふまえて解答しているかどうかを評価基準とする。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布する。講義中に随時推薦する。

前提学力等

統計学基礎、量的データ解析論Ｉが既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

履修資格

講義名	量的データ解析論II							担当教員	岡本　裕介※
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230S0C207,335S0C311								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	多変量解析とは、表計算ソフトと統計パッケージの利用、その注意点
第2回	重回帰分析(1)	重回帰分析とは、研究事例、説明変数選択の方法、多重共線性の問題
第3回	重回帰分析(2)	独立変数にカテゴリーデータを使う場合、数量化理論I類
第4回	重回帰分析(3)	統計パッケージの出力、使用時の注意点、報告書に書くべきデータ
第5回	重回帰分析(4)	演習問題
第6回	因子分析(1)	因子分析とは、歴史、研究事例、主成分分析、共通性と独自得点
第7回	因子分析(2)	因子抽出、回転の諸方法、不適解
第8回	因子分析(3)	因子得点の推定、尺度値
第9回	因子分析(4)	統計パッケージの出力、使用時の注意点、報告書に書くべきデータ
第10回	因子分析(5)	演習問題
第11回	林の数量化理論	数量化理論とは、種類、研究事例、他のカテゴリカル・データ分析法
第12回	数量化理論III類(1)	数量化理論III類とは
第13回	数量化理論III類(2)	統計パッケージの出力、主成分分析による出力との比較
第14回	数量化理論III類(3)	演習問題
第15回	総合演習問題	復習と演習問題

担当者から一言

講義名	歴史的地域論							担当教員	水野　章二
講義コード	1403210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS210								

授業概要

地域社会を構成するイエ・ムラなどの基礎的な集団やその相互の関係が、どのように歴史的に形成され、変化していくかを明らかにする。文献史学・歴史地理学・考古学・民俗学などの成果を総合しながら、自然的社会的諸条件が地域を構成する諸集団の編成原理や秩序のあり方にどのように関わるのかを考える。

到達目標

（1）重層的に成立し、時間の中で変化していく地域社会のあり方が理解できる。
（2）最も基礎的な社会集団であるイエ・ムラなどの歴史的役割が理解できる。
（3）地域社会を成り立たせている景観的特質とその変容が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	（1）重層的に成立し、時間の中で変化していく地域社会のあり方が理解できる。　２０％ （2）最も基礎的な社会集団であるイエ・ムラなどの歴史的役割が理解できる。　３０％ （3）地域社会を成り立たせている景観的特質とその変容が理解できる。　２０％
レポート課題		
上記以外	30	到達目標各項目について、理解度を確認し、質問させるレスポンスペーパーを随時提出。

授業外学習

関連する著書・論文を各自で読み込む。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本中世の村落と荘園制	水野章二	校倉書房	4-7517-3090-8
2	琵琶湖と人の環境史	水野章二編	岩田書院	978-4-87294-691-8
3	中世村落の景観と環境	水野章二編	思文閣出版	4-7842-1198-5

前提学力等

履修資格

講義名	歴史的地域論							担当教員	水野　章二
講義コード	1403210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	230HIS210								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域社会の分析視点	一定の空間と人間集団を前提とし、重層的で多様な内容を含む地域という概念を整理するとともに、変容をとげていく地域社会を歴史学的に考えていくための基本的な方法について説明する。
第2回	古代・中世のイエ	地域社会を構成するもっとも基礎的な単位であるイエという言葉には、家族などの身近な人間集団をさすとともに、区画された空間・敷地という意味があった。イエの意味の変化をたどりながら、イエ
第3回	イエの発展	古代のイエは人的にも空間的にも流動的な側面が強いが、平安後期には民衆レベルにおいても明確な区画を有する屋敷地が確立し、税負担の単位にもなる。家業の成立や開発地の地名が苗字になる過程
第4回	イエ支配の強化	イエの確立過程で、父（夫）権・家長権・主人権などのイエの内部をコントロールする諸権限が強化されていく。イエの財産の管理や侵入者からの防衛・女敵討ちなど、さまざまなイエ支配の実態につ
第5回	イエ社会論と日本社会の特質	王家・摂関家や鎌倉幕府をはじめ、中世社会のさまざまな権力体は拡大されたイエという編成原理をとった。江戸時代の藩や近代のイエ型企業など、イエは日本社会を貫く重要な組織原理となるが、そ
第6回	イエとムラ	ムラはイエの連合体であり、小村・散村から集村まで多様な形態があるが、平地部では中世を通じてイエが一カ所の集中する集村に変化していく。イエとムラがどのような関係になるのか、畿内の具体
第7回	ムラの成立と変化	百姓のイエの発展はムラの確立をもたらすが、ムラ内の開発が飽和していくと、個々のイエの独立性を制限して、ムラ全体の再編・強化が図られていく。ムラの再編過程を畿内の事例から考える。
第8回	ムラの空間構造	中世のムラは、集落・耕地・近隣山（里山）・奥山という空間構成をとるが、それぞれの空間がどのような意味があり、どのように変化していくのかを明らかにするとともに、村境の意味・儀礼につい
第9回	村落景観の復原	古い時代の文献史料の多くは、支配者が支配のために作成したものである。民衆の実態を明らかにするためには、さまざまな方法やフィールドワークが不可欠になるが、丹波や近江などを事例に、村落
第10回	ムラの掟と戦争	規制力が強化されたムラでは、独自の村掟を作成し、裁判を行うとともに、耕地や山、さまざまな権利などをめぐって、近隣の村々や領主と闘うことがあった。菅浦文書・今堀日吉神社文書などの近江
第11回	ムラと宗教	古代では支配者に独占されていた仏教は、平安期を通じて次第に社会に浸透し、ムラにはさまざまな神仏が配置される。中世には、生産・生活、科学と宗教は重なり合い、現実世界と宗教世界は連動し
第12回	災害対応と村落	ムラの存続にとって、自然との闘いも重要であった。科学技術の未熟な社会では、自然の猛威には勝てず、災害と共存するより他はなかった。災害をどのように認識し、どのように対応したのかを明ら
第13回	村落立地と環境利用	海湖岸村落では、農業以外にも漁撈採集や廻船など、さまざまな生業が営まれていたが、環境変動によって大きな影響を受けた。山間村落においても事態は同じであり、多様な環境と生産・生活につい
第14回	近江村落の特質	前近代の近江は都の至近に位置していたため、東・北日本の文物が近江を経由して都へ運ばれるとともに、都を直接支えるさまざまな物資や人の供給地ともなった。豊かな村落文化を発達させた近江地
第15回	まとめ	地域社会の基礎単位であるイエ・ムラが、どのように歴史的に形成され、変化していったのかを整理し、確認する。

担当者から一言